

今月の発信—あこら新宿



234号

北京会議と 日本の地方自治体の 取り組み

—47都道府県・12政令指定都市全調査—



母を語る 6

母と父——育てあい、磨きあった人生
寿岳 章子

記録・北京会議

遠くて近い北京、そして世界を思いつつ 斉藤 千代 1

北京会議における日本のマスメディア・地方自治体・NGOの活動を調査して 2

北京会議と地方自治体の取り組み 6

アンケート集計表(表1―表23) 28

気になる英語 オランダ 奥川 睦 68

TOPICS 介護保健法ついに成立／労基法改悪にNO! ほか 70

集会から「戦争と女性への暴力」国際会議／東京女性財団自主活動・自主研究助成報告会 ほか 74

沖縄から 女たちは立ち上がる!―海上ヘリポート基地阻止へ向けて― ほか 80

阪神から 「災害被害者等支援法」実現へ向けて、議員も被災者も動く 82

〈母を語る5〉母と父―育てあい、磨きあった人生 寿岳 章子 84

語りかけたいあなたへ 9 パチンコ 大里 知子 118

観る ASEANの虹の舞 120

あこら試写室 住民が選択した町の福祉 羽田 澄子監督 122

あこらのあこら 125

遠くて近い北京、そして世界を思いつつ

斎藤千代

遠い昔のことも昨日のことものようにも思われる北京会議から二年が経った。九五年九月帰国直後、〈あこら〉の速報を出した後、過去三回の会議よりはもう少し広く目配りした記録集を、と思いながら、発行は遅れに遅れた。

折しも沖縄の少女暴行事件が勃発、五十年間のヤマトンチュの怠惰を明らかにした。「平和」を運動の中心に置き、北京でも専ら平和につながるワークショップを開きながら、この事態に目をつぶることはできない。朝も夜も、沖縄を軸とした人権運動に明け暮れた。記録集のまとめに東京女性財団の助成金を頂いたおかげで、辛うじて報告書を出した。それが九六年度「自主活動・自主研究助成報告会」の全体報告で二十三組の研究の中からたった二つの一つに選ばれ、発表することになろうとは夢にも思わなかった。

十二月六日、東京ウイメンズプラザホールでOHPを使って、報告の中の地方自治体に関連する部分を紹介した。講評をされた東京女学館短大長の久留都茂子先生からは過分のおほめを頂いたが、心の中には「至らなかつた」という思いだけが大きい。しかし、あらゆる情報の開示が迫られている今、さまざまな立場上の問題をかかえながら、多くの方々が協力してくださった結果得られた情報を、闇に葬るわけにはいかない。当日の報告の概要をこの号に掲載した。

二〇〇〇年の世界女性会議はどこなのか、開催地も決まっていなかったが、何年かに一度、全世界の女性が集まって、人権としての女性問題を考えるのは意義深いことと思う。二〇〇〇年に国連の行事がないとしたら、NGOで声をあげてもいい。そのためには今から準備が必要だろう。つたない報告だが、そんな思いを読み取っていただければ幸いである。

北京会議のNGOフォーラムにおける 日本の活動を調査して

一九七五年の第一回世界女性会議（メキシコ会議）に参加以来、（あごらは第二回（コペンハーゲン）、第三回（ナイロビ）、第四回北京会議のNGOフォーラムに参加、毎回ワークショップを開き、多くの収穫を得、その状況を少しでも多くの日本女性に伝えたいと、そのつど報告書を刊行してきた。そのためか、北京会議に際しては、全国各地から質問が殺到し、その対応のために、本業の時間がなくなるほどだった。

それだけに、各団体や各自治体が北京でどのような活動をなさったか、また、マスメディアはどのように伝えたか、強い関心を抱いた。

第四回世界女性会議・北京会議は、アジアでの初の開催とあって、日本からも五千〜八千名が参加したと伝えられる。過去三回の世界女性会議には比較的冷淡だったマスメディアも積極的に参加、とくに女性記者の派遣が目立った。一方、各地方自治体も争って視察団を派遣し、開会からの三日間は会場のどこを歩いても日本人であふれていた。

しかし、現実にはどういった活動をしたのかは、見えにくかった。華々しい報道はされなかったが、地道な成果をあげたNGOの活動と合わせて、三者三様の活動の実態を調べることによって、今後の世界会議の資料にするともに、日本の女性運動を考える手助けにしたいと、マスメディア、地方自治体、N

GOについて調査を試みた。だが、何分にも調査地域は北海道から沖縄にまでわたっており、意図したような成果をあげられなかったことを申し訳なく、また残念に思っている。不完全ながら、この号では地方自治体のアンケート調査に絞って、報告する。

地方自治体のアンケート調査

過去三回の世界女性会議では、ナイロビ会議に二、三の自治体が一般人を派遣した程度で、自治体の取り組みにはそれほど熱意が感じられなかった。が、今回は四十七都道府県だけでなく、市、区、町レベルからも団員の派遣が目立った。

その実情はどうだったのか。一九九六年一月二十日から予備調査を開始したが、都道府県の女性政策課（またはそれに準じる課）に、各都道府県下の市町村の派遣の実情をたずねても、ほとんど把握されていない状況だったので、アンケートの対象は、四十七都道府県と十二政令指定都市に限定することにした。

〔第一次調査〕

調査対象 四十七都道府県・十二政令指定都市

調査方法 アンケート用紙を郵送、回収票の不明の部分を電話で追調査した。

調査時期 九六年四月一日～三十日

調査項目 ① 代表団派遣の有無

- ② 派遣している場合は、その人数
 - ③ 派遣した理由、または派遣しなかった理由
 - ④ 派遣期間
 - ⑤ 会議参加期間
 - ⑥ ワークショップ開催の有無
 - ⑦ 開催した場合は、開催日とテーマ
 - ⑧ 参加した成果
 - ⑨ 派遣に要した総費用
 - ⑩ 団員に助成した費用
 - ⑪ 派遣団員の選考方法
 - ⑫ 準備段階での事前研修
 - ⑬ 報告会開催の有無
 - ⑭ 開催した場合の回数と開催月日
- 第一次調査の回収率は100%。しかし、粗集計の結果、派遣したこと以上にその後の取り組みが重要ではないかと感じられたので、第二次調査として第一次調査と同じ調査対象に、追加のアンケート調査を行なった。



〔第二次調査〕

調査項目 ① 派遣した成果

- ② その後の派遣団員の活動
- ③ 海外の団体とのネットワーキング
- ④ 報告書作成の有無
- ⑤ 作成した場合の発行部数と総費用
- ⑥ 次回女性会議への派遣予定

なお、報告書を作成した自治体には、その現物の送付も依頼した。

調査期間は九七年一月一日～三十一日だったが、回収率は六一％の低率に終わった。

また、可能な限り各自治体の担当者を訪問して詳細な情報を得ようとしたが、年度が替わり、すでに担当者が他の部門に転出しているところも多く、十分な情報が得られなかった。



北京会議と地方自治体の取り組み

前記調査の地方自治体関係の回答の結果は、以下のとおりである。

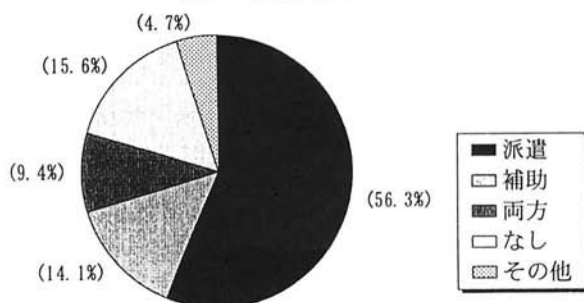
1. 代表団派遣の有無

まず、地方自治体としても調査団を派遣したか、あるいはNGOに補助金を出したかをたずねた。その結果は、図1～3、表1（p29）のとおりとなった。

回答数58（47都道府県・12政令指定都市）のうち、36自治体（56.3%）が自治体で代表団を派遣し、9自治体（14.1%）がNGO団体に補助金を出している。両方派遣したのは石川県1県（9.4%）。まったく派遣しなかったのは10自治体（15.6%）にすぎず、北京会議への熱意が感じられる。

なお、「その他」は派遣はしなかったが、何らかの公費支出をした3県で、香川県は民間団体に報告書や報告会を委託。大分県は希望者が大分発着のNGOツアーに参加したほか県職員2名を派遣。長

図1 代表団派遣の有無



崎は旅行社のツアーを県が後援している。

これを都道府県と政令指定都市と比較すると、都道府県は「派遣した」が25（53・2％）、「団体に補助」が9（19・1％）、「両方」を加えても76・5％（図2）なのに対し、政令指定都市は10市（91・7％）が派遣している（図3）。大都市は女性問題への取り組みが早くから進み、予算も豊富なのだろうか。

2. 派遣した人数

派遣者の数は、自治体派遣では愛知県が最多で29名、最少は宮城県で5名、平均13・9人となっている。

平均では政令指定都市の平均が13・9人なのに対し、都道府県は13・6人で、有意の差は認められなかった。

3. 派遣した理由

派遣した理由は複数回答で求めたが、35都道府県（富山は2団体）11政令指定都市から回答があった（図4、p31～32、表2・3）。都道府県と政令指定都市を合算すると、最高は女性リーダーの育

図3 政令指定都市

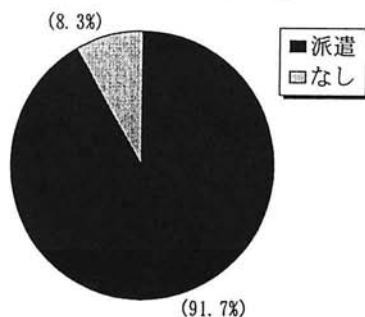
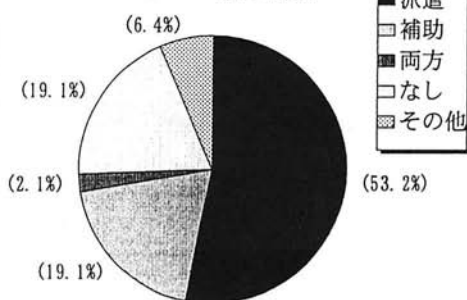


図2 都道府県



成13(31・7%)、次が国際的視野を広げる12(29・3%)、3位が国際交流・国際協力10(24・4%)、4位が女性海外派遣事業の一環8(19・5%)で、これは毎年行なっている派遣事業'95年度版として実施したもの。

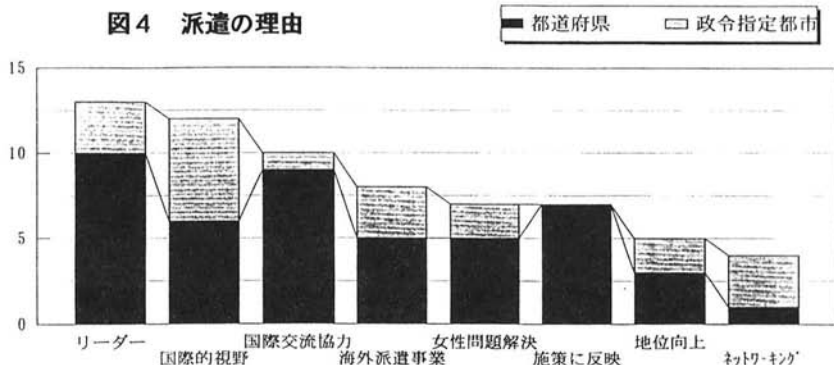
続いて女性問題の解決7(17・1%)、女性の地位向上7(同)、女性施策に反映5(12・2%)、ネットワーキング4(9・8%)、となっており、派遣した団員を行政に役立てたいという意向がうかがえる。派遣した理由については、都道府県と政令指定都市の間には、かなりの違いが認められる。

都道府県のベスト3は、①リーダー養成、②国際交流、③施策に反映だが、政令指定都市は、①国際的視野を広める、②ネットワーキング、リーダー養成、海外派遣事業の一環として、となっているのが注目される。(図4)

4. 派遣しなかった理由

一方、派遣しなかった理由のトップは「予算の関係」で、和歌山、高知、熊本の3県だった。申請したが予算がつかなかった、予算申請の時期が遅れ、予算化できなかったのが、その具体的な理由である。

図4 派遣の理由



次が「NGOフォーラムの性格上、公共機関が介入すべきではないと考えた」（香川、徳島）の2県となっている。島根県は、すでに他の海外派遣事業を決定していたので、北京には参加しなかった。また兵庫県と神戸市は、震災のため断念している（愛媛、宮崎の2県からは、理由の説明がなかった）（p 36・表4）。

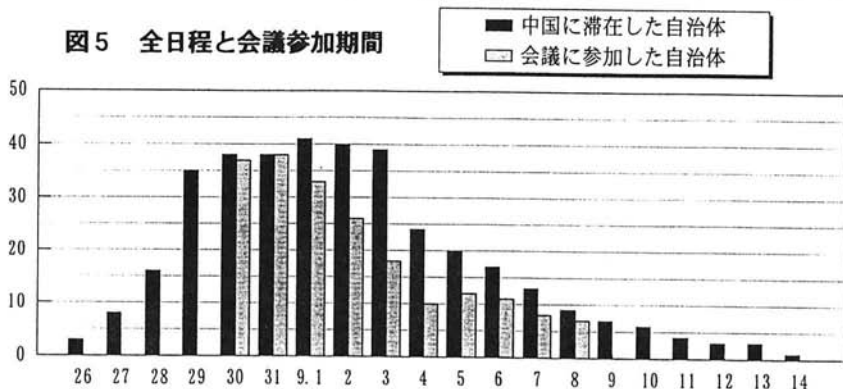
「派遣した」理由の中に「海外派遣事業の一環として」がかなりの高率を占めていることと併せて考えると、四年に一度の世界会議参加は、特別予算を組むというよりは、「女性派遣事業」の一環として考えられているところが多いことがうかがわれる。

「その他」と答えた3自治体の理由は、香川が「民間団体に報告書委託」、大分は「NGOツアーに研修やフォーラムで援助」、長崎は「旅行社企画のツアーを県が後援」ということで、厳密に言えば民間団体の支援ではないが、その性格を持ったものと考えられるので、統計の中に加えた（p 37・表5）。

5. 派遣期間と会議参加期間

NGOフォーラムは、8月30日から9月8日まで開催されたが、自治体派遣団、補助団体の参加は、都道府県、政令指定都市、補助

図5 全日程と会議参加期間



団体の別を問わず、前ページの図のように中国滞在の全日程は8月29日から9月3日の5日間に集中している（図5、p 39・表6）。

そして、大会参加はほとんどが8月30日～9月3日の3日間のみ。あとは友好都市訪問等に回り、世界会議参加は名目的な印象を受ける。これはNGO諸団体や個人の参加とは、大きくかけ隔たっている。言葉の壁の問題もあるが、今回が「初体験」の団体も多く、まずは世界会議の雰囲気を知ったということだろうか。

6. ワークショップ開催の有無と開催日

では、この短い大会参加期間で、独自のワークショップを開くことができただろうか。

図6に示したとおり、回答数50のおよそ半数、23自治体24団体（富山県は2チーム）が開催している。

ただし、開催日はワークショップ第1日目の8月31日に集中（10団体）、この日、懐柔（ファイロー、NGOフォーラム会場）は「日本デー」のような趣だった（図7、p 41・表7）。

9月2日以降は、9月6日の三団体を除くと、毎日一団体のみ。9月8日以降は一例もない。

図7 ワークショップ開催日

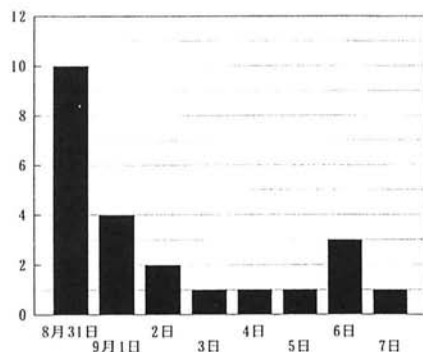
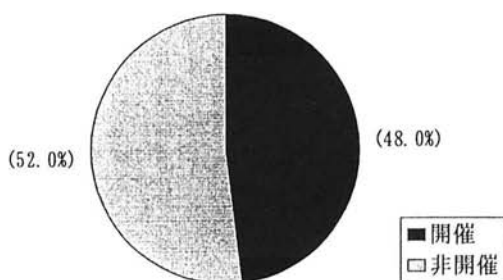


図6 ワークショップ開催の有無



7. ワークショップのテーマ

ワークショップのテーマは、図8のとおり多様である。

都道府県と政令指定都市を合算すると、トップが環境(5)、続いて平和、文化、男女共生(各4)、次が労働、高齢化(各3)、そして教育(2)、政治、家事、メディア、暴力(各1)となっている。「その他」は、題名からは内容を判断しづらいものである。

これを都道府県と政令指定都市で比較すると、都道府県は、①男女共生、文化、環境(各4件)、②高齢化(3件)③平和労働(各2件)に集中しているが、政令指定都市は、①平和が2件のほかは環境・労働・教育・家事各1件になっている。かなり明瞭な違いがあるのが注目される。

しかし、内容は、図9のとおり11団体(45・8%)が「我が市、我が県」の話

図9 テーマが「我が自治体」

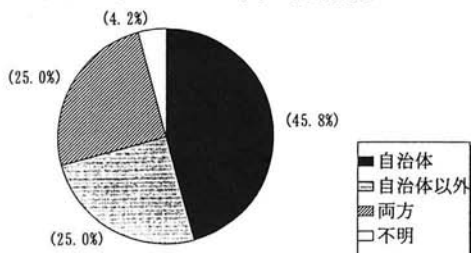
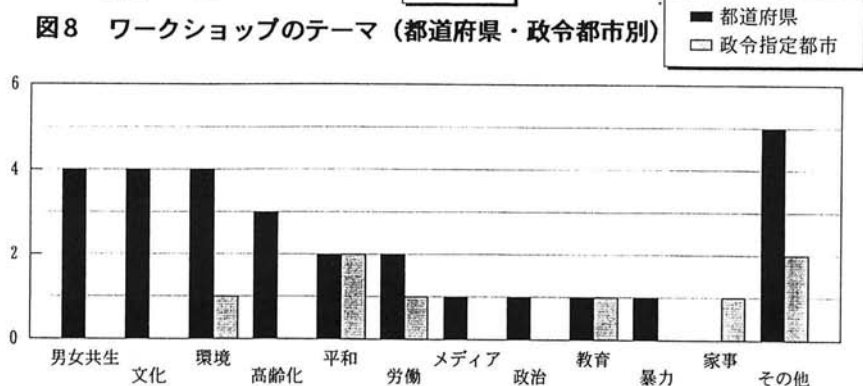


図8 ワークショップのテーマ (都道府県・政令都市別)



題で、自治体と関わりがないものは6団体（25％）にすぎず、両方の要素のあるもの（自治体の問題を中心にしながら国際的な問題にまで言及したもの）が6団体（25％）だった（p42・表8）。

自治体が派遣したり補助金を出している関係で、「××県（市）」における〇〇が多くあったものと思われるが、国際的視野から訴えたものは、というよりは、日本国内での「おらが意識」の強いものが多かったことは、今後の課題として考えなければならないことかと思われる。

この「郷土意識」をテーマ別に比較したのが図10である。

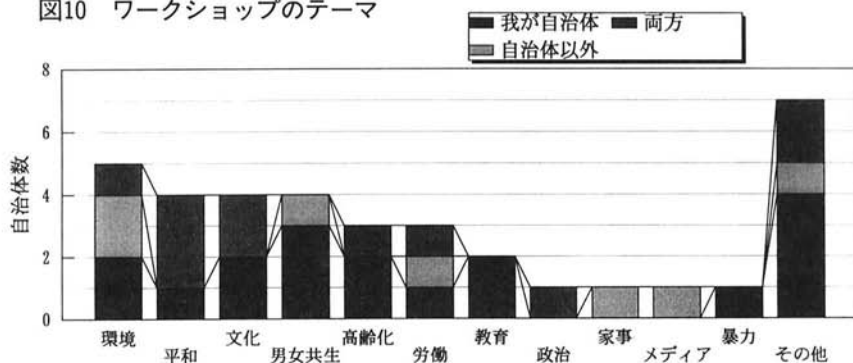
環境・男女共生・労働・メディアなど、国際的な問題は、さすがに「我が市（県）」を離れて論じられているが、最も国際的なテーマ「平和」は「我が市（県）」（広島・沖縄・広島市・川崎市）の状況から問題提起している（p43・表9）。

8. ワークショップ開催の成果と反省点

(1) 成果

開催日、内容等に問題があるとはいえ、ワークショップを開催したところは、それぞれそれなりの成果を得たと意識したことは、調査票の「成果・反省点」への克明な記載から読みとれる（p45・表11）。

図10 ワークショップのテーマ



まとめると、成果としては1位が「情報発信、意見交流ができた」(11)、2位が「女性問題への認識を新たにした、意識が高まった」で(8)、3位が「ネットワークができた」となっており、国際会議に参加した喜びが回答にあふれていた(図11)。

(2)反省点

「成果」に対する記載が克明だったのに比べると、「反省点」の記載は少なく12件のみだった(図12、p45・表10)。内容は、「発表時間の不足」が6件、「語学の問題」が5件で、「準備不足」が3件。いずれも事前準備の不十分を示すものと言えよう。しかし、「反省点」を記した回答者(秋田・富山・愛知・鳥取・山口・沖縄の6県、川崎・名古屋・広島)の3市)は、それだけ、誠実なところでは、と推測される。ワークシヨップを「失敗した」と記入したところはなかったが、調査メンバーからは「〇〇県における問題が果たして国際会議の場で普遍性をもち得るのか」という疑問が出た。日本の一都市の紹介にとどまらず、国際問題とリンクさせて発表できる日常からの学習に積み重ねが今後求められるのではないだろうか。

また、「文化紹介ではお茶やお花に頼りすぎるのは疑問」という意見もあった。日本の文化はもっと広がりを持つものではないだろうか

図11 成果

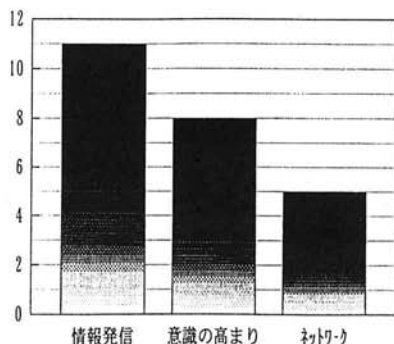
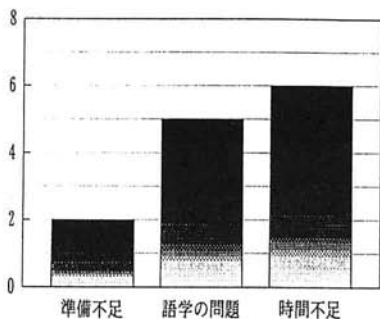


図12 反省点



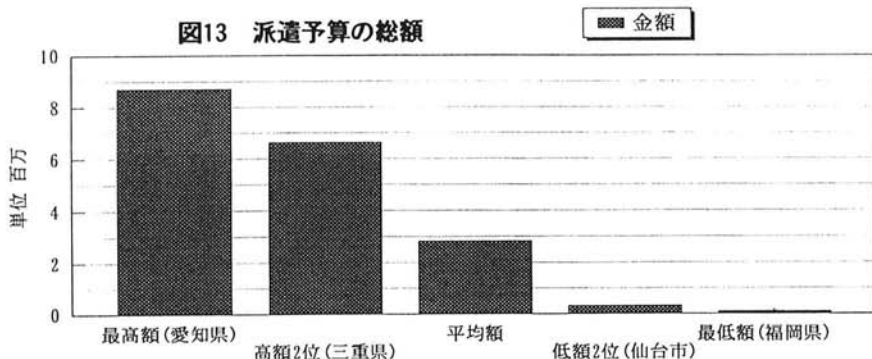
か。ありきたりのジャパネスク趣味からの脱皮を望みたい。アイヌ民族の織物や沖縄のうーじ染め、沖縄の慣習トートーメの研究など、自治体を離れた自主的な発表には見るべきものがあつた。

〇〇県の、〇〇市の、と称しても、他国の人々にはわかりにくいだろう。次回、もし自治体が派遣するのなら、事前に各自治体で連絡をとりあつて、日本の地図などを示し共同発表すると、外国からの参加者にもわかりやすいのではないかと思う。また、南北に長く、大きな地域差を持つ日本の状況も理解されるのではないだろうか。

なお、山梨県のように、あえて自前の発表は行わず、できるだけ多くの国のワークショップに参加して、アンケートを求めた動きも、評価されてよいように思われる。北京滞在わずか2～3日で、1日を自前のワークショップに費やすと、他国のワークショップにはほとんど参加できなくなる。五年に一度のまたとない国際交流の機会なのにもったいないことに思われる。

9. 派遣予算の額と支給方法

北京に調査団を出すについて、各自治体は、どの程度の予算を組む、参加者の個人負担はどの程度だったのだろうか。



具体的な数字を伴うものだけに、無回答が8自治体、総数の16%におよんだが、41自治体が実情を示して下さった(表12・p49)。

総額は、数字を示されたもののなかだけの比較だが、最高は愛知県の870万円、次いで三重の663万円、広島市515万円、鹿児島県513万円となっている(図13)。

平均額で約16万円助成しており、前回のナイロビ会議と比べると、各自治体ともかなりの予算を組み積極的に対応したことがうかがえる。支給方法は、全額を支給したところは皆無で、総額の約半分を補助しているものが多い。しかし日数の短い割にはNGOの一般参加者に比べると費用が高い。議員の視察旅行が大名旅行なのに比べるとうつましい費用だが、参加費用で苦労したNGOから見ると、この額で、もっと多数の参加が可能だったのでは、と思いたくなる。

10. 派遣団員の選出方法

多額な公費を使つての派遣。団員はどのような方法で選出しているのだろうか。北京女性会議までの統計はないので比較はできないが、第三回のナイロビ会議までは、自治体が派遣することは少なく、派遣した場合は、その自治体への貢献者、いわゆる地元の有力者の

図14 選出方法

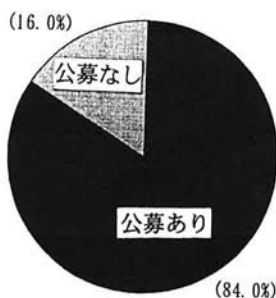
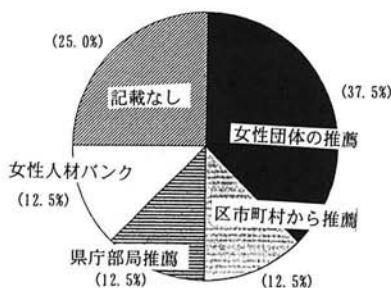


図15 公募しなかった場合の内訳





夫人や婦人団体の幹部が多かったようである。

その後の10年間に、各地域での女性運動は活発になり、女性セン
ター等も増えた。今回はさすがに約8割が公募しており、公募しな
かったのは8都道府県（宮城、茨城、群馬、千葉、東京、山梨、埼
玉、京都）のみである（図14）。

公募しなかったこれらの自治体では、公募に代えて自治体や女性
団体が推薦している（図15、表13・p51）。この場合、比較的若い人
の参加が少ない傾向が認められる。

こうしたなかで長崎県は旅行社が参加者を募集、それに対して補
助金を出すという「旅行社まかせ」となっている。

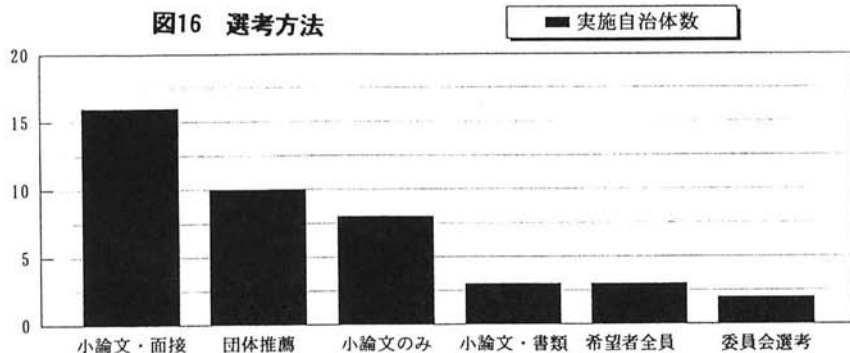
11. 派遣団員の選考方法

では、応募者の中から、どのようにして選考したのだろうか。

最も多かったのは、「小論文を提出させた後、面接した」もので
38%、次が女性団体・地域団体などの団体推薦で24%、3位が「小
論文のみ」で、この上位3位にほとんどが含まれている。「希望者全
員」と「小論文+書類選考」は各7%ずつあった（図16）。

自治体の担当者に直接ヒアリングした結果では「公募したが、な

図16 選考方法



なかなか集まらず再公募した」「やむを得ず団体に呼びかけた」という例も3〜4件あった。公募した媒体は何だったのか、公募期間はどれくらいだったのか、問題も残る気がする。

12. 準備段階での事前研修・勉強会

(1) 実施の有無

では、団員の事前研修・事前学習は行なったのだろうか。行なわなかったのは、旅行社が企画した長崎県一県のみで、他はすべて行なっている(図17)。

(2) 実施期間

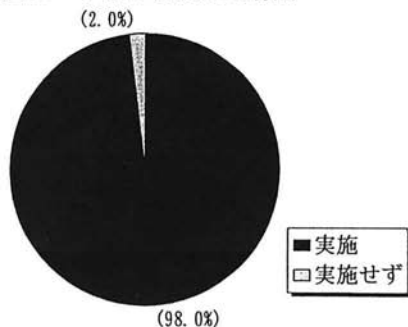
事前研修を開始したのは、沖縄が最も早く、94年の12月に始めている。北京会議で最も充実したワークショップを展開した沖縄は、ナイロビ会議以来一貫して女性問題に取り組んでいたNGOに自治体が補助金を支出したのだが、研修の回数・内容ともに群を抜いており、良い研修の下に良い結果が出たことを感じさせる。

研修開始が最も多かった月は、会議開催三か月前の95年5月で、16自治体である(図18、表14・p53)。公募・選考等を行なうと、こ

図18 事前学習開始月



図17 事前学習実施の有無



の時期からしか始められないのは無理もない。次の機会には、開催日の一年半くらい前から公募し、遅くとも一年半前には選考が終わっていることが望ましいのでは、と思われる。

(3)学習内容

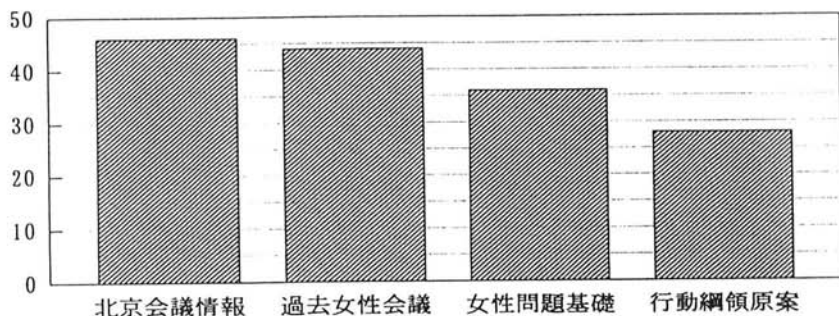
研修の内容は複数回答で得たが、最も多かったのが北京会議についての情報(46)、で、次が過去の女性会議(44)。この二つが女性問題の基礎(36)、行動綱領原案(28)を大きく引き離している。日頃から女性問題に十分な取り組みをしている人がすべてなら、会議についての情報が1、2位を占めてもよいが、選出や選考の方法を考えると、学習内容はこれが最適かどうか疑問が残る(図19)。

なお、その他としては、中国事情(11)ワークショップ準備(8)語学研修(5)が目立った。質問項目の中には入っていないかったが、入れていればこの三つを選択した自治体はさらに増えたのではないかと推測される。

(4)事前に収集した資料

学習用の資料としては、総理府ニューズレター(15)を含む、総理府関係の資料が22と最も多かった。

図19 事前学習内容



続いて『あごら』北京会議シリーズ（ナイロビ特集を含む）が21、3位が行動綱領原案（12）となっている（図19）。北京会議に有効に参加できるようにとの願いをこめて、東京女性財団の助成を受けて発行した『あごら』の北京会議シリーズⅠ～Ⅶ（94年9月～95年8月）は、NGO沖縄では全参加者が購入、非常に役に立ったと喜んでいただいたが、自治体では約半数が購入しながら、団員にはそのような資料があることすら知らせなかった自治体が多かったのは、残念に思われる（表15・p55）。

13. 派遣後の取り組み

(1) 報告会

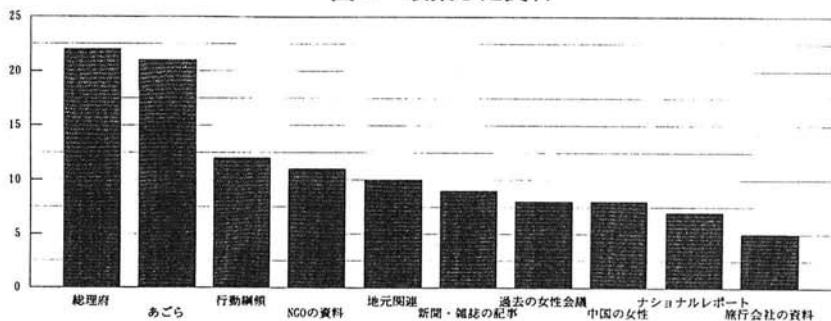
報告会は55自治体が開催している。

最多開催月は帰国翌月の10月（26）。以下11月（20）12月（13）と続く（図21）。

開催しなかったと答えた3自治体（東京・石川・福井）も、団員各自が都・県内で自主的に行なっており、報告会はどこでも盛況だったようである。

最多開催は沖縄で12回、反響の大きさが伺える（図16・p57）。

図20 収集した資料



(2) 報告書の作成

報告書は、32自治体(88.9%)が作成しており(図22)、作成しなかったのは4自治体(北海道・山形、福井、神奈川)にすぎなかった。作成部数は500部が最も多く(図23)、平均作成部数は719部だった。最も少なかったのは100部で2自治体(岩手県・千葉市)(表17・p58)。

印刷・編集費など、作成費用は平均498、373円、最高額は香川で1200万円と、どの自治体も力を入れているが、「費用としては計上せず」(滋賀)「コピー代のみ」(岩手)もあった(表17)。

(3) 配布先

配布先は複数回答で得たが、県内市町村(18)女性団体(18)他都道府県(13)関係機関(7)庁内関係課(5)女性センター(4)参加団員(3)図書館(3)報道機関(2)女性施策推進関係委員(2)などとなった(図24、表18・p59)。それぞれ貴重な報告書なのにもかかわらず、配布先が定例の配布先に限られているように思われるのは惜しまれる。地元紙等の記事にして、積極的にPRし、希望者に配布すれば、女性問題に関わる人が増える一助になるので

図21 報告会を開催した月

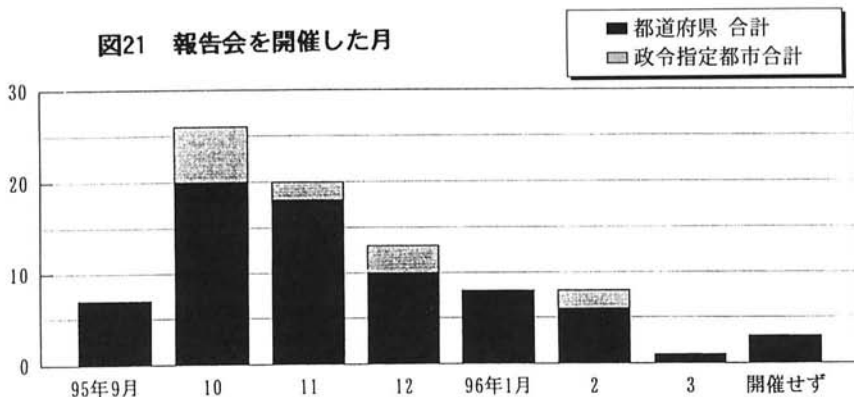


図23 報告書作成の費用

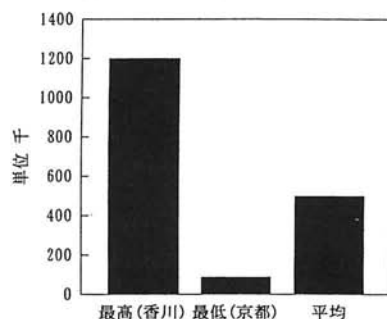


図22 報告書作成の有無



図24 報告書の部数

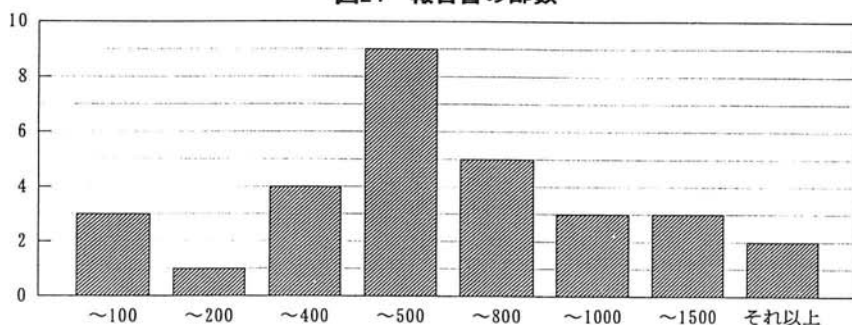
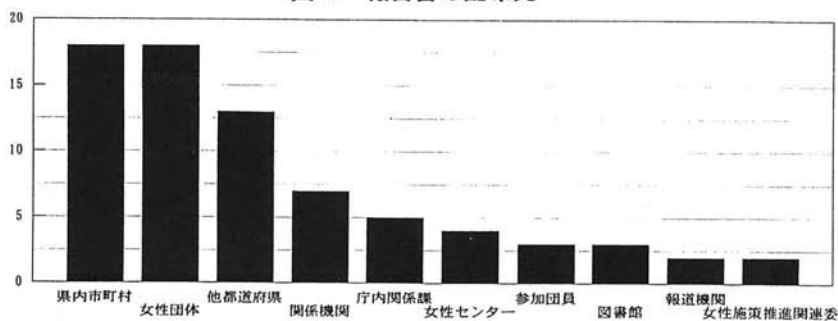


図25 報告書の配布先



はあるまいか。配布に際しての代金は京都府が1部1000円の有料としたほかは、全部無料配布となっている。

残部は調査時点（97年1月）では、あり（16）なし（8）だった。

14. その後の団員と自治体との関わり

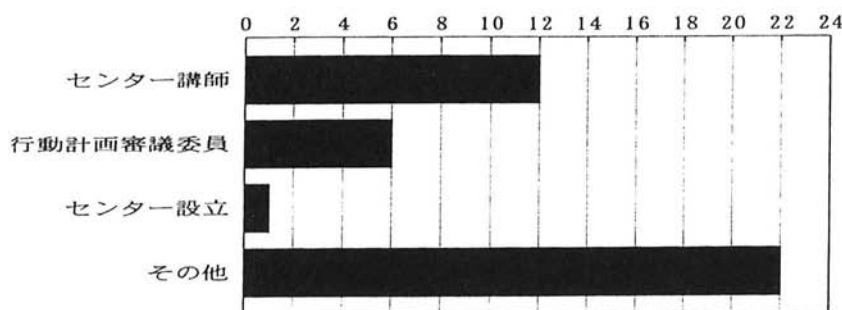
派遣された団員は、その後自治体とどのような関わり方をしていくか、四項目に分類してたずねてみた（複数回答）。結果は（図26）に示したとおり。

- 1、女性センターの講座の講師として依頼、講座を企画 12
- 2、自治体の女性政策行動計画（策定）委員会に参加 6
- 3、自治体の女性センター設立に参加 1
- 4、その他 22

その他の内容は、各種委員（審議会、女性施策懇話会、女性センター、国際交流事業）、研修会講師など、多岐にわたっており、それぞれ重複して活動している例も多い（p61・表19）。

派遣以後、団員が自治体に関わっていないところはほとんどない。自治体も予算を使った以上、団員の経験を最大限に活用していることがうかがえる。

図26 団員と自治体との関わり



しかし、派遣団員の活動継続への援助は28自治体が「していない」と答えている(図27)。しているのは6自治体だが、内容は、報告会の開催、研究委嘱助成、補助金の交付、女性グループネットワーク化のメンバーとして、等々、多岐にわたっており、今後とも自治体の「女性問題サポーター」として期待し、一過性に終わらせないよう努力していることがうかがえる。

15. 北京会議の成果をどう生かしているか

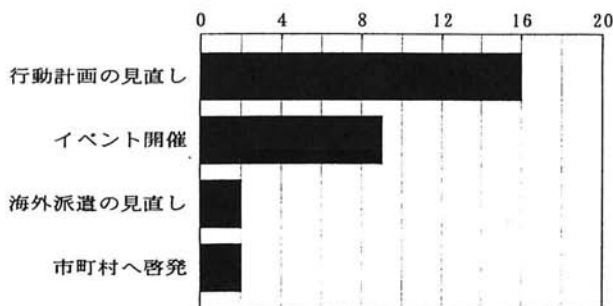
そのほかに「北京会議の成果をどう生かしているか」「海外の団体とネットワークができたか」についても設問してみた。

成果の生かし方については、「行動計画の見直し、策定の参考にする」と答えた自治体が16と最も多く、北京会議の行動綱領を自治体行動計画に生かしたいという意向がうかがえた(図27)。ほかには、イベントの開催(9)、海外派遣の見直し(2)などが目立った(表22・p65)。

16. 海外の団体とのネットワーク

ネットワークは、「できた」と答えたのが2自治体(5.7%)のみ。

図27 成果の生かし方



30自治体が、できなかった」と回答した。

できた自治体は

埼玉 ルワンダとの交流「GROUP・FOR・FRIEND OF

RWANDA」

沖縄 平和や環境問題でネットワーク の二つにとどまった。

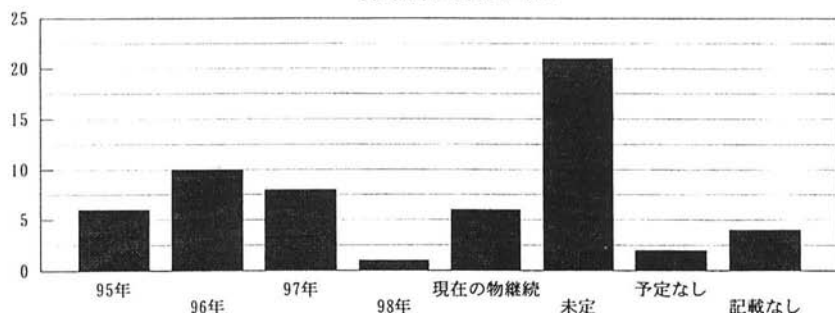
日程が短かったせいか、言葉の壁のためか。せっかく国際会議に出席しながら、ネットワーキングまで手が回らなかったのだろうか。ワークショップの成果では「交流できた・ネットワークできた」という意見も多かったが、残念ながら、帰国後活動を継続するまでには至っておらず、発表するだけ、見て回るだけに止まったのだろうか。と残念に思われる（表21・p63）。

17. 自治体独自の行動綱領の計画

いつごろ策定するかをたずねたが、「現在の計画を継続する」を「未定」が上回った。

内訳は95年6、96年10、97年8、99年1、現在の計画継続6で、未定21、予定なし2と、取り組みの姿勢は消極的だった（図28）。付記として「国の行動計画に沿って」という記述が多かった。

図28 行動計画策定時期



18. 次回の世界女性会議に代表団を派遣する予定か

予算を伴うものだけに、担当者からの確固とした回答は、はい4（石川・埼玉・神奈川・滋賀）、いいえ0にとどまり、未定が32と、ほとんど大部分を占めた（図29、p.66・表23）。

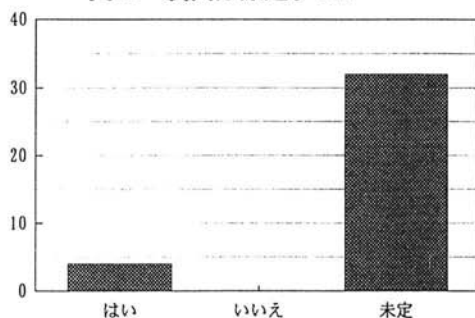
「はい」と答えた4自治体に、どのような事前準備を行なう予定か質問したところ、石川が「ワークショップを開催できる力をつける」、滋賀が「連続講座、海外・国内研修など」で、埼玉・神奈川からは「未定」という回答を得た。

19. まとめ

以上の回答の詳細をさらに追求するために、愛知、三重、沖縄はじめ各地の女性政策担当部署を可能な限り訪ねたが、多くは96年4月以降の訪問になったため、当時の担当者が部署を変更している例も少なくなく、当初期待していたような成果は得られなかった。

訪問して痛感したのは、早くから女性政策室（名称は多様だが）を設けて女性問題に取り組んでいた自治体は、会議がなぜ開かれる

図29 次回は派遣するか



のかという基本的なコンセプトを熟知していたが、現実には、「女性政策室」が「最近設けられたばかりなので」という自治体も、「最近この部署についたばかりなので」というところも多かったことである。北京会議での行動が私どもNGOから考えると「浅い取り組み」になったところが少なくなかった理由も納得できた。

民間の企業と違って、自治体では職員の配置転換が頻繁に行われることを感じた。行政職の人が職務を転々と変えて幅広い経験を積むのは有意義なことだが、女性問題は一種の専門職でもある。少なくとも三年間は同一部署で経験を積んで、その自治体内に女性問題を根づかせてもらいたいと思った。

もう一つの問題は、自治体が派遣すると、ワークショップのテーマも「わが県の○○は」「わが市の○○は」になりやすく、内容も問題点より「業績」が強調されがちになることである。

世界女性会議NGOフォーラムは、もともとNGOの会議であり、GOである自治体が団体を派遣すること自体おかしいのではないかという声も集計員の中から出たが、一理ある意見のように思われた。日本のワークショップは、ほとんど8月30日に集中して開催されたため、諸外国からの参加者はそれほど多数ではなかったようだが、各都道府県や各市がバラバラにその地域の旗を掲げてワークショップを開催する姿に違和感を感じた人たちも少なくなかったのではないだろうか。

20. NGOからの希望

この調査にあたった調査員（全員北京会議に参加）全員で、集計後、座談会を開いたが、①自治体の報告会を傍聴したが、「オリンピックに参加しました」程度の印象を受けるものが多く、何年

もお金を積み立て、参加費用を工面して参加したNGOの取り組みとの落差の大きさを感じた。

②報告集はどれも立派だが、胸を打つ内容のものが意外と少ない。

③団員の選考に「自治体貢献者」の色彩がかなり感じられる。

等々の意見が出、沖縄の〈NGO北京・沖縄うない〉のように、女性問題・平和問題に熱い思いもあり、学習も続けてきたNGOに自治体が助成するか、帰国後の報告集に対して助成するかが、最も公平であり、また効果的ではないか、という結論になった。

民間女性に自治体が援助金を出す機会は決して多くない。せつかくの機会が有効利用されることを願いたいと思う。

何にしても、世界女性会議に参加することは、女性問題の大きさと深さを実感させることになる。今後とも、NGOの参加が増えることが望まれる。

ただし、ポスト北京の流れとして、とくに地方では「北京会議参加者に非ずば女性運動家に非ず」といった雰囲気がつくられ、運動が内部分裂したという声も、私どもには全国各地から多く寄せられている。官民いずれの形の参加にしても、その成果が、非参加の多くの女性に共有されるのにはどうすればよいのか。次回会議（2000年の予定）に向けて大きな課題であろう。

派遣人数

熊本				1				
宮崎				1				
鹿児島	1					19		団員16、事務局3
沖縄(補助)		1					71	NGO北京・沖縄うない
都道府県 合計	25	9	1	9	3	368	250	
平均						13.63	50	
政令指定都市名	派遣	補助	両方	なし	他	派遣人数	補助人数	備考
札幌市	1					12		
仙台市	1					3		
千葉市	1					10		
川崎市	1					11		
横浜市	1					19		市民15、職員2、女性協会職員2
名古屋市	1					20		
京都市	1					8		
大阪市	1					18		
神戸市				1				
広島市	1					12		
北九州市	1					19		
福岡市	1					24		
政令指定都市合計	11	0	0	1	0	156		
平均						14.18		
総計	36	9	1	10	3	524		
総平均						13.91	54.25	

表1 代表団派遣の有無、

該当欄に1を記入。補助団体を派遣した自治体は(補助)、その他の形態は(その他)と注釈

都道府県	派遣	補助	両方	なし	他	派遣人数	補助人数	備考
北海道(補助)		1				13		財団法人北海道女性協会
青森	1					10		
秋田	1					10		
山形	1					6		うち県職員1名
岩手(補助)		1						岩手県婦人教育連絡協議会
宮城	1					5		
福島	1					20		
新潟(補助)		1						新潟県女性財団
富山(補助)		1						富山県婦翔会・富山県婦人会
石川			1			11		
石川(補助)							13	いしかわ女性基金
福井		1						
長野	1					10		
茨城	1					20		
栃木	1					7		
群馬	1					5		
埼玉(補助)		1					15	埼玉派遣団(いくつかの女性団体)
千葉	1					10		
東京	1					21		
神奈川(補助)		1						かながわ女性会議
山梨	1					15		
静岡				1				
岐阜	1					12		
愛知	1					29		
滋賀	1					10		
三重	1					19		
京都	1					15		
大阪	1					24		
奈良	1					17		
和歌山				1				
兵庫				1				
岡山	1					12		
広島	1					8		
鳥取	1					7		
島根				1				
山口(補助)		1						やまぐち女性財団(県職員3)
香川(その他)					1			民間団体に報告を委託。
徳島				1				
愛媛				1				
高知				1				
福岡	1					11		
大分(その他)					1		33	希望者がツアー参加(内県職員2)
佐賀	1					22		
長崎(その他)					1		118	旅行社のツアーを県が後援。

主な8種類に分類・集計した。

自治体名	リーダー	国際親視野	国際交流協力	海外親善事業	女性問題解決	施策反映	地位向上	ネット・リンク
札幌市	1	1						
仙台市		1						
千葉市		1					1	
川崎市		1						1
横浜市*回答なし								
名古屋市	1		1	1	1			1
京都市		1					1	
大阪市	1							1
広島市				1	1			
北九州市		1						
福岡市				1				
政令指定都市合計	3	6	1	3	2	0	2	3
総計（平均）	13	12	10	8	7	7	5	4

表2 派遣した理由 派遣した理由を、

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1、女性リーダー(NGO)育成 | 5、女性問題解決 |
| 2、国際敵視野を広げる | 6、女性施策に反映・男女共同参画づくり推進 |
| 3、国際交流・協力 | 7、女性の地位向上 |
| 4、自治体の海外派遣事業の一貫 | 8、ネットワークキング |

自治体名	リーダー	国際敵視野	国際交流協力	海外派遣事業	女性問題解決	施策反映	地位向上	ネットワーク
北海道*回答なし								
青森	1	1		1				
秋田*回答なし								
山形	1	1						
岩手						1		
宮城			1					
福島		1			1			
新潟								
富山A	1	1				1		
富山B						1		
石川(自治体)	1	1				1		
福井*回答なし								
長野	1			1				
茨城	1							
栃木			1				1	
群馬						1		
埼玉*回答なし								
千葉*回答なし								
東京			1	1				
神奈川	1		1			1		
山梨					1			
岐阜	1							
愛知			1		1			
滋賀					1	1		
三重	1							
京都	1		1					1
大阪*回答なし								
奈良					1			
岡山				1				
広島		1	1					
鳥取			1				1	
山口			1					
福岡							1	
大分*回答なし								
佐賀*回答なし								
鹿児島				1				
沖縄	1							
都道府県 合計	10	6	9	5	5	7	3	1

表3 派遣した理由

〔1〕自治体派遣をした27都道府県

青森	県内の女性が、海外研修を通じ、女性をとりまく福祉・教育、労働等の諸問題に対する認識を深めるとともに、国際的視野の拡大と資質の向上を図り、男女共同参画社会の形成に向けて積極的に貢献できる女性リーダーを育成することを目的とした青森県女性海外派遣事業の海外研修として、北京女性会議NGOフォーラムへ派遣した。
秋田	回答なし
山形	〔目的〕女性の自立、社会参加活動を実践しているグループ代表等をNGOフォーラムに派遣し、女性をめぐる世界の動きにふれながら、女性の諸問題解決について意見交換や活動発表をすることによって国際的視野に立った女性リーダーを育成する。
宮城	中国の女性事情の調査、取材事業のため訪中（NGOフォーラムへの参加がメインではない）。
福島	世界の中での日本女性の現状及びNGOの活動状況を再認識することにより国際的視野から本県の女性問題を解決し、本県のNGO活動による男女共同参画社会の形成を図るため。
石川	国際的視野を持った女性リーダーを育成するとともに、その成果を県や市町村における女性施策の推進に反映させること。
長野	国際的視野を持った女性問題指導者育成のため、昭和55年より海外派遣を行っており、世界女性会議への派遣は趣旨に合致していた。
茨城	国際レベルの会議への派遣によって女性リーダーの資質の向上を図る。
栃木	県内各地、各分野で女性の地位向上のため、積極的な活動を継続的に行なっている女性を、世界各国の女性たちと研究、討議、交流、交歓を行なうことにより、今後の本県の女性の地位向上に資するため。
群馬	自治体としても、国連世界女性会議の動向をとらえておく必要があるため。
千葉	回答なし
東京	毎年行なっている海外派遣事業の派遣国を、NGOフォーラムに合わせて中国とし、他都市視察と共に、NGOフォーラムに参加し、ワークショップを行なった。

山梨	本県からNGOとして参加することにより、世界の女性の地位、社会参画状況、女性共通の問題について広く学び、問題解決には何が必要か、できる事は何か、今後の取り組みについて深める機会とするため。
岐阜	県民の女性問題に対する意識向上とリーダーの育成。
愛知	県内の学識経験者、女性団体活動者が世界の女性活動者と交流したり、ワークショップ・パネル展示を実施することにより、帰国後、地域における女性問題の解決や団体活動の充実、向上への寄与を期待して。
滋賀	世界各国、地域から集まる人々とともに、女性問題の解決へ向けて理解を深め、男女共同参画社会づくりを推進するため。
三重	地域社会に貢献しうる女性リーダーを養成するため。
京都	国際的な視野をもった女性リーダーを養成するとともに、女性の国際交流と広域女性関係団体間のネットワーク化を図る。
大阪	回答なし
奈良	「女性NGOフォーラム北京'95」における世界規模での女性問題解決への動きに参加する。
岡山	毎年実施している「岡山県海外派遣事業」を、NGOフォーラムにあわせて実施した。
広島	第4回世界女性会議NGOフォーラムに、地域、職場、団体等で積極的な活動をしている女性を派遣し、各国の女性の現状を学ぶ機会を提供するとともに、国際協力の機運の醸成を図るため。
鳥取	世界女性会議に学び、国際支援、国際協力も含めて女性の地位向上を進めるため。
山口	世界の女性たちとともに考え、行動する。
福岡	女性の地位向上の推進を行なう上で、極めて重要な会議であったため。
佐賀	回答なし
鹿児島	隔年おきに実施している女性の海外研修を、世界女性会議・NGOフォーラム参加とした。

〔2〕11政令指定都市

札幌	第3回のナイロビでも派遣団を組織しており、今回も世界的視野を持った女性リーダーを育成するため、女性市民を派遣した。
仙台	北京女性会議は、メキシコ会議から20年目にアジアで初めて開催される節目となる重大な会議であるので、ぜひ市民が直接参加し世界の女性運動に関して見聞を広めることが必要と考えた。
千葉	国際的な視点に立った女性問題の解決への方策について考えるため。
川崎	川崎市新女性行動計画に基づき、友好都市瀋陽市訪問や外国の女性との交流等をおして国際的視野を広げ、女性問題に関する意識を高め、女性の地位向上に資すること。
横浜	回答なし
名古屋	名古屋市は国際的感覚を身につけた幅広い活動のできる女性指導者の養成を目的に海外派遣事業を実施しており、今回は世界女性会議が北京で開催されることから訪問国を中国にした。ワークショップを開催し、名古屋の女性の現状と施策について報告するとともに、女性問題解決のための方策について各国の女性たちと情報交換し、ネットワークを図るため派遣を行なった。
京都	世界の活動家との交流を通して、国際的な視野を広げ、女性問題に関する意識を高めることで、その成果を地域活動に生かすことにより、京都市の女性の地位向上につなげるため。
大阪	女性指導者の資質の向上を図るため／各国の女性の地位向上に対する取り組みや海外の女性の状況について専門的見地からの報告を受けるため。
広島	平成7年度については、世界的規模で女性問題の取り組みを検討する第4回世界女性会議が北京市で開催されたため、そのNGOフォーラムに参加し、被爆地広島の願いを世界の女性たちに伝えるため、「核兵器と平和の創造」をテーマにワークショップを開催すると共に、ロビー活動も行なった。
北九州	平成元年より実施の北九州女性海外研修として派遣をした。
福岡	女性の海外派遣事業を毎年行っており、今年は世界女性会議の開催年でぜひ参加することが必要と思われたため。

〔3〕補助団体のみの8県

北海道	<p>補助団体名：財団法人北海道女性協会 ㊦064 札幌市中央区北7丁目 カデル27-6 F その理由：回答なし</p>
岩手	<p>補助団体名：岩手県婦人教育連絡協議会 その理由：男女共同参画社会の実現のための意識を高め、地域レベルの行動を展開するために重要であるため。</p>
新潟	<p>補助団体名：財団法人新潟県女性財団（旅費補助ではなく、女性リーダー育成研修委託として事前研修会、報告書作成等を委託） その理由：NGOフォーラム参加者個人に対し、旅費の一部を支払うのは適切ではない。別に女性海外派遣事業として韓国・タイへ県内の女性を派遣する事業があったため。</p>
富山	<p>補助団体名：A、富山県婦翔会 B、富山県婦人会 その理由（A／生活環境部女性青少年課）国際的視野から男女平等について考えることにより、女性の人材育成を図り、男女協同社会の実現に資する。 （B／県教育委員会生涯学習室）社会教育団体としての県婦人会の活動が、急速な社会の変化や国際化に対応し、地域づくりの活性化に貢献することができる。富山県の進めている環日本海国際交流の推進役としての役割が期待できる。</p>
福井	<p>補助団体名：福井県女性の地位向上推進連絡会 ㊦919-03 福井市下六条町14-1 ㊦0776-41-4254 その理由：回答なし</p>
埼玉	<p>補助団体名：埼玉派遣団（いくつかの女性団体を中心に構成）人数15名 団長は室町澄子NHKラジオセンター・チーフディレクター。 その理由：回答なし</p>
神奈川	<p>補助団体名：かながわ女性会議（その他、県職員1名を派遣） ㊦251 藤沢市江ノ島1-11-1 かながわ女性センター内 ㊦0466-27-2111 その理由：世界の女性を取り巻く状況と展望について意見交換、情報収集を行なうことにより、民間団体の自主的活動を推進するとともに、新たなかながわ女性プランの改定をはじめとした女性施策への反映を図るため。</p>
沖縄	<p>補助団体名：NGO北京・沖縄うない（県職員含む）人数71名 ㊦900 那覇市牧志3-9-1 すべーす結 098-864-1539 その理由：NGOの重要性の認識と育成の視点から、実行委員会の組織づくりと諸準備を支援した。</p>

表4 派遣しなかった理由（9県1市）

静岡	県に計画がなかった。民間団体に随行という形で職員1名を出した。
和歌山	派遣のための予算要求をしたが、予算がつかなかった。
兵庫	派遣を予定していたが、阪神・淡路大震災のため、中止した。
島根	既に海外派遣事業を決定していたため。
徳島	NGOフォーラムの性格上、特定の者を対象とする支援は困難であるため。
愛媛	回答なし
高知	既存の海外派遣事業もあり、限られた予算の中で、北京会議の派遣事業の予算化は行なわなかった
熊本	参加申込期限が4月30日であり、予算成立は3月末となるため、実務的に団員募集には不安がある。予算要求時点（11月初旬）までに、参加予定団体が不明であり、予算要求できなかった。各団体や市町村への情報提供のみ行なった。
宮崎	回答なし
神戸市	阪神・淡路大震災のため

表5 その他の理由（3県）

香川	<p>NGOフォーラムは民間レベルの会議なので、あくまでも自己負担・自主参加が本来の姿と考えているので特に県では派遣を行っていない。ただし、県下一円に北京会議の成果を広めるため、県内で参加者を募り団を編成して参加した香川県婦人団体懇話会（民間団体）に報告書の作成や報告会の開催を委託した。</p>
大分	<p>代表団の派遣としてではなく、希望者が大分県発着のNGOフォーラム参加ツアーで参加した（参加者33名、うち県職員の派遣2名）。</p> <p>世界の女性の情報や熱気にふれ、今後の活動に生かすため、県としては、事前研修会や記念フォーラム等を開催し、参加を支援するとともに一般への啓発を行なった。</p>
長崎	<p>旅行社企画のツアーを県が後援（118名参加）</p> <p>世界の人々との交流により、国際的な視野を広げる。</p>

会議参加期間

自治体名	総滞在期間	滞在日数	8月30	31	9月1	2	3	4	5	6	7	8	参加日数
札幌市	8/29～9/6	9	1	1	1	1							4
仙台市	9/1～9/6	6				1	1						2
千葉市	8/29～9/3	6	1	1	1	1	1						5
川崎市	8/29～9/5	8	1	1	1	1							4
横浜市	9/5～9/8	4							1	1	1	1	4
名古屋市	9/1～9/10	10			1	1	1	1	1	1	1	1	8
京都市	9/3～9/10	8						1	1	1			3
大阪市	8/26～9/2	8	1	1	1	1							4
広島市	9/3～9/13	11						1	1	1	1	1	5
北九州市	9/4～9/11	8								1	1	1	3
福岡市	8/28～9/3	8	1	1									2
総計（平均）		7.1569	37	38	33	26	18	10	12	11	8	7	3.922

表6 派遣期間と

自治体名	派遣期間	滞在日数	8月30	31	9月1	2	3	4	5	6	7	8	参加日数
北海道	8/29～9/3	6	1	1	1	1	1						5
青森	8/29～9/4	7	1	1	1	1	1						5
秋田	8/29～9/7	9	1	1	1	1	1						5
山形	8/30～9/5	7	1	1	1	1	1	1	1				7
岩手	8/29～9/7	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1		9
宮城	9/1～9/8	8			1	1	1	1	1	1			6
福島	8/29～9/2	5	1	1	1	1							4
新潟A	8/28～9/1	5	1	1	1								3
新潟B	8/28～9/3	7	1	1	1	1	1						5
新潟C	9/2～9/6	5				1	1	1	1	1			5
富山A	8/29～9/3	6	1	1	1	1	1						5
富山B	8/29～9/3	6	1	1	1	1	1						5
石川(自治体)	8/29～9/3	6	1	1	1								3
石川(補助団体)	8/26～9/1	7	1	1	1								3
福井	8/28～9/3	7	1	1	1								3
長野	8/26～9/1	7		1	1								2
茨城	8/28～9/2	6	1	1									2
栃木	8/29～9/3	6	1	1	1								3
群馬	8/28～9/4	7	1	1									2
埼玉	8/29～9/4	7	1	1	1	1	1						5
千葉	8/28～9/3	7	1	1	1								3
東京	8/29～9/7	10	1	1	1	1							4
神奈川	8/27～9/2	7	1	1	1	1							4
山梨	9/5～9/13	9							1	1	1	1	4
岐阜	8/29～9/3	6	1	1	1								3
愛知	8/29～9/7	10	1	1	1	1	1	1					6
滋賀	8/29～9/4	7	1	1	1								3
三重	8/29～9/6	9	1	1									2
京都	8/29～9/4	7	1	1									2
大阪	9/5～9/14	10							1	1	1	1	4
奈良	8/29～9/3	6	1	1	1								3
岡山	8/27～9/3	8	1	1	1	1	1						5
広島	8/30～9/4	6	1	1	1	1							4
鳥取	8/27～9/3	8	1	1	1	1	1						5
山口	8/27～9/3	8	1	1	1	1							4
福岡	8/28～9/4	8	1	1									2
大分	9/2～9/5	4				1	1	1	1				4
佐賀	8/28～9/4	8	1	1									2
鹿児島	9/3～9/9	7						1	1	1	1	1	5

有無・開催日時・テーマ

自治体名	開催有無		開催日時							テーマ
	有	無	31	1	2	3	4	5	6	
福岡		1								
大分		1								
長崎		1								
佐賀		1								
鹿児島	1							1		女性の自立のための経済対策と女性の起業
沖縄	1									1、開発と女性(環境と女性、うーじ染め) 2、武器によらない社会の実現 (軍隊・その構造的暴力と女性、沖縄での慰安婦問題、核兵器廃絶への行動、戦争マラリア問題、女性と平和パネル展示) 3、沖縄の慣習と権利(伝統的な慣習と性差別、高齢者と福祉) 4、女性と労働 5、うないネットワーク(以上開催日時記載なし)
札幌市	1		1							家事、育児、高齢者介護～これらはすべて女性の役割だろうか
仙台市		1								
千葉市		1								
川崎市	1		1							PEACE FROM KAWASAKI
横浜市	1								1	エンパワーする草の根市民、横浜からの発信
名古屋市	1					1				名古屋の女性の現状～日本の産業中心都市・名古屋の光と影
京都市		1								
大阪市		1								
広島市	1							1	1	核兵器廃絶と平和の創造
北九州市	1								1	女性と家族・女性と環境(アジア女性交流・研究フォーラム主催)
福岡市		1								
合計	24	26	10	4	2	1	1	1	3	1

表7 ワークショップ開催の

自治体名	開催有無		開催日時							テーマ
	有	無	31	1	2	3	4	5	6	
北海道		1								
青森		1								
秋田	1		1							秋田民話の女と男と世界自然遺産「しらかみ」
山形		1								
岩手		1								
宮城		1								
福島	1		1							Employment for Women (参加者自主企画)
新潟	1									新潟女性史クラブ・女のスペースにいがた主催。
富山A	1			1						女性の政治参画はなぜ進まないのか～伝統行事にひそむ女性差別 日本文化・茶道の紹介
富山B	1			1						ふるさと富山の自然と私たちの暮らし 環境・高齢化・男女共生社会、青少年健全育成、国際交流など
石川		1								
福井	1		1							男女共生と社会参画
長野		1								
茨城		1								
栃木		1								
群馬		1								
埼玉	1		1							男女の真のパートナーシップを目指して
千葉		1								
東京	1		1							Message from Tokyo
神奈川	1		1							かながわにおける女性への暴力
山梨		1								
岐阜	1			1						家庭・会社・地域社会における女性の力
愛知	1									1、愛知県における男女平等意識をめぐる啓発・教育 2、愛知県における高齢者社会と女性
滋賀		1								
三重		1								(別のワークショップの中で展示のみ行なった)
京都		1								
大阪	1								1	メディアにおける女性の表現(震災報道、CM、広告等題材)
奈良		1								
岡山		1								
広島	1		1	1	1					女性と平和
鳥取	1			1						鳥取県の女性の歴史と活動状況
山口	1									環境問題について山口の女性の活動・
香川	1		1							

表8 ワークショップ内容の分析

自治体名	我が自治体の話題か				ワークショップ内容											
	YES	NO	両方	不明	政治	労働	家事	高齢化	男女共生	教育	メディア	文化	環境	平和	暴力	その他
秋田	1											1				
福島		1				1										
新潟				1												
富山A			1		1							1				
富山B	1							1	1	1			1			1
福井		1							1							
埼玉	1								1							
東京	1															1
神奈川	1														1	
岐阜			1													1
愛知	1							1	1							
大阪		1									1					
広島			1											1		
鳥取	1											1				1
山口	1												1			
香川		1											1			
鹿児島			1			1										
沖縄			1					1				1	1	1		1
札幌		1					1									
川崎	1													1		
横浜	1															1
名古屋	1					1				1						
広島市			1											1		
北九州		1											1			1
合計	11	6	6	1	1	3	1	3	4	2	1	4	5	4	1	7

表9 ワークショップ内容の分析2

a. 自治体の話題

自治体名	ワークショップ内容										
	政治	労働	家事	高齢化	男女共生	教育	メディア	文化	環境	平和	暴力
秋田								1			
富山B				1	1	1			1		1
埼玉					1						
東京											1
神奈川										1	
愛知				1	1						
鳥取								1			1
山口									1		
川崎										1	
横浜											1
名古屋		1				1					
合計	0	1	0	2	3	2	0	2	2	1	4

b. 自治体ではない話題

自治体名	政治	労働	家事	高齢化	男女共生	教育	メディア	文化	環境	平和	暴力	その他
福島		1										
福井					1							
大阪							1					
香川									1			
札幌			1									
北九州									1			1
合計	0	1	1	0	1	0	1	0	2	0	0	1

c. 両方

自治体名	政治	労働	家事	高齢化	男女共生	教育	メディア	文化	環境	平和	暴力	その他
富山A	1							1				
岐阜												1
広島										1		
鹿児島		1										
沖縄				1				1	1	1		1
広島市										1		
合計	1	1	0	1	0	0	0	2	1	3	0	2

d. 合計

自治体名	政治	労働	家事	高齢化	男女共生	教育	メディア	文化	環境	平和	暴力	その他
自治体	0	1	0	2	3	2	0	2	2	1	1	4
非自治体	0	1	1	0	1	0	1	0	2	0	0	1
両方	1	1	0	1	0	0	0	2	1	3	0	2
合計	1	3	1	3	4	2	1	4	5	4	1	7

表10 ワークショップの成果と反省点分析
 成果と反省の目立った点3点について集計した。

- 成果1、 情報発信・意見交流ができた
 2、 女性問題への意識の高まり、各自の力量の高まり
 3、 ネットワークができた
- 反省1、 準備不足
 2、 当日の時間不足
 3、 語学の問題

自治体名	成果			反省点		
	情報発信	意識の高まり	ネットワーク	準備不足	時間不足	語学の問題
秋田				1		
福島		1				
新潟						
富山A	1	1	1	1		
富山B	1	1			1	
福井						
埼玉	1	1				
東京	1	1				
神奈川						
岐阜		1				
愛知	1					1
大阪	1					
広島	1	1				1
鳥取		1			1	
山口				1		
香川					1	
鹿児島			1			
沖縄			1			1
札幌	1		1			
川崎	1					1
横浜						
名古屋	1	1	1		1	
広島市					1	1
北九州	1				1	
合計	11	8	6	2	6	5

表11 ワークショップの成果と反省点（詳細）

自治体名	コメント
秋田	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムから脱落していたため、会場の確保、聴衆の確保に難儀した。 ・4月に入ってから結成した急造の団であったため、準備不足。 ・世界の人々との女性問題への認識の違いを感じた。
福島	<p>派遣団としてではなく、NGOフォーラムの参加者が自主的に開催した。</p> <p>ワークショップを開催する中で、日本の地域社会や家庭での不平等を各々が意識するようになり、男女差別のない地域社会の実現を目指した組織づくりへの動きが活発になっている。</p>
新潟	<p>参加者のうち、新潟女性史クラブと女のスペースにいがたの2団体が実施したが、直接県が関与しなかったので詳細は不明。</p>
富山A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域性を踏まえた問題について、世界各国の参加者と意見交換することにより、富山の情報が発信できた。 ・女性問題は各国共通することを認識し、女性問題解決に向けて、女性のネットワーク作りの足掛かりを得た。 ・ワークショップ開催に向けての準備を進める中で、参加者の意識を高め、県内の女性の活動の活性化を促した。 <p>反省点：ワークショップの開催の決定から開催まで、準備期間が限られている中で、精一杯の努力がなされたが、今後は日頃からの継続的取り組みの集大成として、フォーラムに参加することの必要性があげられた。</p>
富山B	<p>成果：世界各国100名余りの人々との話し合い、メッセージ交換等ができ、環境教育・平和等について意見交換し、富山の情報を発信できた。準備に置ける学習は参加者の意識を高め、事後の学習・報告会は、参画への意識の高揚と、広く一般県民へのアピールとなり、今後の女性の活動の大きなステップとなった。</p> <p>反省点：課題が多岐にわたっていて、短時間のワークショップでは情報交換が中心となった。次回は焦点を定め、深めたい。</p>
福井	<p>女性センター建設促進運動が実現したことなど、反響を呼び、参加は16か国106人に及んだ。英語、中国語、日本語の通訳を用意したため、スムーズにディスカッションが行なわれた。</p>
埼玉	<p>参加状況：（アメリカ・タコマ市の人権局に勤務しているジュディ・フォーティーアーさんの話）まず投票に行つて政治を変えることが必要です。女性の権利拡大のために頑張ってください。このワークショップは大変意義がありました。成功でしたね。</p> <p>室町団長からのコメント：団員一人一人がこのワークショップのために精一杯力を尽くすことができ、大変満足しています。世界の人々に「影の国さいたま」を知ってもらふまたとない機会となりました。</p>
東京	<ul style="list-style-type: none"> ・東京の女性の現状を各国の人々に報告できたとともに、意見交換を通して様々な国の女性問題の状況を直接聞き、交流することができた。 ・ワークショップの準備をとおして、これまで見ず知らずだった団員同士理解し合い目標に向かって協力する過程を体験し、各々のエンパワーメントに寄与できた。
神奈川	<p>記載なし。</p>

岐阜	団員の友人・知人が興味を持って、新聞・テレビなどで女性会議に関するニュースを見たり話題にすることで、フォーラムに参加しなかった人に対しても啓発ができた。
愛知	海外の参加者の質問レベルも高く、有意義な交流が図れた。 反省点:会議の公用語に日本語が入っていなかったため、英語で発表したところ、日本人の参加者から苦情が出た。
大阪	「メディアと女性」というテーマでワークショップを開催したが、関心の高いテーマであったのか、各国からの多数の参加があり、幅広い意見交換がなされ、交流が深まった
広島	<ul style="list-style-type: none"> ・三日間の連続開催で、500人にのぼる参加者を得て大きな成果をあげることが出来た。 ・平和のアンケートに多くの参加者が熱心に回答してくれた。翻訳・分析して貴重な平和の資料とする。 ・持参した原爆の写真・ポスターや平和のリボン等は「国際センターに展示したい(中国・アイルランド)」「中学校の教材にしたい(中国)」「ピースセンターで展示したい(フォーラム会場ピースセンター職員)」の申し入れがあり、すべて差し上げた。平和が広がることを祈念する。 ・世界の女性たちの問題意識の高さ、エネルギーな行動力、パワーには学ぶべきものが多かった。 ・北京会議で採択された行動綱領について、学習を深め、地域活動その精神を広めていく努力が必要である。
鳥取	<ul style="list-style-type: none"> ・準備段階で女性の歴史を学んだ(地域の女性の活動も含めて)。自費参加者13名と派遣団員7名の計20名で大きなワークショップが開催できた。 ・観客との意見交換の時間をもっと多く取れたらよかった。
山口	公募による参加者集団なので、ワークショップへの取り組みが遅く、アンケートやデータの集約が不足していた。今後はワークショップを出すグループと一般参加者とに区分して公募したい。
香川	記載なし。
鹿児島	さつまいもの加工技術等について、アフリカ諸国との交流の芽ができた。
沖縄	<ul style="list-style-type: none"> ・開催の日時が申込みのとおりに行かず困りました。 ・英語、日本語で配布資料の用意はできましたが、英語力のない者は質疑応答に極めて不便を味わいました。 ・帰任後も運動の輪は広がり、予想をはるかに上回る成果だと実感しています。

自治体名	コメント
札幌市	ワークショップの開催により、日本の現状を訴え、また世界の状況と比較できたことは大変意義があったと思う。その場で知り合った各国の女性たちと、帰国後に連絡を取り合い活動が続けている団員もあり、世界規模での活動の大きなステップになったと思う。
川崎市	七夕の短冊に各国の参加者が平和を祈るメッセージを書き込み、交流を深められた。テントに壁がなく、パネルを展示するのが大変だった。 ことばの壁や時間の制約で、十分に討議を進められなかった。 市の花のコサージュ作りを文化交流と開いたが、大変好評で、100個があつと言う間になくなった。
横浜市	雨天で開催予定テントがつぶれたにもかかわらず、場所の確保をして予定通りワークショップを開催することができ、どのような状態でも臨機応変に対応する必要性を参加者が感じ、そんなしなやかさが、女性が様々な問題乗り越えていく上での大切な要素だと実感した。
名古屋市	労働及び教育を中心とする日本の女性の現状について、英語による寸劇とデータ分析を交えて報告するなど、手法に工夫をこらしたため、参加者の理解が得られた。また課題を解決するための方策について充実した討論を行なうとともに、今後の定期的な情報交換の申し出もあり、新たなネットワークを図ることができた。 反省点:時間的な制約もあり、行政や市民の活動について十分説明しきれなかったということがあげられる。
広島市	成果:海外では思いの外、原爆被害の実態について知られていないという事実を認識できた。また、国内・国外の女性のネットワークによって、このような訴えの声を大きく広げることが大切だということを認識できた。 反省点:事前のPR不足、ロビー活動のノウハウのなさを痛感した。今後は政府間会議への意見を反映できるような方法を考えないといけないと思った。
北九州市	悪天候にもかかわらず、多数の外国の方々に参加していただき、討論も充実した内容で開催でき、参加者一同満足できた。

長崎			旅費は全額個人負担。現地女性との交流、バス借り上げ料等県負担。
鹿児島	5,137,000		
沖縄(補助団体)	2,300,000		
札幌市	1,700,000		
仙台市	320,000	106,900	
千葉市	800,000		
川崎市	4,000,000		
横浜市		180,000	旅費、滞在費の半額。
名古屋市			一人当たり旅費の1/2を負担。
京都市	1,190,000		
大阪市	4,552,000		
広島市	5,153,900		市として支出した旅費、委託料など。
北九州市	1,900,000		渡航費用
福岡市		150,000	
平均額	2,824,504	161,843	

表12 補助金額

自治体名	総額	一人当たり	備考
北海道(補助団体)	2,600,000		
青森			
秋田	1,907,730		
山形			
岩手(補助団体)	1,825,000		
宮城			
福島	2,600,000		
新潟(補助団体)	950,000		
富山A(補助団体)	1,500,000		生活環境部女性青少年課から富山県婦翔会へ。
富山B(補助団体)	5,500,000		県教育委員会生涯学習室から富山県婦人会へ。
石川(自治体派遣)	3,100,000		派遣事業費総額。うち旅費助成は1,614,000。
石川(補助団体)			通訳、現地交流経費等の共通経費を助成。
福井(補助団体)	1,300,000		
長野	2,000,000		
茨城	4,140,000		
栃木		348,000	一人当たりの経費522,000のうち2/3を県が負担。
群馬	1,685,000		
埼玉(補助団体)	3,387,000		
千葉	2,208,000		
東京		138,000	
神奈川(補助団体)	6,000,000		
山梨	2,208,000		1グループ当たりの額、3,122,000。
岐阜			渡航費の半額(具体的金額記載なし)。
愛知	8,700,000		
滋賀	1,000,000		
三重	6,633,000		
京都	1,650,000	110,000	総費用の1/3補助。
大阪	3,461,000		
奈良			
岡山			
広島	4,500,000		
鳥取			
山口(補助団体)	1,850,000	100,000	
香川	1,000,000		委託費。
福岡	100,000		
大分			
佐賀			

メンバー決定の方法

自治体名	一般公募・小論文	一般公募・抽選	公募なし	その他	備考
福岡	1				二次は面接
長崎				1	旅行社が募集
大分	1				一般公募、全員参加
佐賀	1				及び面接
鹿児島				1	一般公募し、実行委員会により選考
沖縄				1	本県では実行委員会主導で活動を行い、実行委員会に参加した希望者は全員参加できた。選考はなし。
札幌市	1				及び面接。
仙台市	1				
千葉市	1				及び面接。
川崎市				1	すすめる会5名の申込み、フォーラム等の委員5名には申込みと小論文を提出してもらった。資格は市内在住・在勤で20歳以上、健康で協調性があること。
横浜市	1				
名古屋市	1				及び面接
京都市				1	市民組織である京都市男女共同参画市民会議の運営委員会からの推薦による
大阪市				1	団体推薦による
広島市	1				団体推薦5名。面接も。
北九州市	1				
福岡市	1				レポート・面接
選考方法合計	25	0	8	17	

表13 派遣団の

自治体名	一般公募・小論文	一般公募・抽選	公募なし	その他	備考
北海道				1	一般公募し、選考委員会で決定
青森	1				
秋田	1				
山形	1				及び書類
岩手				1	各女性団体から適任者推薦
宮城			1		
福島	1				及び面接
新潟					
富山A				1	団体が会員に呼びかけ、参加者を募る
富山B				1	県婦人会で会員に公募
石川(自治体)				1	市町村長の推薦等により選考
石川(補助団体)				1	女性基金主催学習会参加者から募集
福井				1	団体内で選定
長野	1				
茨城			1		女性団体からの推薦
栃木	1				
群馬			1		県女性人材データベースに登録している女性の中から選定。
埼玉			1		
千葉			1		女性団体を有する各部局からの推薦
東京			1		区市町村から推薦
神奈川				1	かながわ女性会議内部で公募
山梨			1		女性団体の長の推薦。
岐阜	1				
愛知				1	県内の学識経験者、女性団体活動者(地域婦人団体、市町村推薦を含む)
滋賀	1				
三重	1				及び面接
京都			1		府内全域で活動している女性団体の長からの推薦をもとに選考
大阪	1				
奈良	1				作文と面接
岡山	1				及び書類・面接
広島	1				及び面接
鳥取				1	市町村長の推薦者について、選考委員会を開催し、小論文・面接により決定
山口	1				
香川				1	県各婦人団体から希望者を募った

分類

3、北京会議の状況

4、行動綱領原案

自治体名	勉強会開始月									回数	勉強会内容				その他
	12	1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	
広島						1				4		1	1	NGOフォーラム参加の 為の準備	
鳥取						1					1	1	1	世界女性会議啓蒙講演 会出席、中国事情、中 国語会話	
山口										3		1	1	1	
香川														ワークショップ勉強会 、準備	
福岡		1									1	1	1	1	
大分												1	1	1	日本の女性事情、アジ アの女性事情
佐賀											1	1	1	1	英会話、中国語会話、 北京・上海概要
長崎															行なわなかった
鹿児島						1					1	1	1	1	
沖縄	1										1	1	1	1	6分野11の各テーマご とにワークショップ事 前調査・研究、中国留 学生との交流、アジア 女性との文化交流の 為の歌・踊り・カンパ
札幌						1					1	1	1	1	中国の現状など
仙台		1								4	1	1	1	1	中国・タイ・マレーシ アの留学生と懇談会
千葉市										3	1	1	1	1	
川崎					1						1	1	1	1	中国語学習、ワークシ ョップ準備、「アジア 女性の元現状について 」講演会(映画評論家 ・佐藤忠雄氏)
横浜				1							1	1	1	1	
名古屋					1						1	1	1	1	中国の女性の現状(施 設訪問・団体交流のた め)
京都市						1					1	1	1	1	
大阪市				1							1	1	1	1	
広島市						1					1	1	1	1	ワークショップの準備 (リーフ作成など)
北九州						1					1	1	1	1	中国語会話、日中間係 と女性、中国の政治経 済事情等
福岡市					1						1	1	1	1	日本女性史、現代中国 事情、福岡市の概要
合計	2	3	0	5	7	16	3	10	2	3.2	36	44	46	28	

表14 準備段階での勉強会
勉強会内容は、以下のように
1、女性問題の基礎知識
2、過去の女性問題の状況

自治体名	勉強会開始月								回数	勉強会内容				その他	
	12	1	2	3	4	5	6	7		8	1	2	3		4
北海道									1		1	1	1	1	中国の国内事情等
青森								1			1	1	1	1	中国事情、中国語
秋田						1			4		1	1	1		国際交流の基礎知識
山形					1							1	1	1	
岩手								1			1	1	1		
宮城					1						1		1	1	
福島				1							1	1	1	1	
新潟		1							5						アジア・日本・女性・その関係/私の中国体験から
富山A	1										1	1	1	1	ワークショップ準備
富山B				1							1	1	1	1	
石川(自治体)								1	1				1		
石川B(補助団体)											1	1	1	1	
福井						1						1	1		
長野						1					1	1	1		中国の歴史と現状、国際交流の事例発表
茨城											1	1	1	1	
栃木					1				3		1	1	1	1	宇都宮大学にて公開講座
群馬								1				1	1		
埼玉					1							1	1	1	
千葉								7			1	1	1	1	
東京						1					1	1	1	1	東京都の女性施策、中国の女性事情
神奈川															ワークショップ開催に向けての調査・研究など
山梨							1				1	1	1	1	
岐阜					1						1	1	1	1	
愛知					1							1	1	1	ワークショップ、パネル展示に関わる学習
滋賀					1										従軍慰安婦問題について
三重						1			5		1	1	1		
京都							1					1	1	1	
大阪				1							1	1	1		ワークショップ事前準備
奈良							1		3		1	1	1		女性施策概要、ワークショップ事前研究、NGOに期待されるもの、アジアの中の日本
岡山						1					1	1	1		

集めた資料

自治体名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他・特記事項
京都	1	1		1	1	1		1			関連冊子「北京につどう」「アジア女性研究フォーラム」等、ビデオ(中国事情、慰安婦問題等)
大阪						1		1	1		阪神・淡路大震災に関する新聞記事・写真集・文献。固定的性別役割分担を助長するようなポスター類(ドーンセンター資料他)
奈良							1		1		女性政策の概要、ワークショップ参加に向けての事前研究(働く女性の権利、リテラシー教育の確立について、女性への暴力)、NGOに期待されるもの、アジアの中の日本
岡山											特になし
広島						1	1				大学教師の講義レジュメ、16ミリフィルム(男女平等への道等)、女たちの21世紀
鳥取									1		ワークショップ「鳥取県の歴史と活動状況」(英語による朗読劇と写真パネル展)に必要な資料(女性史、写真等)。図書館、民間より
山口											
香川											記載なし
福岡		1	1			1					
太分		1		1		1		1			
佐賀											現地で交流する団体、施設の概要
鹿児島							1				
沖縄											多岐に渡る(具体例なし)
札幌市					1	1					北京につどう(社会新報ブックレット)
仙台市	1	1						1	1		
千葉市		1				1				1	
川崎市		1	1								他の自治体の過去の女性会議資料
横浜市											
名古屋市	1	1			1						日本及び中国の概況、両国の女性の現状と施策に関する資料、訪問都市資料など
京都市	1	1									
大阪市						1					特になし
広島市	1	1	1			1	1			1	中国と日本(日中友好協会)、「ナイロビ戦略と女性の未来」(国際婦人年大阪の会)、「フォーラム85-国連婦人の10年ナイロビ会議」国際婦人教育振興会、婦人展望、女性ニュース、女たちの21世紀、原爆・核兵器関連書籍多数
北九州市		1								1	
福岡市		1		1	1	1					
合計	12	22	8	7	8	21	11	9	10	5	

主な資料を分類し、統計をまとめた。

表15 準備期間で

1. 行動綱領原案
2. 総理府ニューズレター、参画室会報「えがりて」、その他総理府からの通知
3. 過去の女性会議の記録
4. ナショナルレポート、カントリーレポート(日本)
5. (財)アジア女性交流・研究フォーラム「中国の女性」
6. あごら北京会議シリーズ(購入した)
7. NGO発行資料(5、6除く)
8. 新聞・雑誌記事
9. 地元関連資料、自治体所蔵資料、ワークショップ用資料
10. 旅行会社資料

自治体名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他・特記事項
北海道											記載なし
青森					1	1		1			
秋田					1				1		環境、高齢化資料(県内)
山形											記載なし
岩手		1									
宮城											記載なし
福島	1	1		1						1	
新潟		1				1	1			1	
富山A		1				1	1				国連婦人の十年、女子差別撤廃条約に関する動向、北京会議の準備状況
富山B											国連婦人の十年、女子差別撤廃条約に関する動向、NGO日本女性・6月会議申し合わせ
石川				1	1	1		1			ビデオ「それでも生きた」、政府刊行物センター、講師等
福井		1	1								前回参加者持参情報
長野	1	1	1	1			1			1	
茨城	1			1		1					
栃木	1		1						1		第3回世界女性会議NGOフォーラム栃木報告書
群馬	1	1	1					1			
埼玉		1				1			1		
千葉											記載なし
東京		1				1	1		1		「女性問題に関する国際比較調査」報告書作成、各市町村でのNGO活動状況など
神奈川						1					記載なし
山梨						1			1		団員それぞれが身近な地域の中での女性問題について(政治、経済、農村女性の問題など)資料、データ等を集めて話し合った。
岐阜	1	1	1			1	1				
愛知									1		ワークショップ、パネル展示の関係資料が多くなったため、県関係部局(民生、衛生、環境)からの資料が中心
滋賀	1				1	1		1			
三重		1					1	1			

開催の状況

自治体名	95年9月	10	11	12	96年1月	2	3	日時なし	回数合計	開催せず
札幌		2							2	
仙台		1							1	
千葉市				1					1	
川崎				1					1	
横浜		1							1	
名古屋				1					1	
京都市		1							1	
大阪市		1							1	
神戸市						1			1	
広島市			1						1	
北九州						1			1	
福岡市			1						1	
政令指定都市合計	0	6	2	3	0	2	0		1.0833	0
総計	7	26	20	13	8	8	1			3

表16 報告会

自治体名	95年9月	10	11	12	96年1月	2	3	日時なし	回数合計	開催せず
北海道		1	1						2	
青森			1						1	
秋田		1							1	
山形		1							1	
岩手						1			1	
宮城						1			1	
福島				2	1				3	
新潟		1							1	
富山a			1						1	
富山b			1						1	
石川a									0	1
石川b					1	2	1		4	
福井									0	1
長野		1							1	
茨城				1					1	
栃木				1					1	
群馬		1							1	
埼玉	1	1	1	1	2				6	
千葉		1							1	
東京									0	1
神奈川		1							1	
山梨			1		1				2	
岐阜		1							1	
愛知		1	2			1			4	
滋賀	1	1							2	
三重			1						1	
京都		1		1	1				3	
大阪			1						1	
奈良				1					1	
兵庫	1								1	
岡山		1	1		2				4	
広島			1						1	
鳥取			1						1	
山口	1	1	1	1					4	
香川			1			1			2	
福岡			1	1					2	
大分			1						1	
佐賀		1	1						2	
鹿児島		1							1	
沖縄	3	3		1				5	12	
都道府県 合計	7	20	18	10	8	6	1		1.875	3

表17 報告書作成について

都道府県	はい	いいえ	部数	総予算	残あり	残なし	有料	無料
北海道		1						
青森	1		220	240,000		1		1
秋田	1							
山形		1						
岩手	1		100	コピー代のみ	1			
新潟	1		1000	503,000	1			1
石川	1		200	168,000	1			1
福井		1						
長野	1		500					1
茨城	1		1100	900,000				1
栃木	1		2000	800,000				1
群馬	1		550	475,000		1		1
埼玉	1		500	781,688	1			1
千葉	1		500	850,000		1		1
神奈川		1						
山梨	1		400	519,000	1			1
岐阜	1		1500	750,000		1		1
滋賀	1		100	ナシ				
三重	1		500	750,000	1			1
京都	1		1500				1	
奈良	1		600	297,000		1		1
鳥取	1		800	400,000		1		1
香川	1		1000	1,200,000	1			1
大分	1		500	450,000	1			1
佐賀	1		500	500,000	1			1
長崎	1		600	900,000	1			1
鹿児島	1		600	911,720	1			1
沖縄	1							
都道府県 合計	24	4			11	6	1	19
政令指定都市名								
札幌	1		400	463,500	1			1
仙台	1		500	267,800	1			1
千葉市	1		100	200,000	1			1
横浜	1		1000	派遣事業費に含む		1		1
名古屋	1		3000		1			1
京都市	1		300	87,000		1		1
広島市	1		500	321,360	1			1
北九州	1		500	721,000		1		1
政令指定都市合計	8	0			5	3	0	8
総計 (平均)	32	4	719	498,373	16	9	1	27

表18 報告書の配布先

都道府県	配布先
北海道	
青森	県内市町村、他県、政令指定都市、関係機関等
秋田	
山形	
岩手	参加団員、女性団体、市町村、関係機関等
新潟	市町村、団体
石川	女性団体、グループ、市町村、各都道府県等
長野	市町村、女性団体
茨城	都道府県、市町村、女性団体
栃木	市町村、他県、公立機関、報道機関、学校等
群馬	女性団体等
埼玉	団員、庁内関係課所、協議会委員、女性団体、議会、他都道府県、国機関等
千葉	行政機関、図書館、女性施策推進懇談会委員、女性団体など
神奈川	
山梨	各都道府県、指定都市女性行政主管課長、各市町村長、各地方進行事務局、女性団体長、各女性センター、やまなし女性いきいき推進懇話会委員
岐阜	他県、県内市町村、女性団体
滋賀	県内市町村他
三重	各都道府県、県内市町村、他公共施設、各女性センター
京都	女性団体、一般に販売（一冊1000円）
大阪	
奈良	各都道府県、県内市町村、県内図書館、県内女性団体など
香川	総理府、各都道府県、女性センター、各市町、各種団体等
大分	市町村、女性団体、女性リーダー、庁内関係課等
佐賀	
長崎	各市町村、女性団体、参加者、県関係
札幌	各短大・大学、他都道府県、指定都市、女性行政担当課等関係部局、市内女性団体など
仙台	各自治体、北京会議・女性海外研修参加者、他
千葉市	女性団体、庁内関係課
横浜	関係者、他都市、国、図書館、報道機関等
名古屋	都道府県、指定都市、女性センター、庁内各局、女性団体等
京都市	市内市民団体、他都市等
大阪市	
広島市	関係団体、行政機関、協力者等
北九州	各自治体、関係機関、報告会参加者等

自治体との関わり

自治体名	行動計画審議委員	センター設立	センター開所	その他	派遣なし	その他の内容
札幌	1	1	1	1		女性リーダーとして行政関係会議への出席、女性政策課主催のイベント等での補助など。
仙台				1		女性企画課で行なっている啓発事業の企画運営に参加
千葉市				1		
川崎						
横浜				1		各種報告会に参加
名古屋				1		報告書作成、報告会開催。他に各事業において、その経験を生かして実行委員として活動
京都市	1		1			
広島市				1		
北九州				1		
政令指定都市合計	2	1	2	7	0	
総計	6	1	12	22	5	

表19 その後の団員と

4項目に分類して調査・集計した。

1、自治体の女性施策行動計画審議（策定）委員会に参加

2、自治体の女性センター設立に参画

3、女性センターの講座を企画・講座の講師など

4、その他

自治体名	行動計画審議委員	センター設立	センター講師	その他	派遣なし	その他の内容
北海道(記載なし)						
青森				1		審議会委員に登用
秋田				1		
山形				1		山形県女性施策推進懇話会
岩手	1					
新潟			1			
石川			1			
福井				1		福井女性財団研修会講師など
長野			1			
茨城				1		
栃木			1			
群馬				1		
埼玉	1			1		
千葉				1		女性施策推進のためのフォーラム等での講師
神奈川						かながわ女性会議の活動として
山梨	1		1			
静岡						
岐阜			1	1		女性政策課の調査研究審査機関「女性の21世紀委員会」の委員
滋賀			1	1		市町村の女性政策担当者、各種委員、講師など。
京都			1			
大阪						
奈良	1		1			
兵庫					1	
鳥取				1		
香川				1		県で開催する講演会や講座の企画・講師など
徳島					1	
大分					1	
佐賀				1		女性センター事業の実行委員
長崎				1		
熊本					1	
宮崎					1	
鹿児島				1		県の「国際交流女性のつどい」実行委員として参加。所属団体、地域での報告。
沖縄			1			
都道府県 合計	4	0	10	15	5	

表20 代表団メンバーの活動継続のために自治体が援助しているか

都道府県	はい	いいえ	具体的な内容
北海道		1	
青森		1	
秋田		1	
山形		1	
岩手		1	
新潟		1	
石川	1		事後報告会の開催（5回）NGO石川ネットワークに研究委嘱し助成（3カ年）
福井		1	
長野		1	
茨城		1	
栃木		1	
群馬	1		女性グループのネットワーク化を考えており、有力なメンバーとして参加していただく
埼玉		1	
千葉		1	
神奈川	1		かながわ女性会議に対して補助金の交付（運営費等）を行っている
山梨	1		「やまなし女性海外セミナー」参加者で組織する「山梨県女性のつばさ連絡協議会」（事務局：女性政策室）のメンバーとしての活動を支援している。
岐阜		1	
滋賀		1	
京都		1	
奈良		1	
広島		1	
香川		1	
佐賀		1	
長崎		1	
鹿児島		1	
沖縄		1	
都道府県 合計	4	22	
札幌		1	
仙台		1	
千葉市		1	
横浜		1	
名古屋		1	
京都市		1	
広島市	1		
北九州	1		
政令指定都市合計	2	6	
総計	6	28	

表21 北京会議で海外とのネットワークはできたか

都道府県	はい	いいえ	その他	具体的な内容
北海道		1		
青森		1		
秋田		1		
山形		1		
岩手			1	参加団員のその後の交流状況については把握していない
新潟		1		
石川		1		
福井		1		
長野		1		
茨城		1		
栃木		1		
群馬		1		
埼玉	1			ルワンダの女性代表と派遣団員とが北京のNGOフォーラムで知り合い、地域で「グループ・フォー・Friend of Rwanda」を結成。「世界女性みらい会議」でルワンダに関するワークショップを企画参加。現在もルワンダ大使館との交流を続けている。
千葉		1		
神奈川			1	報告書参照
山梨		1		
岐阜		1		
滋賀		1		
三重		1		
京都		1		
奈良		1		
鳥取		1		
香川			1	把握していない
佐賀		1		
長崎		1		
鹿児島		1		
沖縄	1			平和や環境問題でネットワークしている。
都道府県 合計	2	22	3	
政令指定都市名				
札幌		1		
仙台		1		
千葉市		1		
横浜		1		
名古屋		1		
京都市		1		
広島市		1		
北九州		1		
政令指定都市合計	0	8	0	
総計	2	30	3	

どう生かしているか

都道府県	北京会議の成果をどのように生かしているか
香川	現在改定作業を進めている本県の女性に関する行動計画に北京会議行動綱領において明らかにされた新たな課題を可能な限り盛り込んでいく予定である。
佐賀	県の行動計画「さが女性プラン21」の改定に当たり、行動綱領の内容に沿うよう配慮した。
長崎	記載なし
鹿児島	・今後改定予定の「県の行動計画」に反映 ・各種研修会での啓発 ・市町村への啓発
沖縄	NGOで参加した人が県のフォーラム等に出席してもらったりしている。
札幌	報告書、報告会を通じて広く市民到北京会議の意義や内容を周知した。また、北京会議で示された新しい女性運動の視点である女性の人権の確立や女性のエンパワーメントなどを、第二女性センターの設立に向けた基本構想の中に盛り込んだ
仙台	女性行動計画の改定作業の中で参考にしていく
千葉市	当室主催の講演会のテーマとして「女性のエンパワーメント」「パートナーシップ」をとりあげ、市民の女性の地位向上の意識改革の醸成を図った。
横浜	次回の「ゆめはま男女共同参画プラン」改訂時に北京会議後の新たな視点を入れる予定
名古屋	本市は平成7年3月に策定した「男女共同参画プランなごや」に基づき女性行政を推進しているが、今後北京会議で採択された「行動綱領」及び国の「男女共同参画2000年プラン」などを踏まえ、具体的な施策・事業の展開を検討していく予定である。
京都市	今年度が本市の女性行動計画の中間見直しに当たり、世界女性会議の動きを取り入れるよう検討されている
広島市	西暦2000年に向けた「ひろしま21世紀女性プラン」の改定及び施策の実施に資する。
北九州	「北京宣言及び行動綱領」に基づいて作成された国の「男女共同参画2000年プラン」を参考に、本市女性プランも改定していく予定

表22 北京会議の成果を

都道府県	北京会議の成果をどのように生かしているか
北海道	記載なし
青森	採択された行動綱領にもとづき、県の行動計画の見直しを検討中
秋田	特別には取り上げていない
山形	民間レベルで女性の地位向上と福祉増進の活動を行う団体「新やまがたひゅーまんらいふフォーラム」の活動として（県で運営費を補助）・山形女性の地域社会の為に「自らの行動綱領づくり」（平成8～9年度）・世界の女性の地位向上と現状を考えるフォーラム（平成7年10月28日、県共催）
岩手	特になし
新潟	新潟県では、個人への参加費補助という形態で北京会議への参加者を集めたのではなく、参加の意向を持っていた個人に対して、事前学習や渡航手続き等を含む会議参加の為に便宜を図る目的で、モデル的参加プログラムを県民に対し示し、その経費を負担したものです。従って、直接的に参加者あるいは県としてまとまって参加した事に対して成果を求めたものではありません。結果的には百名ほどの参加者があり、そのネットワークは県内でも大きな力となっています。
石川	「第4回世界女性会議フォローアップと国境を越えたパートナーシップの形成」をテーマに、平成8年6月22日に総理府・石川県・（財）いしかわ女性基金の主催で「国際レディースフォーラム」を開催。県内外から約1,000人が参加。
長野	信州女性プラン21に反映 ・推進体制の整備 ・公職への女性登用 ・海外派遣研修においてWIDの視点を取り入れる（平成9年予定）
茨城	団員が各地域で個別に報告会等を行い、意識の普及に努めた。
栃木	とちぎ新時代女性プラン三期計画（平成8年3月策定）に行動綱領の内容を反映させている
群馬	北京会議に参加した民間人を中心にして「ぐんま女性会議96」を開催するなど、民間における女性団体活動の活性化が図られている
埼玉	・県内5か所で派遣団員による報告を実施 ・国際会議（世界女性みらい会議）を平成8年4月に開催し、モンセラ氏、サンチャゴ氏らを招聘、県民に直接その趣旨をアピール ・世界女性みらい会議にNGOフォーラムのようなワークショップを取り入れ、2日間で67団体が参加 ・埼玉県計画に反映
千葉	・県主催のフォーラム等で、テーマとして取り上げた ・広報紙で県民にPR（行動綱領・北京宣言概要掲載） ・総理府発行の報告書を市町村等に配布
神奈川	現在改定作業中の「女性プラン」の中に北京会議で採択された行動綱領の「女性の人権」や「参画のためのエンパワーメント」などの考え方を具体的な施策として取り入れていく
山梨	・「やまなし女性いきいきプラン」の改訂 ・「やまなし女性海外セミナー」はこれまで吹米への派遣を行ってきたが、平成8年度からアジアへ派遣することとし、今年度はインド、タイ、マレーシアを訪問した。
岐阜	平成10年度に改定する次期プランに反映させたい。
滋賀	行動綱領のテーマに沿った連続講座の開催
三重	記載なし
京都	京都府女性行動計画（KYOあけぼのプラン）に反映
奈良	記載なし
鳥取	・男女共同参画プラン策定の参考とした ・女性団体の自主活動を高めるための支援策を推進

表23 自治体独自の行動綱領の計画

自治体名	95年	96年	97年	98年	現在の物産続	未定	予定なし	記載なし
北海道			1					
青森						1		
秋田		1						
山形								1
岩手						1		
宮城						1		
福島						1		
新潟								1
富山			1					
石川						1		
福井		1						
長野		1						
茨城						1		
栃木					1			
群馬						1		
埼玉		1						
千葉	1							
東京			1					
神奈川		1						
山梨							1	
岐阜				1				
愛知	1							
滋賀						1		
三重								1
京都					1			
大阪						1		
奈良		1						
和歌山	1							
兵庫	1							
岡山		1						
広島			1					
鳥取	1							
島根								1
山口						1		
香川						1		
徳島			1					
愛媛						1		
高知					1			
福岡						1		
大分						1		
佐賀		1						
長崎						1		
熊本			1					
宮崎		1						
鹿児島						1		
沖縄			1					
都道府県 合計	5	9	7	1	3	16	1	4

I
それぞれの旅

II
自治体派遣の実情

III
NGOフォーラムで語られたこと

IV
マスメディアは何を伝えたか

V
政府間会議の討議と資料

VI
ポスト北京——問題点と行動

これからの行動、そして5年後の会議を目指して
北京会議の総括をしています。

皆様の印象記、報告会の様子、おもしろかった外
国のワークショップ等々、原稿・写真・資料をお
待ちしています。

〒160 東京都新宿区新宿1-9-4-303

あごら「北京会議記録集」係



さまざまな序列に縛られ、その便利さにどっぷりつかってもいる。タテ社会の目盛りもしっかり持っていて、初めてたずねた会社や学校でも、何気なく耳に入る会話から役職や序列をすばやくキャッチし、上下をはかるタテ目盛りの中へ無意識にはめ込んでいる自分の性癖に気づいた次第。敬語が発達し、気配りがこまやかな元もこれかもしれないと考えたりもした。軽々に批判などできないという異文化体験。これも！

Holland (オランダ) は俗称、を説明しようとして遠く脱線してしまったが、正式名は the Netherlands、表題の語である。nether (低い) と lands (土地) の合体した語だから、これも本来は普通名詞。ベルギーも時にそう呼ばれ、われわれには紛らわしいが、もともと人名も地名も分解して普通名詞化してしまえば似たようなもので、その境界はごくわずかともいえる。戦争のたびに変わる領主の名をいちいち覚え直すのは煩わしかったろうが、それ以上に「だれが領主でもわれわれの生活は変わらん」の思いは領民たちの間で強かったろう。領主は領地の名で呼ぶほうが、何かと便利なのである。日本とは気配が少し違ったとしても、同じことは起こるのだ。

オランダ人は、Netherland か Dutchman。オランダ語が Dutch で、その形容詞形「オランダ (人、語) の」も、Dutch。

オランダの旅でキンデルダイクへ行った。アムステルダムに観光用にすこしある以外はほとんど今見られなくなった風車が、ここにはふんだんにある。風車の町として保存された景観よりも、私はキンデル (赤ちゃん) ダイク (堤) という名の由来や、ここで作られた咸臨丸 (かんりんまる) の造船所はどのあたりかなとキョロキョロしてしまった。

地名についての伝説がある。昔、この堤に赤ちゃんが流れ着いた。洪水の後のことだろう、と司馬遼太郎氏はいう。「赤ちゃんが乗っていたのは丸い板で、一匹の猫と一緒にだった。赤ちゃんが寝返りを打って板が傾くと、猫が素早く体重を他に移して平衡を保ちながら流れ着いた」という。流れ着いた猫にちなむカッケン (猫) ダイク (堤) という地名も、キンデルダイクの近くにあり、日本に来て勝海舟らを教えたカッケンディーケ少佐はこの村の生まれだという。

オランダ (The Netherlands)

奥川 睦

Holland (オランダ) が俗称に過ぎないと知っている人は、意外に少ないし、知っていても実感は湧かない。そのくらい、日本語の中でオランダということばは、どっしりと根を張り存在感をもってしまっている。

なにしろ300年近い鎖国の日本が唯一付き合った相手である。われわれの受けた恩恵ははかりしれない。『ターヘル・アナトミア（解体新書）』を、国語の教科書で読んだだけでワクワクドキドキしてしまった子ども時代、杉田玄白や前野良沢の名が輝いていた。「顔の真ん中のこんもり盛り上がっている部分を鼻という」という、たったそれだけの鼻の定義の一文に、半日（一日？）を費やしてしまったという苦労話も新鮮だった。もしかすると外国も外国語も、私のあこがれのルーツはそのあたりだったのかもしれない。

「オランダ」が流通するようになったのは、ホランダー公爵（だか伯爵）の領地でその名をつけたのが始まり、と、旅の途中で聞いたような気がするのだが、自信はない。なにしろ、自分の好奇心を追っかけるのに忙しく、ろくにガイドさんの説明を聞いていないことが多い。ただ、言えるのは、わが国でも昔、伊予の守とか備後の守のように地名と役職を固有名詞がわりに使った。それは英語でも同じ。かの有名なサンドイッチ公爵（食事をする間も惜しんでチェスに興じた）も人名だと思われているが、これも、もともとは地名なのだ。伊予の守・松平なにかし、と、名は別にあるように、サンドイッチ公爵にもれっきとした固有の名は、別にある。

日本のように忌み名の伝統があり、むきだしに人の名を呼ぶのは失礼とされる風土では、地名や役職で遠回しに人を呼ぶ習わしも当然かもしれない。でも、外国のそれは少し違うのではないか、と思わなくもない。なにしろ、ちょっとしたアメリカ体験の中でも戸惑うことは多い。学校を例に取れば、生徒たちは皆、「校長先生」とか「教頭先生」とは呼ばない。ほかの先生たちと全く同じにミスター・モリス、ミスター・クルームと気やすく呼ぶ。モリス氏が校長でクルーム氏が教頭だとわかるまでの一苦労をしてみて、課長とか部長とか日常的に呼びあっているわが文化の便利さに気づかされてしまった。個がなく、自立できず、議論べた……と、日本にも日本文化にも批判的なスタンスで生きてきたつもりでいて、その実、長幼の序その他



介護保健法ついに成立

「第二の消費税」と、福祉関係者からは深く憂慮されていた介護保健法が、十二月九日、共産党以外の野党欠席のまま衆議院を通過、成立した。介護介助者の不足、自治体の整備不足等々、問題山積の中で、業者のみは次々に名乗りをあげており、憂慮されている。「いったん導入されれば必ず税率が上がる」と言われた消費税は、そのとおり上がった。四十歳以上が毎月約二千五百円を負担する介護保険料も、すぐに値上げになるだろうとうわさされている。実施は二〇〇〇年の四月からだが、あと二年三か月しかない。欠陥解消のためには具体的な行動を。まず次の参院選に、私たちの「本当の代表」を当選させたい。

地価税・有価証券取引税等、廃止の動き

金融業の倒産の中で、「不況」「絶不況」の声はますます大

きくなった。ここぞとばかり、地価税や有価証券取引税率の廃止や軽減の動きが活発になった。

うっかりすると、介護保険法同様、野党欠席の国会を通過するかも。

「絶不況」なのは、バブルでしこたまもうけた人たち。一般の市民は物価が下がって生活しやすくなっている。朝日新聞は社説で「今は『普況』を打ち出したが、バブルが終わった今こそ『普通』の状況」。小手先の小細工ではなく、バブルを生んだ構造を改めることこそ急務だろう。

労基法改悪にNO！

男女共通規制の実現求め、労働省前リレートーク

十一月十三日、〈変えよう均等法ネットワーク〉〈パート研究会〉〈働く女性のための弁護士会〉が共同で、労働省前でリレートークを開催した。

街頭宣伝車の前には大きく「労基法改悪NO！」の文字。

一時間半の間に十五人の女性が「パートのベースは正社員
の半分」「勝手に労働時間を延長する会社もある」「労働がき
つくなって体調を崩したら解雇された」「企業は女性の有期
雇用を増やそうとしている」「政府はILO156号条約を
批准したのに守ってない」「労働省はまるで通産省の分局の
よう」などと次々に訴えた。〈女性ユニオン東京〉には、こ
うした労基法無視のひどい雇用主の実態が数多く持ち込ま
れている。〈働く女性のための弁護団〉の岡部弁護士は「労
働省は働く人たちを守る最低限の権利を放棄させようとし
ている。働く人ではなく、企業を守る立場になっている。
まず、働く人自身が声をあげていこう」とアピールした。

十一月二十日には、三団体で労働省交渉を実施。十一月
二十七日には日比谷野外音楽堂で「異義あり！労働基準法
改悪」11・27全国集会が開かれた。

女勝手連じ岡崎トミ子さん選

宮城の参院選補選に立った岡崎トミ子さん（あいら会員）
は、浅野知事を押し出した女勝手連や〈あいら仙台〉など
市民派の応援の中、大差で当選した。

日頃の活動に加え、知事選に岡崎さん自身も全力投球し
た勢いの勝利であったが、社会党から民主党への転身を、
いまだに「納得できない」と、棄権に回った純粋派の女性
もいた。

しかし、もともと市民派のトミ子さん。現在の国会に多
くの問題意識も持つている。女たちの声援を背に、混乱の
国会に一陣の風を送ってもらいたい。

鄭香均さん勝訴 東京都の管理職登用試験訴訟、 外国籍受験拒否に違憲判決

東京高裁は十一月二十六日、日本国籍のない職員登用試
験受験を東京都が拒んだことに対して当否が争われた訴訟
の控訴審判決で、都の措置に違憲判決を下した。

原告は在日韓国人二世の鄭香均（チョン・ヒャンギョン）
さん。一九八六年に都が保健婦の採用要件から国籍条項を
撤廃したのを受けて、八八年に外国人として初めて職員採
用された。九四年に管理職選考試験に申し込んだが、日本
国籍がないことを理由に拒否されたため、受験資格の確認
と二百万円の損害賠償を求めて提訴した。

昨年五月の一審判決では原告の請求は退けられたが、二審では「外国籍職員の管理職選考の受験機会を一律に奪うことは、法の下の平等と職業選択の自由を定めた憲法に反する」という判決。四十万円の賠償支払いを都に命じた。鄭香均さんは「大きな前進です」と判決を評価。支援者に囲まれて笑顔を見せた。一方都側は、依然として外国籍職員の登用に消極的な姿勢である。

児童福祉手当削減ではなく「拡充」を！

母子家庭に出る児童扶養手当が、来年度の予算で削られるようとしている。不況と離婚の増加で児童扶養手当の予算は毎年百億円増加していたが、厚生省は財政構造改革の一貫として、来年度予算の概算要求で児童扶養手当の伸びをゼロに押さえ、今年と同じ二四〇〇億円で出した。

現在、児童扶養手当は子ども一人の場合、所得により四一、三九〇円か二六、七九〇円が支給されている。生別母子家庭の平均年収は二〇二万円で、生活はギリギリの状態。審議会では子どもの父親から徴収する制度の導入も検討されているが、プライバシーの問題もからんで難しい。

パートを二つも三つもかけもちしてやっとの母子家庭が多い中、むしろ手当「拡充」のほうが必要と、へしんぐるまざあず・ふぉーらむ など全国八団体が中央児童福祉審議会児童扶養手当部会に「児童扶養手当削減ではなく拡充を求める要望書」を提出した。現在、要望への賛同を募っている。連絡先はへしんぐるまざあず・ふぉーらむ 事務所 (FAX 03・3315・4518)。

新ガイドライン―有事立法制定に女たちが大反論

九月に最終報告がされた日米防衛協力のための指針(新ガイドライン)は、「後方支援」の名のもとに、米軍の戦略への積極的協力を宣言した。日本政府はそれに沿った法整備(いわゆる有事法制)を進めようとしている。これは戦争に備えて民間動員を可能にする「国家総動員体制」を作り上げるものにほかならない。事実、自衛隊と米軍の軍事一体化を進める日米軍事演習、米軍艦船の民間港入港、実弾射撃演習に伴った民間業者による米軍物資・兵士輸送など、新ガイドラインを先取りした動きが広がっている。

この危険な動きに反対しよう！と、戦争への道を許さな

い女たちの連絡会」と「NO!レイプ NO!ベース 女たちの会」が共同で「女たちのアピール」を出した。沖縄の声を踏みにじり、アジアを標的にする「ガイドライン」に強い抗議を表明している。十一月末に賛同者の第一次集約を行なったが、現在引き続き賛同者を募っている。

◆連絡先 FAX 03・3401・3453

来年二月一日、「新ガイドライン」に反対する集い

「新ガイドライン」に反対して、全国さまざまな女性団体・市民団体が声をあげているが、その声をひとつにまとめて大きいものにしていく取り組みが始まった。

十月十八日に、いくつかの市民団体が東京・神宮の日本青年館に集まって連絡会を結成し、来年二月一日に共同行動を行なうという基本方針が固まった。場所は代々木公園を予定、今まで個々に集会や抗議行動を行なってきた団体が結集して、大行動を起こす日にしたいと計画している。

◆連絡先 憲法を活かす会 (3226・8765)

市民の意見三〇の会・東京 (3423・0185)

全国FAX通信 (5275・5989)

戦争への道を許さない女たちの連絡会 (3816・1862)
日本カトリック正義と平和協議会 (3494・8557)
日本婦人会議 (3816・1862)

NO!レイプ NO!ベース女たちの会 (同)

「アジア人権賞」に子どもの権利擁護センター 「土井たか子・人権賞」に高里鈴代さん

アジア人権基金では、昨年発足した、アジアで人権問題に取り組む団体・個人を支援する「第二回アジア人権賞」のなかの「アジア人権賞」と、特に女性の問題に関する「土井たか子・人権賞」の受賞者を決定し、十一月十二日に記者会見を行なった。受賞者は、「アジア人権賞」はタイで子どもの売買春・強制労働などを調査、救出、ロビー活動を行なっている「CPCR(子どもの権利擁護センター)」、土井たか子・人権賞」は、沖縄で女性の人権問題・米軍基地問題をメインに活動している「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」の高里鈴代さん。

十二月十二日(金)に東京・飯田橋のシニアワーク東京で午後六時から受賞記念会が行なわれ、CPCRのディレ

クターのサンパシット氏とタイの子ども代表二名、そして高里鈴代さんが記念講演を行なう。

◆連絡先 アジア人権基金（5570・5503）

多田謠子・反権力人権賞に末神道さん

人権運動や女性運動に尽くしている人に贈られる多田謠子・反権力人権賞。第九回は、在日「慰安婦」としてただひとり名乗りをあげ、日本政府の「謝罪と補償」を求めて裁判を続けている末神道（ソン・シンド）さんに贈られた。「戦争を二度としてはいけない。自分のような体験をこれから女性にさせてはいけない」と訴え続けてきた末さん。その志を、日本の女性も受け継いでいきたい。

愛知万博の賛否を問う「市民投票」を求める動き

愛知県瀬戸市「海上の森」で計画されている「愛知万博」に、市民側から異義申し立ての声があがっている。

「海上の森」の計画は貴重な自然の破壊や莫大な財政支出などたくさんの課題があり、必ずしも県民の賛成を得て

いるわけではない。しかし県は県民に情報を公開せず、万博計画は県民の意志とは関係なくどんどん押し進められている状態だという。この状況を憂慮した市民の中から「県民投票で賛否を問うべきだ」という声上がり、県民投票を求める署名活動が行なわれた。十一月二十日現在五万七千四百十一人分が集まっている。

◆連絡先 森山濱子（0564・23・3882）

女性のための政治スクール 第五期開講

九八年一月二十四日（土）から十月三日（土）まで毎週土曜日連続十回の予定で「女性のための政治スクール 第五期」が行なわれる。名誉校長は加藤シズエさん、校長は加藤タキさん、事務局長は円より子さん（参議院議員）。

会場はフォーラム永田町（地下鉄永田町駅）、時間は午後一時半から四時五十分。「女性の手で日本の政治文化を変えよう」をテーマに、坂東真理子さん（埼玉県副知事）小宮山洋子さん（NHK解説委員）などによる講義を予定している。費用は入学金一万円・授業料五万円。

◆連絡先 3508・8738（円より子事務所）



「戦争と女性への暴力」国際会議

来春、国連「女性への暴力特別報告官」クマラスワミさんが「戦時・武力紛争下の女性への暴力」報告書を国連人権委員会に提出する。これにアジアの実情を反映させるために「戦争と女性への暴力」国際会議が10月31日から11月3日まで東京で開催された。はじめの三日間は東京ウィメンズプラザで国際セミナー（専門家会議）、最終日はお茶の水の全電通ホールで公開シンポジウムが行なわれた。

パネラーはアジアを中心に約二十か国の代表。西野瑠美子さんの開会あいさつ、松井やよりさんの国際会議開催の意義説明、フィリピン（女性の人権アジアセンター）のインダイ・サホールさんの専門家会議報告に続き、五つのパネル・ディスカッションが行なわれた。

①日本軍性奴隷制と集団強かん（司会 金富子）

（1）シン・ヘイス（韓国挺身隊問題対策協議会）

日本政府が民間にやらせる「国民基金」のために、国家補償を求める運動に分断が生じた。日本政府が「慰安婦」に対する国家犯罪を認め、調査し、公式謝罪し、教科書に正確に載せ、記念碑をつくり、関係者を処罰し、被害者への国家補償を行なうまで私たちは闘う。

（2）王清峰（台湾／台北婦女救援社会福利事業基金会）

日本政府は法的責任を取らず、単なる民間基金で解決しようとしている。台湾の被害者も多数存在するが、彼女らの尊厳を重視していない。

（3）康健（中国人「慰安婦」裁判弁護士）

中国でも少なくとも二十万人の女性が「慰安婦」にされた。被害女性の日本政府に対する賠償請求権は、時効によって消滅するものではない。被害者はもう高齢なので、裁判の審理期間は三年を超えないよう要請する。

（4）インダイ・サホール（女性の人権アジアセンター）

なぜ「民間基金」が被害者に拒否されるのか。民間という名のもとに国家と切り離され、国家責任をあいまいにするものだからだ。女性への暴力に対する鈍感さは、ルワンダやセルビアなど現代と共通する。

（5）スリア・リン（米国／世界抗日戦争史維持連台会）

南京大虐殺での強かん事例。

(6) ジューン・ロドリゲス（女性の人権アジアセンター）
フィリピン・パンパンガ州マタニキ村の日本軍による虐殺（一九二三）での強かん事例。

② 南アジアの紛争（司会 アリアヌ・ブルーネット）

(1) スルタナ・カマル（バングラデシュ／人権法律協会）
パキスタンからの独立過程での女性の強かん多発、独立後のイスラム原理主義軍事政権下での女性抑圧。

(2) サロジャ・シハチャンドラ（スリランカ／女性の開発センター）
少数民族タミル人への抑圧と拷問・暴力。男尊女卑的文化の中での夫による妻への暴力。

(3) アッバス・ファイズ（アフガニスタン／アムネスティ・インターナショナル）
イスラム原理主義軍事政権下の女性への抑圧、暴力、進学や就職差別、医療上の差別。

③ 米軍基地問題・国連PKO（司会 エレノア・コンダ）
(1) チョン・ユチン（韓国／在韓米軍犯罪根絶運動本部）

一九九二―九六年に七人の女性が米兵により殺害。夫を殺された女性もいるが、法で裁かれないし謝罪もない。

(2) 高里鈴代（基地・軍隊を許さない行動する女たちの会）
米兵の犯罪は個人の暴力ではなく、軍隊自体が構造的な

暴力であることへの認識が必要。日本も含め、米軍駐留国に女性を性暴力から守る法律がなさ過ぎるのも問題。

(3) ケオ・キナン（カンボジア人権タクスフォース）

一九七〇―七三年の米国による大規模爆撃と、その後のポルポト時代に起こった大量虐殺、女性の人身売買、難民化。UNTAC兵士の犯罪、エイズ蔓延など。

④ 女性の国際連帯（司会 古沢希代子）

(1) マリア・ドウ・セウ・フェデレル（東チモール国際サポートセンター）
インドネシア軍政による東チモール抑圧で、一九七六―八〇年に人口の三分の一が犠牲に。生き埋めや性奴隷にされた女性も多い。

(2) リバ・ムラジエノビッチ（セルビア／女性への暴力自立女性センター）
紛争で二二〇万人のうち四〇万人が犠牲。PKO軍も女性への暴力に加わり、ウクライナから女性を輸送するルートもあった。通信手段が分断されたとき、ドイツの平和活動家がEメールを開設してくれて助かった。

(3) アリアヌ・ブルーネット（カナダ／人権民主主義国際センター）
ルワンダ内戦で八〇万人虐殺。現在人口の七割が女性で、女性団体のネットワークをつくる動きがある。

(4) マリエム・エリー・ルカス（アルジェリア／イスラム

法下の女性」女性を抑圧したイスラム原理主義リーダーの一人を、反原理主義ネットワークで告発することができた。現在十人を訴えている。

⑤女性の人權活動(司会 星野昌子)

(1)ティナ・ドルコボル(オーストラリア/国際法律家委員会) 日本軍から連合軍が押収した報告書、戦犯の尋問などの資料がかなり見つかり、公開されているものもある。慰安婦に関する資料もあり、利用価値は大きい。

(2)フロレンス・ブテグワ(ウガンダ/アソシエーツ・フォー・チェンジ) ウィーン人權會議でロビー活動をし、女性の人權をアピール。カイロ人口會議、北京女性會議へも引き継がれ、國際會議上で女性が發言する場ができた。

(3)サミヤ・バーネイ(米国/人權ウォッチ女性プロジェクト) 國際犯罪法廷をこの二年間國連で準備しているが、妨害の動きもある。九八年六月を目途に設立予定。女性への暴力の問題を入れさせるため、各國に働きかけている。

(4)スニラ・アベセケラ(スリランカ/INFORM) ウィーン人權會議で、人權に対する一つの原則(普遍性・非可視性)が確認された。人權は各國で異なるという考え方は、各國指導者の恣意的考えで、普遍性に反する。

(5)リトウ・メノン(インド/カリ・フォー・ウイメン) カシミール地方でのインド軍によるレイプ事件に女性組織が抗議したとき、政府は女性側を攻撃した。情報がゆがめられている現実に抵抗を。

最後に、國際會議の東京宣言を採択して終了した。この會議がクマラスワミ報告に多大な貢獻をしたことは間違いない。まず当事者の女性が声をあげること、声をあげた女性をサポートすること、あげやすい國際的環境をつくることが大切であると、皆で確認した會議であった。(す)

組織的犯罪対策法法案 上程はか非かーをめぐって

歌と踊りとシンポジウム

法務省が国会上程に躍起になっている「組織的犯罪対策法案」。11月30日(日)午後、御茶ノ水の明治大学大学院南講堂で「破防法・組対法に反対する市民連絡会」主催で、この問題を考える集會が開催された。

冒頭に日本消費者連盟の富山洋子さんから「豊かな感性をもって、この運動を進めていきましょう」とあいさつがあり、そのあと第一部「世界の歌と踊り」。オープニングは

定塚才恵子さん（ギター）&館野公一さん（マンドリン）の「反戦・平和を歌う」。次に、美しいチマチヨゴリをまとった韓国の朴貴愛（パク・キエ）さんの歌とカヤグム（韓国の琴）。力強いカヤグムと朴さんの歌声に励まされた。最後にアフリカン・パーカッショングループ（ジャンボ）。セネガルのアツサムさんとカメルーンのワッシーさんの打楽器演奏はダイナミックで、会場も大ノリだった。

第二部は「市民と議員のパネルディスカッション」。司会には弁護士・海渡雄一さん。議員は保坂展人さん（社会民主党衆議院議員・衆議院法務委員会委員）と筑紫建彦さん（新社会党政策委員長）。新進党の上田勇さん、民主党の佐々木秀典さんは文書参加、二院クラブの佐藤道夫さんが『SAPIO』に書かれた法案反対の文章も資料として配られた。

まず筑紫さんが、組織犯罪対策法の三つの側面（①組織犯罪法②盗聴法③刑事訴訟法の「改正」）を解説。「殺人内乱・ハイジャックなどの凶悪犯だけではなく、もっと広い犯罪の範囲、または犯罪の疑いをもたれただけで盗聴が合法になる」と指摘。広範に、しかもあいまいな形で、既成の秩序や権力に異義申し立てをするものを警察が押さえこむという、考えられない法案であることを改めて強調した。

保坂さんは「自民党は実際に法をつくる能力はあまりなく、法務省案におんぶしている」と発言。「違法な盗聴ならもうすでにやられている。共産党の緒方靖夫議員への盗聴事件は珍しく発見されたケースで、大部分はみつからない」と、盗聴に「法的根拠」を与えたい警察側の意図を話した。

海渡さんからは「もし、犯罪とまったく関係ない通信を傍受したとしても、それは録音はしてはいけないが、聞いてもいい」ということになっている。警察はそれをもらしても罪には問われない。これではプライバシーは守れない」と指摘があった。

会場からは「団体・組織の活動の方が個人より刑が重くなる（刑の加重）」とはどういうことか」と質問があり、海渡さんから「例えば殺人なら個人犯罪だと最低三年の懲役。団体だと最低五年。どんな犯罪でも最低線が上がることになる」と説明。また「上程の可能性は？」という質問に保坂さんは「社民党は法務省に三十項目の質問を提出しているが、法務省はいまだに全部答え終わっていない。時間は引き伸ばしたが、反対の世論がまだ盛り上がっていない。来年の参議院選に向け、組対法の危険が一般の人たちにも及ぶんだという世論を盛り上げていくことが大事」と、市

民側の運動にエールを送った。

なお、インターネットも盗聴の対象になるということで、十二月九日（火）には「異義あり！盗聴法／インターネットが危ない」が「JCA反盗聴法プロジェクト」主催で渋谷区勤労福祉会館で開催された。

（あ）

一九九六年度東京女性財団

自主活動・自主研究助成報告会

12月6日（土）に行なわれた報告会は今年で四回目。報告会は全体報告と分野別報告に分かれ、全体会では自主活動十八組、自主研究二十三組の中から選ばれたそれぞれ二組が発表を行なった。

自主活動は「女性施策を考える会」の「都内女性センター情報96」の作成」と「ブラウ・プロジェクト」の「ジェンダーの視点による男女平等教育・開発教育教材の制作」。

『都内女性センター情報96』は都内二十七館の女性センターを直接訪問し、行政担当者と利用者にアンケート項目のヒアリング調査を実施、結果を分析して四項目（ハード面・ソフト面・行政の姿勢・個性的ポイント）を五段階相

対評価して二十点満点にまとめた労作。調査の結果、総合評価一位に輝いたのは「足立区女性総合センター（L・ソフィア）」で十八・一点。

「ブラウ・プロジェクト」の作成した冊子『ひらけこま イラストでよむ北京女性会議「行動綱領」』は、イラストで行動綱領の各項目をわかりやすく説明、自治体にも評判が高い。「チラシ・パンフレットなどのカットに大いに利用してほしい」と作成者は語った。

自主研究は三井マリ子さんほか四名の「ステイト・フェミニズムの国ノルウェー」と「あごら」の「北京会議における日本のマスメディア・地方自治体・NGOの活動報告」。三井さんは現地の写真を折り交ぜながら、クオータ制・女性のキャンペーン・選挙制度などについて報告。すでに閣僚の四五％が女性というノルウェーの実態に、会場からため息がもれた。

「あごら」は地方自治体へのアンケートにしばって斎藤千代さんと芦澤礼子さんが報告（内容はこの号に掲載されている）。

分野別報告は「労働」「NPO活動・地域活動」「女性と暴力」の三分野に分かれ、それぞれ三組が報告を行なった。

女たちは立ち上がる！

——海上ヘリポート基地阻止へ向けて——

普天間基地返還の代替施設とされる海上ヘリポート（新たな海上基地）建設の是非を問う名護市民投票の実施（十二月二十一日）を前に、反対・賛成双方の動きが激しくなる中で、ヘリポート予定現地（名護市東海岸＝旧久志村）をはじめ沖縄県各地で女たちが立ち上がっています。「経済振興」をエサに、カネさえ与えればどんな基地も受け入れるだろうという、沖縄住民をあまりにも愚弄した日本政府に対する怒り、女や子どもたちの人権がますます脅かされることへの危機感、暮らして自然をこれ以上破壊したくないという切実な思いから、さまざまな運動にかかわってきた女たち、また、これまで「運動」と縁のなかった女たちが、津々浦々、それぞれの場で動きはじめたのです。

現地の《海上ヘリポート基地建設阻止久志十三区女性会》、名護市内外の市民による《命どう宝・ウーマン・パワーズ（愛称・やるきーズ）》、意見広告で反対の意

見を示そうと呼びかける《ヘリ基地NO！女性たちの会》、普天間基地周辺に住む女たちを中心に多くの女たちの声を集めたいとつくられた《カマドウ小の集い（カマドウは沖縄の古い女性名）》、《基地・軍隊を許さない行動する女たちの会》など市民グループで構成する《海上基地なんてとーんでもない、沖縄女たちのネットワーク》、立場を超えて女の力を結集しようと結成された《海上基地建設に反対する女性の会》などが次々に誕生し、生活レベルから創意工夫をこらしたさまざまな運動、たたかいを展開しています。各グループの横の連携も強化されつつあり、名護市と市外の女性とがペアを組んでの戸別訪問や、市外からでもできる電話による反対呼びかけなど、市民投票の勝利に向けて全力をあげています。

沖縄では古くから「イナグヤ イクサヌサチバイ（女はいくさの先駆け）」と言われ、女がたたかいの先頭に立てば必ず勝てる、とされてきました。「いくさ」を「平和」に読み換えて「イナグヤ ヘイワヌサチバイ」とも言われます。全国の女たちの声や思いをどうぞ寄せして下さい。

（浦島悦子）

ヘリポートいらない名護市民の会の絵はがき

辺野古の海は命を育む豊かな美ら（ちゅら）海、みんなでこの海を守ろう！と、ヘリポートいらない名護市民の会が「命育む美ら海」の絵はがきを作成した。辺野古の海は、一度死滅したサンゴが最近新たに蘇生して、今年六月には産卵も確認された。また、天然記念物ジュゴンが生息し、美しい海のなかに豊かな生態系が息づいている。しかし、一・五キロ×〇・六キロという海上ヘリポート基地が建設された場合、これらの貴重な生物の住む場所が破壊されるだけではなく、騒音・水質汚染などさまざまな環境破壊が予想され、生態系に悪影響を及ぼすことは避けられない。

辺野古の美ら海と、貴重な動植物の宝庫・山原（やんばる）を守り、未来に残したいという思いを込めて作成された「命育む美ら海」の絵はがきは五枚組で、写真家の宮城康博さんが撮影した上空からの海・対岸からの海・海中のサンゴなどの写真がセットになっている。美しいマリンスプルの海の絵はがきを友人・知

人に送って、辺野古の海のことを伝えてほしいと、市民の会は訴えている。絵はがきは一セット五百円。申し込みは「ヘリポートいらない市民の会 宮城康博さん」まで。〒905 沖縄県名護市名護1591
FAX 0980・54・3643

新ガイドラインに異議あり！全国縦断キャラバン

十一月一日沖縄での「チャンプルフォーラムin沖縄」を出発点に交流の輪を広げてきた〈新ガイドラインに異議あり！全国キャラバン〉。反戦地主会会長の照屋秀博さん、〈基地・軍隊を許さない行動する女たちの会〉の高里鈴代さんなど八人が実行委員会の共同代表になり、全国さまざまな市民団体の協力で進められてきたキャラバンの締めくくりとして、十一月三十日（日）に「ちゃんぷるフォーラムin東京」が行なわれた。津田塾大のダグラス・ラミスさん、独協大の山内敏広さんに加え、北海道・別海町から〈米軍くるな女性の手〉の菅名まち子さんが米軍演習場移転に抗議を訴えた。

「災害被災者等支援法」実現へ国会議員も動く

十一月四日（火） 昼十二時半から、今臨時国会での

「災害被災者等支援法」成立を目ざして、法案賛同の超党派国会議員たちが有楽町・マリオン前でリレートーク。その直後「被災者に公的援助を！」市民議員立法推進本部」の主催で、参議院議員会館で、記者会見を兼ねた報告会を行なった。

まず参議院災害特別委員会の本岡昭次議員（民主党）が、「災害特別委員会では理事懇談会を三回ほど持つて論議をした。浦田勝委員長は『全国知事会が出してきた〈被災者相互支援基金〉と合わせて勉強会を開くのはどうか』と提案し、新進党も独自案を出したい意向なので、まずは勉強会ということで合意した。しかし、知事会案に対して自民党が修正案を出したのだが、それに対する知事会としての意見がまとまっておらず、現在知事会案は論議できない状態。それさえまとまれば勉強会に入れる」と、現在の状況を説明。衆議院災害特別委員会の方からは、生方幸夫議員（民主党）が

「委員会での現地視察を提案し、基本的に了承された。国会終了後では意味がないので、その前に行なうよう要請した。また、特別小委員会をつくることを提案し、自民党も一応検討の方向」と報告した。

推進本部代表の小田実さんは「空気が明らかに審議の方向に向かっている。私たちの法案は正式に提出されているのだから、まずは審議してほしい。新進党や知事会の案も拒否するつもりはない」と発言。引き続き署名運動、賛同団体・個人の受け付け、兵庫県知事・神戸市長との連携、地方議会での「支援法」支持の意見書採択推進を進めることを確認した。

成立を目指し座り込み

会期末が近づく十二月五日から十二日にかけて、参議院議員会館前で被災者が交替で座り込み、支援法の成立を訴えた。また、参議院災害特別委員会が開かれる十二月十日には神戸から十七人の被災者が上京し、国会前で訴えた。災害特別委員会の勉強会は午後二時から四時、市民側から代表の小田実さんと弁護士伊

賀興一さんが出席して法案の説明を行なった。

本岡昭次議員は、勉強会後の報告会で「市民Ⅱ議員立法」のほかに自民党案、野党三党派、貝原兵庫県知事ら発案の「基金制度」が提案され、それぞれについて議論がされたことを報告、「災害特別委員会の浦田委員長が、勉強会の最後に国会上程への前向きな決意表明をした。今国会では日程的に上程は無理だが、来年の通常国会へ継続審議にもつていける見通し」と、目途がついたことを報告した。小田実さんと共に共同発案者として委員会で行なった田英夫議員は「私は二十七年間国政に携わっているが、こういう形の勉強会は初めて。委員長が市民代表を招いて発言させるような形は極めて異例で画期的なこと。党同士の垣根もこういう場合は越えていくべき」と、学習会の意義を高く評価した。市民側の小田実さんは「ともかく全党の案が提出された。これですべて公的支援の必要性が前提になった。日本にはこれまでそういう考えすらなかったのだから、私たちの運動でここまで持つてこられたのはよかった。しかし、自民党案は阪神大震災に遡及されない内容で、しかも給付額も百万円が上限

なのは不十分。野党案は阪神大震災のみに適用される内容で恒久的ではないし、基金制度は阪神被災者には適用されない。やはり私たちが考えてきた案が一番現状に合っているのでは」と発言。伊賀さんは「個人保障はできないと政府は言うが、憲法では何ら規制されていない。今までそういう政策がなかったにすぎない。また、この法案が被災者への恩恵なのか、それとも被災者の権利なのかということが、これから議論されなければならぬ」と、今後の課題を分析した。

被災地からは〈公的援助法ネットワーク〉の中島絢子さんが「私たちはやはり、この国会でも法案が『つるし』にあつたと感じている」と厳しい発言。推進本部事務局長の玄香美さんは「前回の国会で継続審議になったとき、私たちは喜んだが、今度は喜ばない。それは『あたりまえ』だから」と結んだ。ともかく廃案は避けられそうだが、次期通常国会では金額の問題も含め、「公的援助」の中身の議論でもめることになりそう。被災者の一人の「自分が自殺したら保険金で家族が食べていけると考えたが、未遂に終わった。法案成立が心の支え」という発言が、重く心に残った。

ヘシリーズ・母を語る 5

母と父 ― 育てあい、磨きあつた人生

寿岳 章子

家が没落し、女学校を中退した母

私は〈あごろ〉の斎藤さんから「母を語る」を頼まれましたとき、語りたくて仕方がないもので、いとお話だと思つてたちどころにお受けして、京都から東京にやつて参りました。

母が死にまして今年十七回忌を迎えます。死んで長い月日が経つのだけれど、昨日までいたように、今でも一緒にいるような気がするほど、母と共に長い人生を暮らしたと思うのです。

母が生まれたのは一九〇一年です。父が一九〇〇年でわかりやすく、母が一つ下になります。満七十九歳で亡くなりました。七十歳から先はほとんど病床につき、足掛け三年の入院生活で、その時の切なかつたことは言い難いものでした。そのことは『永遠の水汲む我が母』という私の本にかなり書きました。

母の実家は元々かなり高禄の紀伊の田辺藩の武士の出だったらしいのです。やがて維新になって大阪に出ましたが、母の父、つまり私の祖父は鉾山のことを研究していて、初めのうちは羽振りよく暮らした。

ていたのですが、だんだん暮らしが立ちにくくなりました。

母も小さい時は女中さんもいてお乳母日傘で育っていたのですが、暮らしが階段を転げ落ちるように悪くなり、母が女学校に行きかけた時に家の経済状態が破滅的になり、女学校に一年と何か月しか行かれました。だから学歴は小学校卒です。

祖母が家計を助けるために小さな文房具屋を開いて、家事が見られなくなったので、全部母にかぶさってきたのです。母は十三、四歳の頃から家事を全部やってきたわけです。ですから今どきのほけつとした女の子を見るにつけ、母は大変だったと思います。

女学校は一応受けたのですが、その時も一人で受けにいったと言っていました。しかもその時に最初のメンスが起こったんです。それでカツとなって今の大手前高校、当時の梅田女学校は落ちたわけです。そして金蘭会という梅田女学校の同窓会が作っている女学校に入りました。そこでは良い成績の者一人

が梅田女学校に入れるわけです。そして、母はその一人に選ばれて大手前に入りました。

でも、喜んで勉強を始めたのに中退する羽目になり、そのあとは家のことに追われる生活になりました。いわゆる家事をよくやり、裁縫も習ったことはないのに器用な人で、どんどんやっていました。

母はいろいろ悲しかったことを話していました。例えば祖母がラッキョウを漬けるとき、母は



瓶に入れた酢を要らないと思つて捨ててしまった。祖父が怒つてピシャツと叩かれて本当に悲しかった。「知つていれば捨てなかつたのに」と言つてましたが、まだ子どもですからね、「可哀相に」と思いました。

失明した兄の絶望をみて

そのうち大変な事が起こりました。母は長女ですが、上に兄がいました。跡継ぎということで、早稲田大学の理工学部に入つていたのですが、突然失明したのです。東京に下宿していましたので、河本病院という東京では随一の眼科病院で手術してもらつたのですが、結局目は明かなかつたのです。

その兄の看病に、最初は母親（祖母）がついたのですが、商売がありますから、私の母が十四、五歳で代わりについたのです。その辺のことは母が最初に書いた小説『朝』に詳しく書いてあります。

一時は少し良くなりかけたこともあつて、先生が目の包帯を取つて「この指何本ありますか」と聞くと「何本」と答えるようになっていたのです。ところがある時、「今日は何も見えない。曇つてゐるのか」と言うのです。母が空を見ると春の美しい朝で、澄みきつてゐるわけです。「あつ」と思つたけど、「うん、少しぼんやりしてゐるわ」と答えたのです。

先生が回診で「何も見えなくなつたでしょう」と言われて、それで決定的に。もう手術しても永久に目が見えないことがわかりました。病名は虹彩脈絡膜なんとかという、舌を噛みそうな名前前で、今でもその病気になるかと治りにくいそうです。それで大阪の実家に帰る羽目になりました。

その間のことが母の小説に出ています。母は娘らしく桃割れに結つていたのでしたが、髪を梳いてみると、兄が「何をしているんだ」と怒る。その時の悲しさなどを書いていて、今の中学生がそんなこ

とができるだろうか……と思わずにおれませんか。

大阪に帰ってきてから、兄は毎日号泣していたそうです。ちゃぶ台に突っ伏しておんおんと泣き通していたそうです。中すぼみのところに涙が溜まっていたといひます。母はその時のことを話してくれましたが、「ほんまに人間ゆうたら、なんぼでも涙が出るんえ」と。煩悶して煩悶して、ある時は武士の家ですから脇差しが簞笥に入っているのですが、それを喉に突き刺そうとした寸前に祖母がすがりついて、「目が見えんでも、あんたが生きてるだけで私も生きてるんだから」と思いとどまらせたということもありました。

兄の再起——再び学問の道へ

そのうち泣いてばかりいてもしょうがないと、兄も次の道を探し始めました。

まずは鍼灸あんまを始めたのですが、二十歳過ぎて途中で失明した者はうまくいかないし、もともと大学で学んでいるようなインテリですからピンと来なかったのでしょう。急にやってもうまくもなりません。やはり勉強したい。盲人がもついろいろなことをできても良いのではないかという思いにかられました。どこか入れる大学はないかということ、専門学校ですが関西学院という私立校に入りました。

東大、京大は、今もそういう人を入れることは夢にも思っていないせんよ。東大、京大は何しろ女も入れることを考えなかったところですからね。戦後の新憲法でやっと渋々入れたところです。私は東大にも京大にもすごく恨みがあります（笑）。

私が行った東北大学は、大正二年にすでに女を入れることを決めました。それは嬉しいことでした。なのに文部省が怒ってきて——ここに文部省の方はいらつしやらないでしようね(笑)。私は教科書裁判の集会の時も言いましたが、「何で女を入れた」とものすごく大学に対して怒ったのです。文部省がおかしいのはあの辺から始まっていると思います。「女が帝国大学になぜ行かねばならん」とか「前例これ無きことに候」とか候文で書いてあるんですよ。そういうところですから、盲人も国立の大学に入れるところはありませんでした。

しかし関西学院には、すでに熊谷さんという、やはり盲人で牧師になられた方が入っておられた実績があったのです。小さい小さい大学ですが、専門部高等科の英文学科に伯父は入ったのです。

母は今度は身の周りの世話、それから本を読んであげたり、大阪から神戸まで洗濯物を取りに行った、しんどい思いをしたようです。

そして、のちにこの兄、私の伯父である岩橋武夫は、日本の最初のライトハウス——世界十三番目だそうですが——を作り、日本で近代的な盲人の歩みをした最初の改革者となったのです。

私は今日午前は京都で、岩橋伯父を助けた鳥井徳次郎さんという方が設立した鳥井賞をさし上げる会があったので出ているのです。

鳥井先生も苦勞なさって京都でライトハウスを作られたのです。今日、賞を取られたのはキムチンフさんという韓国の方なんです。金さんは韓国の盲学校を出て日本に來られて、鍼灸あんまで盲人の暮らしが立つのは日本だけなのですが、それを韓国でやってみたいというので、来日して根を下ろした方なのです。世界レベルでネパールやスーダンなどから盲人を呼び集めて勉強させて、生きていけるような手助けをしていらつしやる。そういうすばらしい方に賞を差し上げたのです。

頑張った母へのご褒美——父との出会い

母の一生を思うと、運命というのは頑張るときに輝くものだと思います。母も友達は女学校で楽しい思いをしている時に自分の楽しみは何もなかったのですが、兄を助けて頑張ったわけです。そしてそのためにとうか、ご褒美があったのです。岩橋武夫が入った学年に、私の父、寿岳文章が入っていたのです。

寿岳文章も辛い少年・青年時代を過ごした人です。寺の出身で、姉の嫁いだ寺に養子に入ったのです。今までの姉夫婦が親になったのです。姉夫婦に子どもがいなかったので跡継ぎにと思ったのでしょうが、しばらくして姉夫婦に子どもが生まれたのです。

立場がなくなつてそこを出て、東寺中学（今の洛南高校）に入つて、その頃から自分で収入を得て暮らしていたと申します。その間いろいろ考へて「やはり学問をしたい」ということで、高等学校を受けて落ちたのです。それで関西学院の英文科に入りました。お坊さんの学校からクリスチャンの学校に行くのですから、妙なのですが（笑）。

父も鬱屈した青春時代を送つていて、関西学院に入つても他の友達がわいわい騒いでいる時に、じつとうつむいているような人だったらしいです。そこに岩橋武夫がいました。岩橋武夫も悩みが多く、二人はとても仲良くなつたのです。

その岩橋武夫には素敵な妹がいた。素敵というのは……まずウルトラ美人なんです、私の母は。私は父似なので、似ても似つかないのですが、「何でお母さんに似なかったのよ」と友達に言われたもので

す。本当にたおやかで、目が大きい人でした。この写真は戦後すぐ『アサヒグラフ』で撮ったものです。若い時はもつときれいでした。匂うような乙女だったわけです。しかも志があって、キリツとして健気（けんき）で。

「健気」という言葉はこの頃の若いOLは知らないですよ。私がある会社で講演して「健気な」と言うのと、きょとんとしている。「あんだ、健気って知ってる」と聞くと「知りません」（笑）と言うんです。健気な子ってあまりいないんですね。健気って、分に相応した以上に頑張って気張ってるといふ姿ですが、母はまさに健気そのものだったと思います。それにきれいということは良いことだと思っています。美しい人というのは得しますね。そのうえ気性が良いし、声もきりつときれいだし、言うことなしだったので。父も密かに母を思っていたと思いますが、母も寿岳文章が好きになったのです。

「兄への読み聞かせ」が、ものを書く下地に

『朝』という母が結婚してすぐ書いた小説は、母と父の愛がいかに育ったかというユニークな小説なのですが、これは寿岳文章・しづ著作集に入っていますし、倉田百三さんが作っていた『生活者』という雑誌に載せて、それを岩波書店から小説として出しています。

小学校しか出ていないのにも書くようになった。それにはいろいろな要素があると思います。兄の世話をして、したいこともできなかったらうけど、兄のためにたくさんの本を読んだのです。トルストイも、大河小説も音読して聞かせたのです。そんなことが母を育てたと思います。大正の良き時代の終わりですし、人生を物語る小説がたくさん出ていたのです。翻訳小説が多いのですが、マルタン・デュ

戦後すぐ『アサヒグラフ』に掲載された母の写真



ガールの『チボー家の人々』も読んだようです。

暑い日、クーラーもない時に、兄のために汗をダラダラかきながら本を読んで、「あせもの芯ができてしもうたわ」と言っていました。

面白いこともあったようです。エロシエンコってご存じですか。エスペラント語で有名で、しかも日本でもエスペラントが悪い外国語思想を植え付けるものと左翼扱いされた人です。エロシエンコも苦労したようです。その彼を岩橋家で預かったことがあるのです。みんなで火鉢を囲んでいる写真さえあるのです。

エロシエンコの面倒をどうしてみたかというところ、彼をどこかで預かる話になった時、お祖母ちゃんが「武夫もどこでどういうふうな人にお世話になるか分からないから」と、一か月か二か月、うちで預かったそうです。

彼を銭湯に連れて行くのも母だったのです。エロシエンコは母のことを「私の小鳥さん」と呼んでいたそうです。目が見えなくても雰囲気は感じていたのでしょう。大阪の下町で外人と歩いて目立ったでしょうが、全く平気だったようです。

母という人は可憐で、でしゃばることが嫌いなひっそりした人でしたが、堂々としたところもあって、不思議な性格を融合的に持っている人でした。

母から父へ、画期的なプロポーズ

そんな生活の中で母は父を好きになっていく。向こうも好きではないかと行き交う気持ちはあるので

すが、父はグジャーとしていてなかなか申し込まないんですよ。

母の偉いところはそこから始まったのですが、自分から手紙を書いたのです。つまり女の方から申し込んだのです。今はたくさんいるでしょうが、当時は女は黙っているものだと思われていたのです。思い詰めて、良い手紙を書いたのでしょう。それを送って、ある人を介して父の方も母が大好きだとわかったのです。

「どうして、父さんの方から言わなかったの」と、母が亡くなってから聞いたのですが、またグジャーとした顔をして、「自分のようなものが、母さんを幸せにできるかどうかわからなかった」(笑)。

「幸せにするという考えがまちごうてるねん」と私は言いました。「二人で幸せを築いていくのが、結婚なんだから」

二人が婚約して結婚に至るまでも、大量の手紙をやり取りしているのです。今たっさんのペアを見るけれど、「この人たちが結婚したらどんな暮らしするんだろうな」と思うんです。新婚旅行の新幹線の中でもボケーとして、食べたり、まんがを見たりするだけで、「どうなってるの」という感じです。

うちは本当によく喋るうちでした。結婚式挙げるまで山のように手紙をやり取りして、それまた「好きだわ」というのでなく、人生そのものを論じているのです。母は「出発点から違う」と言っていました。高等教育を受けているわけですから、母は「出発点から違う」と言っていました。

もし父に断られたら、「一生独身でいよう、兄のような人をお世話するような仕事を一生しよう」と考えていたそうです。親にも相談もしないで一人で決めたそうです。「考えて考えて、考え抜いたよ」と、言っていました。

私が生まれたときの大騒動

父は夜学で先生をしていて、自活していました。着るものもなく結婚してから大変だったそうです。父が亡くなったあと、父のあらゆる着物を洋服に仕立てたのです。それで「父さんと一緒にいるみたい」と涙ぐむ思いで着ていたのですが、これはどうしようもないなと思ったものに、父の長襦袢があつたのです。女っぽい生地で紫に麻の模様が入っていたのです。それを服を縫ってくれる人に渡して、「ブラウスカ何かにならない」とたのんだらジャケットになりました。

その人が「これをほどこいてみてわかりましたが、女物の羽織ですよ」と。私の母はそんな羽織持つてなかったし、考えたのですが、よそ行きの長襦袢を持つてなくて、実家に行つて祖母の羽織をもらつてきたのではないかと思います。それほどに何もなくて、羽織の紐はシデ紐でくくっていたくらい貧乏で、本を買うだけで精一杯だったようです。

二人はめでたく婚約したのですが、その後父がノイローゼと肋間神経痛になって静養して、ようやく結婚したのが大正十二年です。すぐ私ができたらしいんですが、しんどかったらしいです。お医者さんは「墮せ」とまで言ったそうですが、「それもあんまりだと頑張つて生んだんや」と、さんさん恩を着せられました。

私の誕生日は大正十三年一月二日になっていますが、本当はそうではないのです。前の年の十二月二十八日なのです。昔は数え年ですから、すぐ二歳になるのでそれは可哀相だと。本当は一月の末に生まれるはずだったのですが早産したのです。

母は実家に帰ってお産するつもりだったのです。ところが十二年の暮れにおなかがしくしく痛くなった。陣痛だったのですが、初めてでわからなかったのです。父が「冷えたんだろ」とカイロ買ってきて入れたんだそうです。経験のある方はわかるでしょうが、たまらなく痛くなって、実家に帰るひまもないから、未明に近所の産院に行っただけ先生はまだ来てない。来られる頃になって、母を連れて行っただけです。

お医者さんが診察して「四時頃、産まれますな」と言ったらいいのです。

父は、もう祖母に電報を打ってあるのだから母の側にいてやればいいのに、祖母を迎えに行ったのです。お医者さんもどこか行ってしまったし、みんないなくなっただけです。すると私がビヤーと出てしまっただ。

母はだれか呼ぼうと思ってでも声も出ない。側に膿盆のうぼんが洗面器があつて、それをカンカン叩いたら看護婦が来て、「わーっ」と叫んで、ひっくり返る騒動だったのです。

私は未熟児で箱に入れられていたそうで、それが今ではこうなるのか（笑）と人に言われています。そういう出産だったのです。

でもお金がなかったのです。父があちこちの講師をしていて、京都暮らしに入っただけ父が京大の専科生になったからです。関西学院の大学部ではなく高等部を出ていますから、もっと勉強したかったのです。

それで京大生になったのですが、子どもは生まれてますし、妻は養わなければいけません。走り回って講師をして、楽しい大学生活なんてなかったのです。まだ二十二、三歳ですが大変大人っぽい学生だったようです。

自転車操業で英語教師

母も近所の人の縫い物をしたりして一生懸命働いたそうです。そこが母の面白いところですが、経済的にものを考える人で、お針で苦労して一着縫い上げて、大した収入にもならない。もつと違う形でお金を儲けたいと思ったのです。

向学心も非常に強かったので、父が英文科だから、——それまで兄の受験の時も英語が読めなくて、T、h、i、sとアルファベットでしか読めなかったのです——もつと勉強したいと思って、父に頼んで研究社の本を取り寄せて勉強を始めたんです。

ところが、私をおんぶしながら勉強している姿を近所の人に見られて、「うちの子にも英語を教えてやってくれないか」と頼まれたのです。当時は京都の南座の裏の借家にて、周りは京都の庶民そのものという人たちで、「うちの子が勉強ちつともできへんから、見たってくれ」と言われて、母はすさまじいことに、父に教わったことを自転車操業でそのまま教えたのです(笑)。

「よう、そんなことしたなあ」と思うんですが、それでだんだんと英語の力が付いて、府立第一高女高等科にまで行った人の英語を見てあげるまでになったんですが、最後まで自転車操業で、お嬢さんが「先生がここは飛ばしたので、ここからです」と言うかわからない。真っ赤になって「今日は休んで、またやります」と言うわけです。それで通して、少しはお針より良い収入になったそうです。

母はその英語で翻訳までやったのですから「すごいな」と思います。しつとりとした文体で丁寧で書く人でした。母は岩波文庫をたくさん訳しています。わからない時は父に教わったのですが、よく喧嘩

していました。「その訳は父さんの言うようではない」と。父は英文の先生ですから「いや、こっちの方が正しい」と言うのです。でも関西学院のアメリカ人に聞くと、母の方が正しいことがあって母は鼻高々でした。直観的に文章のいいものはわかる人だったのです。

一番母の文体の良さが表れた翻訳はハドソンの『遙かな国遠い昔 (Far away and long ago)』です。母は英語に通曉しているわけでも、ボキャブラリが多いわけでもないのですが、字引を引き引き丁寧に訳して、三十二、三歳の頃に出しています。

『若草物語 (Little Women)』も訳しています。随筆もかなり書いていますし、これらはすべて「寿岳文章・しづ著作集」に入っています。

「お前」「主人」は使わなかった両親

だけどそういう勉強の素晴らしさより母が一番素晴らしかったのは、寿岳文章との愛を生涯貫いたことです。これは類を見ない夫婦だったと思います。徹底的な愛が二人の間に存在した。いろいろな夫婦の形がありますし、私は離婚も認めますが、二人は絶対に離れない愛に生きた人だと思っています。

しかもべつたりと「あつなたー」という感じではないのです。母が死んだ時に「平塚らいてうの運動はどうでしたか」と聞かれましたが、そういう方面ではないのです。でも、自分で考えて自分で結論を出していくところは誰にも劣らないと思います。

私は子どもの時、よその家に行くたびびっくりばかりしていました。ものすごくお父さんが威張っているんですね、「おーい、ナントカ」とか。私のところなど絶対そんなことはないんです。母と父は完全に

対等だったのです。

うちでは「お前」という言葉は誰も使わない。「お前と言われて、よう平気でいられるな」と今でも思います。ドラマ見てもやたらに使うでしょう。

それと、「主人」という言葉も使いませんでした。

近ごろ主人という言葉を使わない人は増えましたが、一九〇〇年と一九〇一年生まれの夫婦の間にそういう言葉がなかったのは、すごいことだと思います。

「主人」という言葉を使うなら「お前」と言われても仕方がないと思います。私の母は絶対にそういう夫婦でありたくなかった。「愛しているなら名前はどうでもええやん」と言う人もいますが、母は言葉は思想を表現するということをはわかっていたのではないのでしょうか。

樋口恵子さんが指摘された「ワタシ作る人、ボク食べる人」みたいなCM、ああいうものはすぐわかる。「なんでそう言わなあかんの」ということを説明しなくても、ピピッと感じる力のある人でした。母の育った家は、父親が力も無いのに威張っていた家なんです、そんな中で考えることは考えていた。

そして愛する人と生活を始めた時に、自分の思想を貫き通したわけです。父も「おい」と呼び掛けたこともあったようですが、絶対通さなかったようです。

私のうちでは母が死んだ後でも、私に電話が掛かってくると父が「今日は章子はどこそこに出かけて、何時ごろ帰ると申しておりました」と、とても丁寧な応対をすると評判でした。父はそういう意味で、女性に対して美しく話をする人でした。同じレベルの話を父と母がしていて、片方が威張っているということはありませんでした。

夫婦喧嘩はいつも母の勝ち

ときどき夫婦喧嘩もしていました。母が怒ったらすごいんですよ。たとえばある日、私が女学校に入っ
てしばらくのことでした。

うちは晩御飯を勝手に食べてくることは有り得ないのです。外で食べる時はそう言うし、そうでな
かったら家で食べるのです。その頃はテレビがなかったせいもありますが、良い食事タイムでした。い
ろいろな話をしながら、和やかに食べていたのです。

でも、その晩、父がいくら待っても帰ってこないのです。子どもたちやねえやは先に食べさせてもら
いました。でも母が食べんと待っていました。母はだんだん険しい顔になってくるのが見ていてわかる
んです。「えらいこっちゃな」と思っていました。

父が十時頃あたふたと帰ってきて、「すまんすまん、今日は誰それに会って、めし食うてきた」と言う
と、母はものすごく怒りました。これは大抵の方はご理解できないのではないのでしょうか。特に男性は
理解できないと思います。「二回くらい、ええやないか」と思われると思いますけど。母は烈火のごとく
徹夜で(笑)怒りました。私ら、うるそうて寝られへんかったくらい。最終的に父が「わしが悪かった」
と謝りました。

うちの喧嘩は最終的に必ず父が謝る羽目に陥るのです。さつさと謝ればいいのに、父も強情な人です
からぐちゃぐちゃと弁解するのですが、母は貫き通すのです。いい加減で終わるということはないので
す。済んだあととはさっぱりしているのですが。

昭和 26. 6. 26、「週刊朝日」「妻を語る」のために



そういう喧嘩は一年に一、二回必ずありました。私ら慣れてますから平気で、弟なんか部屋の柱に「何月何日何事件」と書いておくのです(笑)。今でも鉛筆の跡がへこんでいて、懐かしくて仕様がありません。

なぜ母が勝つかというと母に常理があるのです。そこが凄いところでした。

私の母は学歴がないですから、「ママさんは学校に行ってへんし、この辺のことは知らんやろうけど」と言うのと、ものすごく怒りました。母はもつと勉強したかったんだと思います。その気持ちは終身残りました。辛いことだったようです。だけどよく勉強する人で頑張っていましたから、「学歴なんかどうでもいいやんか」と私なんか思うのですが、やはり行きたかったんですね。

「和歌とか俳句は果たして文学たり得るか、どうか」ということではしよっちゅう喧嘩していました。歌は、『朝』にも歌が出てくるのですが、父の方がうまいのです。倉田百三さんが「奥さんは歌があまりうまくないから、もつと勉強しないと」と言ったのでカツとして、歌そのものを否定しようという癖があるのです。おもしろい喧嘩でしたね。父は短詩をそれなりに認めているのですが、母は「あんなもん文学と違う」とむきになるのです。

そういう喧嘩が定期的に行われていましたが、ご飯の喧嘩の時は私も「そんなに怒らんでも、一回くらいいえやんか」と思ったのです。六十年前の光景をありありと覚えていますが、母が鏡に向かって美しい髪を梳いている時、私は「マーちゃん、このあいだはパーちゃんは可哀相やった。あんなに怒らんでもええやんか」と言ったのです。母が何と答えたか。「あんだ、考えとおみ。結婚してから二人で一緒に暮らす日は一日一日と減ってるんやで。それなら愛する人と一ぺんでも多うに御飯食べたいと思うのは当たり前やないか」と申しました。すごい返事で、私もなるほどと思いました。

愛する人と暮らしても毎日死に近づいていく。父もそのことを二度と忘れなかったから、その後はそういうことはありませんでした。

「パパさんと一緒になつたこと」が最高の幸せ

私の家庭はそれほど愛するということが基盤になっていたので。お茶漬けの味とか、年取った夫婦が笠智衆さんみたいに淡々とやるのも良いですが、うちでは最後まで話して話して話し抜いていました。喧嘩は体力が要りますから、母の晩年は体が弱って喧嘩が減って寂しかったですね。だから、七十歳を過ぎてまもなく、すごい喧嘩をやったときは、みんな喜びました(笑)。

死ぬ直前ですが、母が病院から一時帰休した時、母は動脈硬化で頭がぼんやりしていた時ですが、父と母と私で炬燵に入っていた時です。母に何かしゃべらせんとあかん、と思つて「小さい時、どんなおやつ食べていた」とか聞いていて、ふと「ねえママさん、ママさんの一生で何が一番楽しかった」と聞いたのです。母はちょっと父を見て「パパさんと一緒になつたこと」と申しました。

どんな喧嘩しても、愛に貫かれていたから喧嘩したのです。喧嘩もない夫婦なんてあかんと思います。「お互い我慢している」と聞くと私は「喧嘩せえ、せえ」とけしかけるのです。

喧嘩しながら育てるべき愛を育て、この世を去る瞬間まで「父と一緒にたつて良かった」と。もちろん父もそう思っていました。涙で潤んだ表情で母を見ていました。その時のことを考えると今でも涙が出てきます。

そういう家庭でしたから、親子も話はいくらでもするし、遠慮なく楽しく生きてきました。母はいさ

さかの仕事をしましたが、それをあげつらうより、じつくりと家庭というものを育てた。そこに自分の一生の輝きを見据えたということが素晴らしいと思います。

私は父と母ほど類いまれな愛で結ばれた方をあまりお見受けしないのです。良いご夫婦をたくさん知っているのですが、どこか質が違うのです。何が違うんだろうと思うんですが、大空高く星を眺めるように愛を貫き通したという生活者、と言えると思います。

行儀「乙」の私に、真つ青の母

その母は子どもに対しても厳しく、しかも可愛がつてもらいました。

ある晩、両親が外出して遅く帰ってきたのです。私は寝ていたのですが、起こされて寝ぼけ眼で起きたら「宿題がまちごとる」と言われまして、「あんたがええ加減やから」と怒られました。私はええ加減の代表みたいな人間なのです。小学校の先生にも注意散漫と言われました。確かにいろいろなものに一齐に気がいくのです。

度が過ぎて小学二年の時、行儀「乙」をもらったのです。私は先生が何か言われると不思議でしようがないことがあるのです。それで友達に聞いて回るのは、「先生、あ言わはったけど、ほんまやと思うか」と。いろんなところでキョロキョロしているのです。たくさん計器をいっぺんに見るパイロットならいいんですが、一つの事を見据えるということがないのです。そういうタイプですから行儀乙をもらったのです。それを見て、母は真つ青になつてもものも言ってくれないのです。

後に「なんで行儀乙一回くらいもらつたくらいで、行儀乙の女の子なんて面白いやないか」と言った

のです。「あんたが私とあんまり違うから、不良になるとかと思った」と。これが不良というならばいいと思います（笑）。

母は一生懸命になり過ぎるところがあつて、試験で九九点取っても怒られました。「この一点があんたの油断や」と言われて。極めて生真面目なところがあるのです。

着物の端布に母の面影

母はきれいな人だったと言いましたが、今日は母が着ていた着物の端布を持ってきたのです。母は質素で人からもらったものを染めたりしていました。これも母がどうしようといっていたのを私が「買いよし、買いよし」と言つて買わせたものです。これに黒い帯をして参観に来てくれた時、本当にきれいで、みんな「やあ、寿岳さんのおかあさん、きれいやなあ」と言つてくれて大得意でした。私は不細工な不細工な娘でしたが（笑）。こういう小紋の可愛いしつとりしたのが似合う人なんです。

これは最後に着ていたものですが（次ページ写真）。紫系統が好きでした。母はしゃつしゃつと見事に着付けるのですが、私はいつまでも帯を締めてもらつていて「いつまでも着せてもらうのかなわんから、ちゃんと教えてな」と言いましたが、「もうええがな。美容院に行つて結んでもらいよし」と言われて、今はそうしているのです。

これは紅型風の帯です。黒い着物にこれを締めまして、黒い帯締めを締めますと素敵でした。

こういう柄もあります。贅沢禁止令という贅沢なものは売つても使つてもいかなという命令が出て、その直前に叩き売りがあつて、「自分には派手だけど好きだから童子に着せてやろう」と買つて、戦後ま



お母さまの着物の端布をなつかしむ寿岳さん

でおいでありました。地がトルコブルーで花のところは金で刺繍してあって、それが「ぜいたく禁止令」に引っ掛かったのでしょうか。母の雰囲気はこういうものでした。

本人はきれいということにかなり自信がありました。それが面白かったです。「花のかんばせも衰えたなあ」とか六十の頃に平気で言っていました。私は「まだまだいけるでえ」と答えていたのです。

結婚してしばらくして、「エランビタール」という劇団が京都にできたのですが、入ろうとしてやめたらしいのです。

「どうしてやめたん」と聞くと、「パパさんが悲しそうな顔したからやめた」と言うのです。

それで「なんでお芝居やろうと思うたん」と言うのと「きれいやから」と(笑)。自信だなあと笑っていました。

でも母は台詞回しはだめだと思います。親たちは翻訳するとお互い読み合わせしていました。父がセルボンの博物誌を訳したものを朝早くから布団の中で読んでいました。

母はそれを一生懸命聞いていて、家庭ナルシズムに近いものでした。

リトルウイメンなんか母が訳したものを自分で読むわけです。でも朗読が樺みたいで、母はお芝居やつてもだめだろうと思いました。

それを私と弟は「ウイメン経」と称していました(笑)。

厳しく、しかものびのびと育てられた私と弟

教育に関しては本当に感謝しています。私が一人でいようとどうしようと制約はありませんでした。「こうしなければならぬ」という押し付けがましいことは一言もありませんでした。

私という人間はこうなっているのが自然だと思いますが、周りを見ていると結婚せずに良かったなと思います。私は女には違いなのですが、括弧付きの「女らしさ」とは無縁にやっています。ただし子どもの頃は手伝いはよくしました。働くのは大好きで、薪割りでも台所仕事でもやりました。今でもお料理なんかうまいですし、いろいろなこともちゃんとやっています。でも結婚したいと思ったことはありません。そのことに両親はまったく関わることはありませんでした。

それどころか、私は小さい時から勉強が好きでしたから、ものもたくさん読んだし、両親はそういう性格を育てるようにやってくれたと改めて感じます。「勉強したかったらなんぼでもしたらええ」と言われても、「女だから」と言われたことはない。すべての面で温かく見守ってくれたり、厳しく叱ってくれたり、小学校の時から「女の行ける大学もあるねんよ」と聞かされて、「私もそこ行こう」と思っていました。東北大学が大正二年から女性を入れました。ですから私はよその方が苦労されたような悩みは何もなかったのです。のほほんと育て、いっぱい食べてこんな風になって（笑）。

弟も一人いまして、宇宙物理を専攻しました。これは私と正反対です。今は全然顔が違っていますが、子どもの頃は美少年で、それがまた得意だったんです。母も時たま「なんで男と女と代わらへんかったんやろ」と言っていました。

中学の時、「上級生がボクのこと『可愛らしやっちゃな』と言うてた」とかばかり言っていました。椅子に座って首をかしげて「ボクええ顔やろ」と写真撮ったり、腹が立つと思っていました（笑）。体が弱くてすぐ病気になるタイプです。私とは全然違うタイプですが、両親はそれぞれに見事に育ててくれました。弟に聞いても「結婚せえ」とは一言も言いませんでした。アメリカに留学した時は「青い目の人でも、なんぼでも連れてきいや」と言ったのですが、連れてくるどころか、アメリカでは女の人の側にいると大変だと離れて暮らしていたそうです。「女の人が出る時はパツとドアを開けならんし、服も着させならんし、えらいこっちゃ」と言っていました。

弟はおくてというか、そういうことは考えない人間でした。それにもせつつかない。「好きにおし」と言っていました。

弟の結婚にびつくり仰天

その弟が六十歳で結婚しました。すごいでしょう（笑）。東京に来ていた時ホテルに電話がきたのです。

「ボク今度連れ合いと暮らすことにした」

「何それ、結婚するゆうこと?」

「そうです」

と平気な顔をしているのです。

私は弟は結婚に向かない人間だと思っていたのです。冷たいところがあるし。我が家は掃除も家族一斉にやっていて、父は掃除を完璧にやる人でした。弟には乾拭きを言いつけたのですが嫌がって「ボク

は頭脳労働しかない」とか言って、ポケットに手を入れて足で雑巾を動かしているんです。通信簿に「勤労精神がない」と書かれていました。こんな人間と結婚したらえらいこっちゃと、さっそくお相手の方とお会いしました。

その時彼女は四十五歳で、出会ってから十二年がかりだそうです。二の丸の科学技術博物館で部長代行をなさっている方で、そこで弟が天文学の座談会やった時にその方が係で、弟を好きになったそうです。十二年がかりでついに志を遂げられた。とても良い方なんです。私は「弟はこういう欠点があつて、結婚してええ男とは思われないんだけど」と言つたのです。ところがその方は「私、お姉様が……」お姉様ですよ(笑)「お姉様が潤さんの欠点だとおっしゃったところが、私が潤さんの大好きなところなんです」と言われるから「勝手にせえ」と思いました(笑)。

弟ももはや七十になろうとしてますが、結構働いているんです。私が電話をかけて「奥さん呼んで」と言つたら、「ハニー」と呼んでいるのです(笑)。そのハニーが出たので「あんたんとこ、ハニーつて呼ぶの」つて言つたら、「ええ、私はバニーと呼んでいます」(笑)とぬけぬけと。

父に電話して「お父さん、潤が結婚することになったらいいよ」と言つたら、父はその晩眠れなかつたらしいです。母はあの世に行つてましたが、さぞ喜んでいたでしょう。仮に弟が一人でいても両親は平気だつたと思います。そういう世間的なことは「好きにおし」という感じで、全く自由でした。

母無くして父無し、父無くして母無し

父の世話も母の世話も十分にしましたが、それだけに寂しい気になることが多くございます。これだ

け密着して生きてきましたから、死なれますと、私はめそめそしないタイプですが、時々深い悲しみと寂しさに襲われます。でも頑張って生きてることは悪くないな、親たちも見ていてくれるだろうと思います。

母無くして父は有り得ない、父無くして母は有り得ないと思うのです。父はとてもよく働く人で、昔は着物なので、上つ張りも白衣屋でちゃんと注文してきて、働いていたのです。それを見た人が母に「お宅のご主人、ホントにいい方で奥様お幸せね」と言っていました。母は「ああいう父に私がしたんだ」と怒っていました（笑）。

私もそう思います。

父と母のどちらが偉かったかなんて、ばかげた質問をされてもよう答えませんが、やはり母無くして父は有り得なかったと思います。それほど深い影響を父は母から受けている。もちろん母も父から影響を受けましたが、深さという点では母の方が一枚上だと思っています。母は「父といたことが最高の幸せだった」と言って死んだのですが、あのような父で有り得たことに母の力があつたと考えずにはいられません。

母亡き後十一年も父と暮らしていたのですが、これはえらいことでした。

何かというと「ママさんは、ママさんは」と言うわけです。

「私はママさんじゃないんです。寿岳章子なんだから一緒にたにせんといて」と怒るんですが。たまらない寂寥感に襲われていたようです。いくら娘と一緒にいても娘と母は違いますから、その辛さは耐えられないものだったろうと今にしています。女ってすごいなと改めて思います。

私が結婚してたらどうなったかわかりませんし、誰も「結婚しよう」と言ってくれなかったので（笑）、

それはそれでえらいと一人で生きていくわけですが。弟は結婚しても子どもはいないし、寿岳という家はもう一軒、父の弟の家だけで、こども子ともがいまないので、寿岳の家は無くなってしまうんです。

「それは困るんじゃないの」とか、「養子を」とか言われているのですが、寿岳という家がパツと消えてしまうのは、かえって爽快だと思えます。生命力という点では、はかなく生きた一家ではあるけど、私は短い期間でも一生懸命、家族として生きることがどういふことかと追求したファミリーだと思います。二年越しで『寿岳ファミリーかく生きたり』という本を出そうと思っているのですが、なかなか書く時間がないのだけど、がんばって今年中には出そうと思っています。

平和を愛し、憲法を守る

母に関して付け加えますと、平和とか憲法を守ることに抜群の力がありました。政治的に動く人ではありませんが、京都に〈憲法を守る婦人の会〉という蟻川虎三さん時代にできた会がありまして、その人たちが母に会長というか束ねてくれと言いにきたのです。

母はそのようなことはすごくいやな人なんです。私が、「事務的なことは私がやるから、ママさんは平和憲法大好きなんやから、女ががんばらなきゃ」と説得してやらせたのです。母は全くの無所属なんです。その意味で争いに巻き込まれることなく、シンボルとしては雰囲気がいいですからね、たおやかでしかもシャンとしていて。「ええなあ」と思いました。今は私が代表を務めています。

母はさらに小さなサークルを作ったんです。〈平和のために手をつなぐ会〉という名前でした。長い間月一回集まって話し合ったり、学習して、核実験で大変なとき国連総長のウ・タントさんに「平和のた

めに頑張ります」と手紙を書いて、父が英訳して出したのです。

いわゆる華やかに振る舞って旗振ってというタイプではありませんが、密かに志を育てる人でした。よく生涯を生き抜いた人だと思います。一応これで失礼します。(拍手)

「主人」のかわりに使うことばは

斎藤 ありがとうございます。おなかをよじりながらもホロリとして……、ほんとにいいお話でしたね。寿岳さんがなぜこんなに元気で朗らかでパワーがあつて気骨がおりなのか、これでわかったような気がします。どうぞこの機会にご質問、ご感想、何でもおっしゃってください。

A 先生はちつともお変わりなくて、年を取らない方のように見えますが。

寿岳 この間韓国に行こうとしたんですが、旅券が切れて更新するのに忙しくて写真撮る暇がなかったので、あつかましく十年前の写真を持っていって、「最近の写真ですか」「はい、そうです」(笑)と言ったんです(笑)。太っているからごまかしが利くんですよ。

B お母様は「主人」という言い方はなさらなかったとのことですが、外の人に自分のお連れ合いのことを何とおっしゃっていたのですか。

寿岳 「夫」です。

B ではお父様はお母様のことを何と。

寿岳 書く時は小妻と書いていました。男は言いやすいでしょう、妻とか家内とか。家外と言う人もいますが(笑)、文章は妻と言っていました。姓を言う人もいますが、母は「私も寿岳やから」と言っていました。別姓の思想はありませんでしたから。岩橋という姓が好きではなかったので、喜んで寿岳になったようです。

ただ今も困ることだけど、相手のハズバンドを呼ぶ時は「ご主人」という言葉は便利ですね。母は十年も読売新聞の身の上相談をしていたのですが、その時は「ご夫君」と書いていました。口で言う時はどうしてたんでしょう。

私たちの仲間では「夫さん」です(笑)。笑うけど、とても良い呼び方ですよ。お連れ合いというのはきれいだけど現代的ではないですね、長いし。夫さんというと「オットセイか」(笑)と言われて腹が立つんですが。私の知っているグループが使い始めて、私たちはもう平気になってますが。

今の子育てはグニャグニャ

C 今の若いお母さんたちに公的機関が子育てを教育しているようですが、今の子育ての様相をどう思われますか。

寿岳 私の家は今という核家族ですが、母はしっかりしていました。今は、独りぼっちで不安があつて弱いお母さんが多いですね。

国立に伊藤雅子さんというすばらしい社会教育主事がおられて話を聞いたのですが、弱々しくて、子ども一人だけでヒーヒーいって、それなら外に出て知識を得ればいいのに、うちにこもって悩んでいる

お母さんが多いそうです。

そういうお母さんは赤ちゃん言葉で話すそうです。夫が帰るまで子どももしかいないでしょう、「ぼうや、どうちまちようね」なんてね。子ども言葉で話していると心も頭も子どもになつてくると言つてました。「保育もあるから出てきて話し合いませんか」と言つても、出てこない。それでノイローゼになつたりしている。

母はしゃんしゃんと子育てしてましたね。私はおんぶされるか柱につながれてました。おんぶして小説を書いていたといつてました。

弟が生まれた時は、いっぺんも寝床でご飯たべたことがないのです。ねえやさんが一人いたけど、だれかが伊勢海老を持つてきたのにどうしたらいいかわからない。しょうがないから母が、弟を産んですぐなのに伊勢海老を料理していたら、産婆さんがやつてきて「奥さん、誰がお産はつたんですか」とえらく怒られたそうです。

私は姉弟二人でしょう。母に「産児制限したのか」と聞いたことがあるのです。すると「しなかった」と。弟が生まれた後、無理をしたので子宮後屈になつて、それが自ずと産児制限になつたと。それほどすさまじく働いたのです。

今は若いお母さんたちの赤ちゃんの仲間づくり、*「公園デビュー」*なんてあるんですつて？ 好きになさればいいですが——アホらしいとは思うけど——しゃんとすることがもつと必要なのではと思います。七十三歳になつたのでそう思うのかもしれませんが、歯がゆい気がします。

私のところが厳しかったのは、例えば電車の中で寝てしまう子どもを「しょーがないなあ」とか言いながらだつこして降りるでしょう。うちは「歩いていきなさい」言われました。とにかく厳しかった。

汽車の中でものなんか食べさせられませんでした。その点きりと育てられました。今は自由なのはいいけどグニャグニャして。それがもう少し必要ではないかと思っています。

家庭内暴力は我が家では起こり得なかったです、学校はあまり大事に思っていないませんでした。家庭の方を徹底的に信じていました。私の日記を抜き書きしたものを『過ぎたれど去らぬ日々』という本に書きましたが、かなり猛烈な社会批判もしています。学校で習うことと違いましたが、平気でした。学校は適当にあしらっていたというか、学校で習うことには強烈な批判をしていました。その批判の原点は家がありました。それほどものを親は持つべきだと思います。子どもに伝えるべき生き方がないのかと思います。

父に対する「屈折した感情」

D 先生のお父様のご本を読んでいると、イギリスのウィリアム・ブレイクを研究なさっているんですね。大江健三郎さんも心酔なさっているんですね。どういうところに惹かれたのですか。

寿岳 元々ウィリアム・ブレイクに関心を持ったのは柳宗悦なんです。どこかアナキーなところで深い宗教の世界と、この世の権力には動かされない思想。宗教と文学が完全に密着したところに惹かれたのだと思います。終生ブレイクを愛し続けましたから。ブレイクは『神曲』と関係あるのです。最終的に晩年の仕事として『神曲』の翻訳に掛かりました。

ブレイクは神曲の絵を描いているのです。その意味で神を思い、遠く高い世界を描き抜いた人として書いたのだと思います。

斎藤 お父様のどういうところが好きでしたか。

寿岳 実父はあまり好きではなかったのです。完全に母の方が好きでしたね。もちろん子として愛情はあるのですが。

「へんねし」という関西弁があるんですが、父は、僻んだりするところがありました。しかし、私の日記を元にした「いつか来た道」というドラマがありまして——ほとんど嘘っぱちのドラマでしたが——その中で人からもらったチョコレート之父を除いてみんなが食べて、父が僻むところがありました。が、うちでは決してそんなことはしませんでした。食べ物に乏しい時でも必ずみんな一緒に食べましたから、脚本の寺内小春さんを恨みました。

寺内さんに話した思い出の一つですが、戦後いろいろなものが配給になりました。ある時海軍の靴が当たったことがあるのです。母は「これは潤にあげましょう」と言ったのです。弟は靴がほとんどありませんでしたから。父は「ふん」と言って出て行ったのです。「お父さん、どこ行っちゃったの」「靴は自分がほしかったんやな」「ほしけりや、ほしいと言えはいいのになあ」と言っていたのです。

一時間ほどして父が帰って来て、「どこ行つてたの」と言うと、「嵐山行つて、鰻聞いてきた」と言つたのです。それから鰻のテレビがあると「父さんの好きな鰻や、鰻や」と言つてからかったのです(笑)。その話がチョコレートを食べた話に化けたと思うのです。

父はどこか心の底でそういう風にひつかかるところがありました。

ここから言っちゃいますが、私は父に恨みがあつたのです。私は不細工だったのです。御飯食べてると父に「不細工な食べ方や。どぶ猫がめし食うてるみたいや」とか言われて、怒つて箸を投げ付けたことがあります。また弟は、自分は可愛いと思つてるので、姉のことをからかって絵なんか描くので

す。お姉さんの角鼻、大根足とか……。

ある日のこと、戦争中ですが、故郷の寿岳の寺に物資をもらいに行っていたのです。母には絶対買出しをさせずに父が全部やったのです。

父と私と弟と三人で行くことになったとき、弟が私のことをからかって「なあパパさん、こんな不細工なの連れていくの、いややろ」と言つて、父も「ああ、そうやな」とか言つたので、私は天地も裂けんばかりに泣いたのです。母がとんで来まして「何や、どないしたん」。「お父さんがこう言つたん」と言う、母がものすごく怒りまして、父も悪かったと謝つたのですが、私は終生恨みました（笑）。

結果としては私は父を、母を愛した人として間接的に評価しているのです。最後の十一年間は言いたいことを言つて大げんかしたこともありまし、父が泣き出したこともあります。だから、父が亡くなつてこんなに悲しいとは夢にも思わなかつたのです。

そして『想父記』という本を出しました。「父の日」の前の週の日曜日に講演で宇部に行ったのですが、飛行機の中でお菓子が配られました。そこに「父さんありがとう」と書いてあつて、それを見ると涙が出て止まらなかつたのです。

別の意味の愛情がわいたのだと思いますが、母への愛と違つて、父への愛は屈折しているのです。それでもやはり、母をあれほど愛した人として、誰よりも素敵な父だと思つています。

次回はぜひリサイタルを

斎藤 私は寿岳先生つて、可愛い方、そして優しい方なので大好きなんです。今日発見したのですが、

お声もすごくきれいなんですね。

寿岳 はい。声はきれいです。私は子どもの時から音楽が大好きで、歌が好きなんで、コンサートしたいなと思っていたのです。三年前に本当にやっただです。童謡を歌ったんです。二百人も来て、二千元ももらったので税金納める羽目になりましたが。

その時は十七曲歌ったんです。それにミニ講演がついているのです。例えば、「柴の折戸の賤が家の」という子守歌には「その頃から役割分担があつたのです」(笑) という話をして。最後に「冤追いしかの山」をみんなに歌ってもらつて、「これはきれいな歌です」と言いました。志を果たしていつの日にか帰らん、帰りたければさつさと帰ればいいではないか(笑)。志を果たすなんて角柴を思い出すけど、古いタイプの男の歌ですよと意地悪言つたのですが。

テープを作つたのですが、五十本即売しました。それを朝日放送の人が聞いて、私この二十三日にラジオで歌うんです。残念ながら東京では聞こえません。

それから作詞もしたんです。野田じゅんこさんという素敵なシンガーソングライターが曲を付けてくれました。「輝く日々に」という二千年の女の歴史を詰めてあるのです。「今まで悲しい苦しいと泣きかけたただけ女の時代が来た」という歌なんです。「女に生まれた喜びの歌を歌おう」という歌なんです。

斎藤 この次は日比谷公会堂でリサイタルを開きましよう。ありがとうございました。(拍手)

(一九九七年九月十一日 四谷区民センターにて)

(この方に「母を語ってもらいたい」というご希望をお寄せください。男性でも結構です。)

語りかけたいあなたへ

大里知子

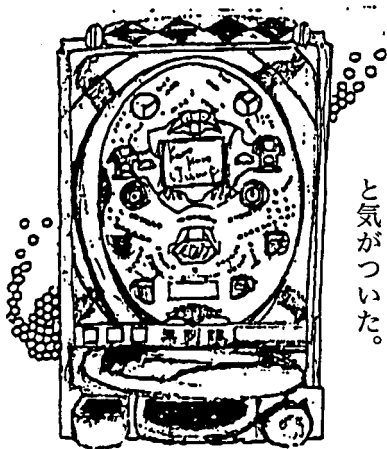
パチンコ

不自由じゃない人のすることを、フルコースで全部体験してやろうと、意気込んでいた時から行っていたスナックもパチンコ店も、近頃はすっかりご無沙汰をしている。その理由は、すべて私の体調が悪いことからきている。

そして、今はもう手が大分自由がきかなくなったため、パチンコができなくなったことは、この上ない残念なこと。もともと賭けごとが嫌いな方ではないので、パチンコはたのしい。

パチンコ店に行くとき甲高い歌謡曲と、パチンコ玉をハジク音しか聞こえない。そういう中で自分のパチンコ台の玉の行方だけを、ひたすら目で追いもとめるとき、自分が今切実に悩んでいることも、くよくよ考えていることも、みんなきれいなサッパリと忘れられるところが、パチンコの魅力なのだと自分勝手に解釈している。

私にパチンコを付き合ってくれる人は、そんなに多くいるわけではない。もう、私と長い付き合いあいの、内藤新次さん、門脇浩さん、姉（則子）の三人なのである。パチンコ店の椅子は固定してあるのだけど、一か所、ちゃんと椅子が取りはずせて車いすが入れるスペースが出来ている。



パチンコは、玉が出れば面白くてやめられないし、反対に玉が出なければ、もうすこし続けたら勢いよく出てくるのではないかと思つて、やめられなくなる不思議な力を持っていると思う。私は、玉が出ても結局みんななくなるまで、やつてしまうから、景品とはいつものなかなかとりかえられないのだけど、一度だけ、玉を三千円買つてやつていたら、思いがけなく玉が出て六千円ぶんくらい、景品と取り替えたことがある。こういうことは後にも先にも、これっきりだった。

ある日のこと、電動車いすで街を駆けていたら、どこかの知らないおばさんに擦れ違つて声をかけられた。そのおばさんは、右手の親指を立て上下に動かして「これさ、行つてきたのか？」を連発した。でも、私はとつさのことで何のことか分からず、ただにこにこ生へんじをするばかりだった。

そして家へ帰つてきてからもしばらく考えて、はつと「そうか、パチンコのことだったんだつ」と気がついた。

それから、これも電動車いすで散歩している時に、私が以前入つたことのあるパチンコ店の前を通りかかると、ちょうど水まきをしていた従業員に「寄つていってください」と、声をかけられてしまった。車いすで入るから特徴があり過ぎて、一度で印象づけてしまうのかもしれない。その反面、車いすでパチンコ店に入るのは、花輪では私ぐらいのものかと思うと、少し寂しくもある。

こんなたのしいことを体験させてもらった内藤新次さん、門脇浩さん、姉に、心から感謝する。

(一九九七・十・十五)



アジアの平和を「蓮」と「星」と「太陽」に託して

九月の初め、ブルネイ・カンボディア・インドネシア・ラオス・マレーシア・ミャンマー・フィリピン・シンガポール・タイに、日本の沖縄が加わって、ASEAN三十年を祝う国十一かの民族舞踊を一堂に観る機会に恵まれた。

第一部は、「アジアの平和の夜明け」。虹のように美しい色彩を背景にそれぞれの国を代表する超一流の舞踊団が、みやびやかな宮廷舞踊を披露する。「蓮の花咲く国から光り輝く平和へ」のメッセージどおり、どの国もまばゆいほどの美しさ。場内にため息があふれる。

第二部は、「響けアジアの平和の鐘」。舞台狭しと二百名が勢ぞろい。アップテンポのリズムの民族の踊り。そのいのちの輝きに、客席で手を振り足を動かす人もいるほど。

十一か国それぞれ特徴をもった楽器による「アジアオーケストラ」の後、グランドフィナーレ「平和の蓮に包まれて」。

全参加者が再び舞台に出て、舞い、演じ、最後は踊りながら客席に繰り出す。踊り手も観客も一体に。からだを心の中から揺さぶられたような感動で、終わった後も客席を立つ人がいないほどだった。





アジアだった。どの国の音楽も、どの国の踊りも、私たちのからだを流れる血と、たしかにつながっていた。そして、日本を代表して登場した沖縄は、その優雅さで、まさにASEANそのものだった。スペイン文化の痕を濃く残したフィリピンのダンスを除いては、どの国も、指、手のひらの使い方の美しいこと。西洋が下半身の舞踊だとすると、アジアはすべて上半身の踊り。そして、民族の歓喜と、大きな天の力への祈りにあふれている。

ずっと昔から、このようにアジア諸国と交流していたら、日本はあのような無謀・無残な戦いをすることはなかったろう。

ASEAN諸国には、今もミャンマー・カンボディア・ティモールのように重い雲に包まれているところもあるけれど、五十二年前、これらの国はタイを除いて、イギリス、フランス、アメリカ、オランダ等々の植民地だったことを思うと、戦争という辛苦を経て、すべてが独立国になったこと、苛酷な植民地支配を受けながら、それぞれの国がそれぞれの伝統を守りぬいていたことに深く感動した。

ASEAN三十周年を祝う国費の援助で、私たちも貴重な公演を観覧できたが、全国を回ると思われた公演が、東京の一回だけで終わり、テレビの中継もなかったのは、残念だった。(1)

(1997年9月4・5日)

東京厚生年金会館大ホール



住民が選択した 町の福祉

羽田澄子監督

自由工房1997年作品 カラー16mm 129分

秋田県鷹巣町は人口二万三千人。町としては秋田で一番大きい。この町で若き町長、岩川徹氏が当選した直後の一九九一年から話は始まる。

「福祉のまちづくり」を掲げて初当選した町長は、町民の声を反映させることに積極的。さっそく町民の自由参加による「ワーキンググループ」を募った。集まった町民は百人以上。七つのグループに分かれて、老人や障害者に対する町の問題点を調べ始めた。解決法は、①すぐにできるもの ②頑張ればできるもの ③町の予算化が必要なものに分けられ、政策に反映された。家庭訪問の看護ヘルパーも七人から四十一人に増え、まずは順調な滑り出しに見えた。

ところが、町長が提唱した「ケアポート構想」が、議会の猛烈な反対にあってしまふ。この構想は、笹川財団から十五億円の補助金を受け、総予算四十億余で

全室個室の特別養護老人ホームを含む総合福祉施設を建設しようというもの。議会は、この予算案を否決してしまった。この背後にあったのは、前町長派とのあつれきだということが、次第に明らかにされていく。長期政権だった前町長を、いわば「まぐれ」で破った岩川町長だが、議会の過半数は前町長派である。

次期町長選をひかえた九三年、前町長派は「地方自治法百条委員会」を作って町長の行動をチェックし、激しく糾弾した。岩川町長の対抗馬には、前町長直系の藤島氏が立った。

窮地に立たされた岩川町長を支えたのは、ワーキンググループの町民たち。九四年、激しい選挙戦に町は燃え、投票率は八九%近く。岩川町長は大差で再選された。これが町民の出した答えだった。

しかし、町議会の過半数が前町長派であることには変わりない。ケアポート構

想を練り直し、町と県の予算だけで、より在宅ケアに近い形に近づけた「ケアタウン計画」も、候補地の選択に難色を示した議員が多く、予算は否決された。

福祉推進に期待する町民たちも、さすがに苛立った。四百人が抗議集会に集まり、「議会を変えよう!」「出たい人より出したい人」と、熱気のこもった討論。折しも、町議会選挙直前だった。

九六年の町議会選挙は新人が十四人も立つ激戦。女性候補三人のうち二人は、ワーキンググループに関わった女性だった。今まで政治など関わったこともない女たちが、候補を支えてピラをまき、お願いに回る。投票日前日の「やるだけやっただ」という清々しい顔、顔、顔。

投票が済んだ。開票が始まる前から、開票所につめかける町民たち。開票速報にいちいち「ウォー!」「エー!」。しかし、一部候補に票が集まりすぎたため、

町長派が過半数には至らなかった。女性候補も一人は落選、涙を飲んだ。



町長は再び、ケアタウン計画を議会に提出。応援派町民が議会につめかけ、議員一人一人にお願いと激励をした。その結果……中間派議員が町長支持に動き、ついにケアタウン予算が承認された。三

年間、長い攻防の末だった。この間、訪問ヘルパーは五十一人に増えていた。

*

鷹巣町のほかに、羽田監督は二つの自治体を取り上げている。長野県北佐久郡御牧村と、東京都板橋区である。

御牧村には、「ケアポートみまき」がある。この施設は、村に温泉が出たときに、その温泉を観光ではなく村民のために使えないか……という村の女性たちの要望に応えたもので、鷹巣町が断念した全室個室の特養老人ホームのほか、村民の交流センターとしての役割も果たし、温泉プールまで備えている。

鷹巣町の岩川町長が視察に来る映像とともに、施設の各部分が紹介される。特に老人ホームの個室には愛用の家具などが持ち込まれ、羽田監督の記録映画「安心して老いるために」に出てきたデンマークのホームを彷彿とさせるもので、

日本でもこういう自治体があったか……
と思わせる施設だった。

大都市の例としてあげられた板橋区の
「おとしより保険福祉センター（おとせ
ん）」は、五十万人の区民の要請に応えよ
うと悪戦苦闘。このセンターが入りやす
く、相談しやすい雰囲気を持っているの
が区民に信頼されているようだった。二
十四時間ケア体制も、民間病院と提携し
て徐々につくられつつあるが、センター
だけでは対応できず、サテライトセン
ターが必要な状況だそうだ。

*

再び、鷹巣町の話に戻る。

三年間の攻防の末、ようやくスタート
ラインに立った「ケアタウン計画」だが、
映画の最後にワーキンググループの町民
も、議員も、「三年間は必要な期間だった」
と異口同音に言ったのが印象的だった。
若く理想を追いがちの町長が打ち上げた

アドバルーン……。古参議員には、苦々
しい福祉政策だったようだ。今でも議会
は両手を上げて賛成ではないが、攻防の
中で町長も、議員も、町民も、それぞれ
が民主主義を学び、鍛えられ、町にとつ
てより良い、地に足のついた福祉を考え
られるようになったということだろう。

羽田監督は、それぞれの動きを丁寧
に追っている。その合間に、ヘルパーと老
人たちのふれあい、ケアする家族の苦勞、
ワーキンググループの調査活動などを挟
み込んでいる。小学校の跡地を利用した
新しい福祉センターに集うお年寄りのく
つろいだ笑顔は、この町の福祉の確かな
前進を物語っていると思う。

「安心して老いるために」は、デンマー
クとスウェーデンの、いわば「完成され
た福祉」を紹介したもの。そのレベルの
高さには、ただ感心し、程遠い日本の現
状にはため息しか出なかったものだ。

それに対して「住民が選択した町の福
祉」は現在進行形。もし、岩川町長が選
挙で負けたり、ケアタウン計画が否決さ
れたままだったりしたら、映画は全然違
うストーリーになっていただろう。もち
ろん羽田監督は、町民の選択を信頼して
撮っていらしたのだと思うが……そう
思うと、スリリングな映画である。

岩川町長のやり方がすべて正しいとい
うわけではないだろうが、これからの鷹
巣町には目がはなせない。羽田監督の「鷹
巣町・続編」を、ぜひ見てみたい。

（芦澤礼子）

◆フィルム貸し出しができます。

一回上映につき二十万円、同日二回上映
三十万円（消費税、送料は上映者負担）
〈問い合わせ〉自由工房

〒150 渋谷区南平町一五一
TEL 03・3463・7543

〔最近の女性集會に想う〕

十一月は日本各地でさまざまな女性たちの集會が花盛りだった。

◆国立婦人教育會館は設立二十周年を記念して、十四日から十六日にかけて世界各地からスピーカーを招いてシンポジウムを開催した。開會式には森田健作文部政務次官が来賓として臨席され、會館事業に縁の下の力持ちの役割に徹した国立婦人教育會館ボランティアが表彰された。NHKのニュースによれば、スピーカーからの要望として、インターネットを活用して日本の女性情報について積極的に発信してほしいとのことだった。

◆十四日と十五日、女性問題全國都市會議が松戸市森のホールで開催された。松戸市内の団体を総動員したほか、都市の女性問題関係者が参加した。名取はにわ総理府男女共同参画室長の基調講演は隠し玉で、人寄せにはイーデス・ハンソンさん、向井宇

宙飛行士のおつれあい、司會にNHKの小宮山洋子さん、という苦心の企画とは主催者の弁であった。

◆東京ウィメンズプラザでは、十五日に國際婦人の地位協會設立十周年記念國際シンポジウムが開催された。最初に會長の赤松良子さんが私財一千万円を投じて創設された、赤松良子賞の第一回受賞者の授賞式がおこなわれた。名譽ある第一回受賞者は國連NGO國內婦人委員會委員長の中村道子さん。女子差別撤廃條約の審議に政府代表として直接加わり、條約の翻訳をして日本に伝え、その批准のために尽力されたことが評価された。

自然科学の猿橋勝子賞に十八年遅れたとはいえ、社会科学の赤松良子賞の設立は記念すべき事と思う。今後は若い女性を励まし力を貸すようなシステム作りが期待される。人材の育成には二十年のスパンが必要とのことで、大学の政治学科の学生を励ま

し、訓練し、資金援助をつづけるアメリカのエミリーズリストのようなシステムが、日本でも必要だ。

地盤・看板・カバンといわれる日本の選挙風土では女性はおたくても出られない。そういう風土を変え、人材の育成システム作りに着手すべき時である。

◆労働省では、田町の国鉄跡地に「女性の歴史と未來館（仮名）」を財団法人婦人少年協會に託して準備中である。歴史と未來の間の現在が欠落しているのが気になるところだが、準備段階の今から広く意見を聞いて欲しいものである。特に女性の労働条件はきびしいうえ、生涯賃金も男性の半分ということを考え、現状打破から話は始めたものである。

◆このようにあちこち會議をわたり歩き、実際にはなにも実行できない人たちを称して「アバンセ族」というらしい。

公開された男女共同参画審議會で知った

情報をもとに、総理府男女共同参画室の存

亡をかけた行革の進行に危機感をおぼえ、

諸外国の実情をも勘案し、「平成十年男女共

同参画室の予算の増額、権限の拡大、及び

定員の増加に関する請願」を企画した。亀

田温子氏、角田由紀子氏、船橋邦子氏に請

願者代表をお願いし、署名運動を展開した

ところ一万人の署名を集めることができ、

総理府の請願受付に託した。集会ごとに宣

伝し、署名を集めて下さった船橋さんはじ

め、ご協力頂いた方々に紙面をお借りして

お礼申し上げる。(松戸市 野村三枝子)

「フィリピンの人々に支援を！」

現在、フィリピン・メトロマニラ地域の

ロングス、レトレ、トゥガトゥク川地域の

三つの小川地域で、住居破壊・強制立ち退

きが行なわれようとしています。それに

よって影響を受ける人びとは八千世帯にも

のぼります。この住居破壊・強制立ち退き

は十二月十九日に行なわれることになって

います。驚いたことに、その地域のリーダー

と市の役人が会合を開きこのことが明らか
にされたのは、つい先日(十一月二十六日)
だったのです。

この三つの小川はこの町の洪水防御計画
地域に指定されていると、今年の七月二十
二日に、その地域の技術者がバラボン市の
市長、アマド・ヴィンセンシオに伝えたこ
とが、フィリピン住民側の調査でわかりま
した。市長はこれを秘密にし、住人に知ら
せることなく住居破壊の同意書に署名した
のです。

日本政府が七百億ペソもの資金を出して
JICA(日本国際協力事業団)にこの開
発計画でやらせていることは、住居破壊と
住民の一掃でした。住民は追い出された後
に住む場所さえ与えられていないのです。
このままでいけば、外国支援型ラモス政府
は二万世帯の人びとを強制的に立ち退かせ
ることになるでしょう。

日本政府が開発という名のもとにフィリ
ピンの人びとの人権を踏みにじっているか
らこそ、日本に住む一般人である私たちは

少しでも心からの支援の声をフィリピンの
民衆に伝えたいと思っています。そのあた
たかい思いが届きますように、支援をお願
いしています。住居破壊、強制立ち退きの
前後に必要な資金援助をお願いいたしま
す。送金先は郵便振替でKAMPPI 14
110-6-8179511です。

(大阪 サンディ・サカモト)

長橋之男さんを悼む

長橋さんが亡くなったと聞いて、私は絶
句した。お詣りにうかがはなくては、と思
いながら、足が動かなかった。

長橋さんは、もう十年近くがんを患って
おられた。最近手術をなさった時は、その
後のご衰弱にただうるたえ、かねてお約束
していた民話の本を急いで出した。中央郵
便局の外国郵便課に勤めておられた長橋さ
んは、作家(美森成生さん)だった。その
作品『菜の花と雷さま』の編集をお手伝い
してから、その後の作品もBOCで出版し
ます、とお約束していた。お預かりした民

話は、四人のデザイナーによってそれぞれユニークな絵が完成し、もうひと息ですてきな本になるところまで来ていた。それが完成しなかったのは、私の真心が足りなかったから―その一言に尽きる。どんなにお詫びしても許されることではない。

私の周辺の者が次々に長橋さんと同じ病気になる、私自身も病んだ。親しい人びとが「がん」とわかった時には動転したが、自分ががんになってから、私は妙に落ち着いていた。がんにかかったからといって、そんなに早く死ぬものではない、という思い込みのようなものができてしまった。同時に、生きているうちにしなければならぬことが次々に押し寄せて、そうでなくとも忙しかった私に、真つ白な時間はほとんどなくなってしまった。やさしい長橋さんはそんな事情を察して、一言も督促をなさらなかったのだと思う。亡くなられて初めて長橋さんのやさしさが身に沁みる。

長橋さんに出会ったのは、〈BOC〉の事務所を開いてまもなくだった。BOCでは

婦人問題懇話会やテアトロの研究会を毎月開いた。長橋さんはテアトロの同人で、注目の戯曲作家だと紹介されたが、いつも黙々と静かで、作家の持つ華やかな雰囲気はなかった。しかしお話は軽妙でユーモアにあふれていて、しかも味があつた。俳優の宇野重吉さんに似た方だった。そして、『あごら』が出るとすぐ会員になってくださった。〈あごら〉は、初めから「男女共同参画」を掲げていて、男性を拒んだことはないが、なぜか全会員の一・五%しか男性はいない。その貴重な一人を失った。

ことし〈あごら〉は、ほんとうに大切な会員を五人も失ってしまった。伊東すみ子さん、白井博子さん、長橋之男さん、鶴間史子さん。そして〈あごら〉創刊以来、親のような愛情を注ぎ続けて下さった九十六歳の竹内富さんも旅立たれた。去年は長野土石流事故の三老女を偲んで喪に服したが、ことしはこれの方々をお偲びして、やはりお屠蘇もお餅ものどには通るまい、と思っている。

(斎藤千代)

*

BOCの会員登録を再開

あごらの出発点〈BOC〉は、一九六〇年、女性の「創造力」を社会に造りだすことを目指して起業、六四年に法人化、株式会社BOC（創造力の銀行）バンク・オブ・クリエイティビティ）として、「花を咲かせるよりもまず根を張ること」をモットーに、四十年近く基礎づくりを続けてきました。が、経済的にも一応安定、人脈ネットワークも出来ましたので、しばらく中止していた「会員登録」を再開することにしました。

あなたの「創造力」（事務・ファイリング・経理・ワープロ・パソコン・翻訳・出版・営業等、社会的に認知されているものから、「買物上手」「おとしよりの話し相手」等々まで何でも）をどうぞご登録ください。ご希望の方は、ハガキでお申込を。規約と登録用紙をお送りします。

毎月一定額以上の活動をなさる方には、健康保険、年金、その他の社会保険をおつけします。

〈BOC〉の社債を買ってください

金融界の不祥事が続々発覚、銀行にも郵便局にも、お金を預けたくないという声もよくききます。

創業四十年をひかえ〈BOC〉ではいま、長年の借ビル住まいを改め事務所を建てる計画を立てています。

社債をお買上げ頂きますと、たいへん助かります。あなたの貴重な財産も、良心的な女性企業を助けることに役立ちます。ご支援頂ければ幸いです。

額面は十万円単位。何口でも結構です。二年間、元本保証で、金利は年一・五%です。

*

〈BOC〉の支社長候補を募集中

〈BOC〉では、いま全国規模で取材活動等を行っています。仙台・新潟・名古屋・大阪・沖縄等では、支社準備ができました。地域の人物やイベントの取材をしたり、地域でBOCに登録した方をまとめる方、簡単な職歴を書いて、ご連絡下さい。

（あごら）の会員に限ります

*

〈BOC〉で編集者のインターンを募集中
編集者として働きたい方。いま〈BOC〉でインターン生を募集しています。現在学生の方も可。「あごら二世」は、とくに歓迎します。ご都合のつく時間に出勤、有給です。

*

「あごら」の編集者を募集します

来月から各項目の担当者を、会員の中からお願いすることにしました。巻頭言、母を語る、意見異見、沖縄から、阪神から、集会から、TOPICS、気になる英語、女（め）じゃーなりすとのめ、あごらのあごら等々、何か一つ以上担当して下さい。また、ご連絡ください。〈あごら〉は全部ボランティアで運営していますので、謝金は出ませんが、通信費等、実費はお払います。また年会費を免除します。新しい項目のご提案も大歓迎！ FAXまたはEメールをお持ちでしたら、地方の方でも結構です。

「おわび」

◆233号「意見・異見」の「歴史認識と心理学」で間違いがございました。お詫びのうへ、訂正させて頂きます。著者の玄智文さんにご迷惑をおかけしたことを、紙面を借りてお詫び申し上げます。

〈3行目〉「精神病患者であり……抱えている」の鍵カッコをとる

〈5・15行目〉「論理」を「倫理」に

〈六行目〉（詳しくは……されたい）のカッコをとる

コをとる

〈11行目〉「愛している」の鍵カッコをとる

〈22行目〉「天皇にも……じゃないか」の鍵

カッコをとる

〔編集後記〕

◆またまた遅れが出てしまひまして、たいへん申し訳ございません。北京会議の調査は、NGOの調査もまだ終わっていないので、ご協力いただける方は、事務局にご一報をお願いします。（礼）

新沖縄フォーラム

けーし風 第十七号

特集Ⅰ 検証・独立論

〈座談会〉新川 明・新崎 盛暉・屋嘉比 収

〔司会〕岡本 恵徳

特集Ⅱ 海上ヘリ基地はいらない

「海上ヘリポート」とは何か（亀山 統一）

〈座談会〉いのちを守る女たち―（宮城清子／許田節子／金城美恵子／当山佐代子／聞き手・浦島悦子）

特集Ⅲ 全県FTZ構想をめぐる

（反対意見）金城睦／土田武信

（賛成意見）内海正三／大城昌敏

・シマダより・北の風・南の風 門別徳司・裕司・孝司
高良勉／上原成信・論点 仲地博／新崎盛暉／岡本恵徳
屋嘉比収・ひと玉城珠恵さん（新崎恵子）・ひろは黄金
森劇団（新垣敏）・南風原文化センター通信 平良次子
会員・読者の声 佐喜眞美術館だより

沖縄この三ヵ月

■ 定期購読の申し込みは、ハガキかFAXでお願いいたします。
定期購読者は一年間四号分（二千円）または二年間八号分
（四千元）を郵便振替（0206001019027）で送
金してください。＊バック・ナンバーあり。

新沖縄フォーラム刊行会議

〒902 那覇市国場五五五番地 沖縄大学地域研究所気付

TEL/FAX 〇九〇 八三三一 一五七八

あごら 234号 ●発行 1997年12月10日

●編集 あごら新宿

●発行所 あごら MINI 編集部 〒160 東京都新宿区新宿1-9-4

●TEL 03-3354-3941 ●FAX 03-3354-9014 ●振替 00100-0-5264

●定価 本体1143円＋税

この ひろい宇宙に
たった一つの地球
その 大きな地球に
たった一人のわたし
そして あなた

かけがえのない地球
かけがえのないわたし
かけがえのないあなただから
たいせつに たいせつに しよう
あなたも
わたしも
地球も

たった一度きりの人生だから
思いきり
のびやかに生きよう

だれもが だれをも
ふみしだくことなく
胸の底まで深く息をし
ああ 生きててよかったねと
ほほえみあえる地球にしよう

へあこら

人と人の出会うひろば

へあこら

人と人の共に生きるひろば